

取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

CAMRY

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方 11
検索のしかた 12
イラスト目次 13

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 25
シートベルト 27
SRS エアバッグ 31
排気ガスに対する注意 37

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 38
チャイルドシート 39

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 53
ハイブリッドシステムの注意 57

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 61
オートアラーム 62

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 66
計器類 70
マルチインフォメーションディスプレイ 74
エネルギーモニター／燃費画面 81

3 運転する前に

3-1. キー
キー 86

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 89
トランク 93
スマートエントリー&スタートシステム 96

3-3. シートの調整
フロントシート 102
リヤシート 103
ヘッドレスト 104

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 107
インナーミラー 108
ドアミラー 109

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 111

3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 114
マイセッティング 117

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 121
荷物を積むときの注意 128

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 129
EV ドライブモード 134
ハイブリッドトランスミッション 136
方向指示レバー 139
パーキングブレーキ 140
ブレーキホールド 143

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 145
AHB（オートマチックハイビーム） 149
フォグランプスイッチ 152
ワイパー&ウォッシャー 152

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 157

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する 160
Toyota Safety Sense 162
ドライバーモニター 170
PCS（プリクラッシュセーフティ） 172
LTA（レーントレーシングアシスト） 181
LDA（レーンディパーチャーアラート） 186
PDA（プロアクティブドライビングアシスト） 191
発進遅れ告知機能 196
RSA（ロードサインアシスト） 198
レーダークルーズコントロール 201
クルーズコントロール 211
ドライバー異常時対応システム 215
BSM（ブラインドスポットモニター） 217
後方車両接近告知 222
周辺車両接近時サポート（通報提案機能） 225
後方車両への接近警報 228
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） 230
安心降車アシスト 232
クリアランスソナー 236
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 242
RCD（リヤカメラディテクション） 247
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 251
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物） 255
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 257
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者） 258
ドライブモードセレクトスイッチ 260
運転を補助する装置 261
プラスサポート（販売店装着オプション） 266

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 271
寒冷時の運転 273

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 278
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーション 284

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 286

5-3. 収納装備

収納装備一覧 289
トランク内装備 292

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 294

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 306
内装の手入れ 309

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 312
ガレージジャッキ 314
ウォッシャー液の補充 315
タイヤについて 316
タイヤの交換 325
タイヤ空気圧について 330
エアコンフィルターの交換 331
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 333
電子キーの電池交換 335
ヒューズの点検・交換 337
電球（バルブ）の交換 339

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 342
非常点滅灯（ハザードランプ）... 343
発炎筒 343
車両を緊急停止するには..... 344
水没・冠水したときは 345
車中泊が必要なときは 346

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 347
何かおかしいと思ったら..... 351
警告灯がついたときは 352
警告メッセージが表示されたときは 360
パンクしたときは 372
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 382
キーをなくしたときは 383
電子キーが正常に働かないときは 384
補機バッテリーがあがったときは 386
オーバーヒートしたときは..... 391
スタックしたときは 394

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 398

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 401

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 415

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 418
アルファベット順さくいん 421
五十音順さくいん..... 423

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

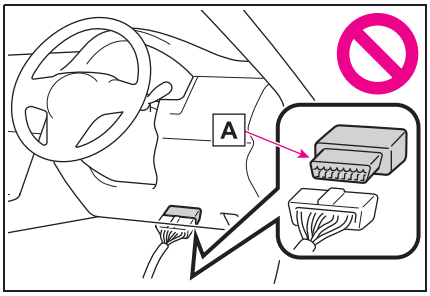
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータ（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ※1

※1グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）※2

※2車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は記録されません。

■ Toyota Safety Senseによるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全シス

テムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム
● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.266）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。
商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。
なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO_2 排出量の低減が見込まれます。
持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html



QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

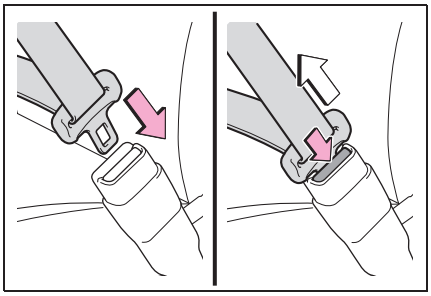
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

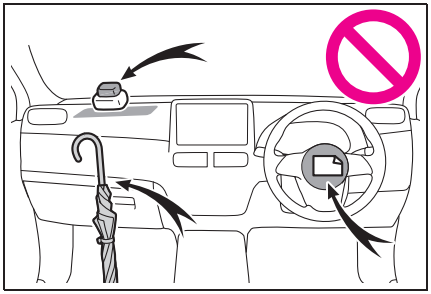
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

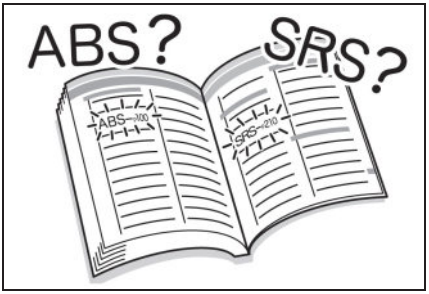


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	**してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでください**という意味です。

検索のしかた

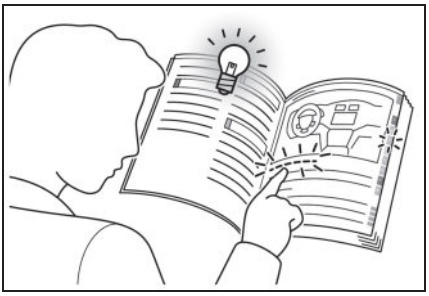
■ 名称から探す

●五十音順さくいん : →P.423
●アルファベット順さくいん : →P.421



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次 : →P.13



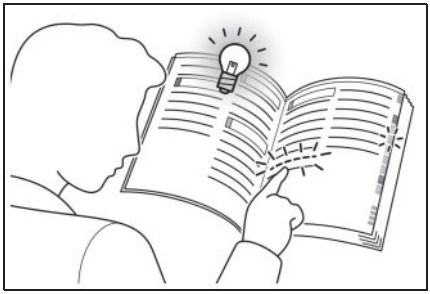
■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：
→P.418



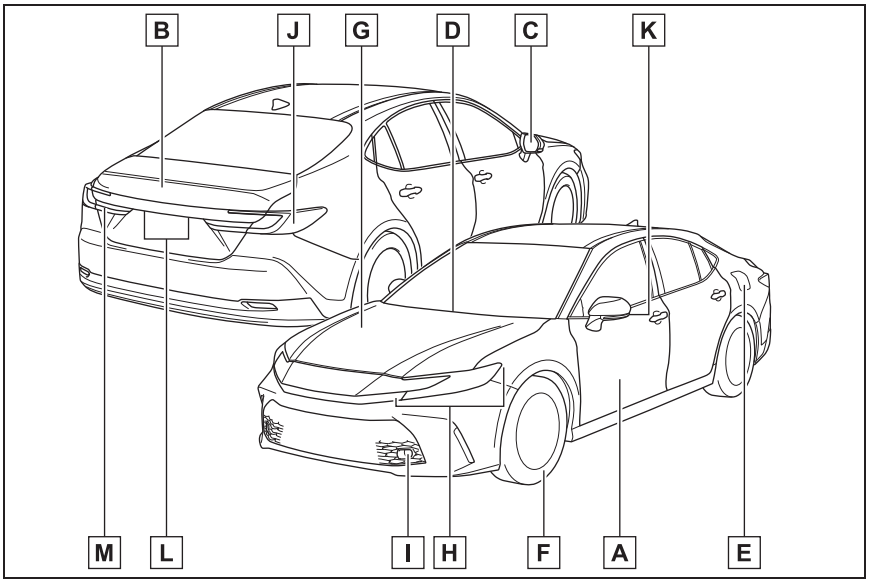
■ タイトルから探す

●目次 : →P.2



イラスト目次

■外観



A ドア P.89

施錠／解錠 P.89

ドアガラスの開閉 P.111

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.384

警告メッセージ P.92

B トランク P.93

車内から開ける P.94

車外から開ける P.94

警告メッセージ P.96

C ドアミラー P.109

鏡面の角度調整 P.109

ミラーの格納 P.110

曇りを取る（ミラーヒーター）★ P.279

D ワイパー P.152

冬季の注意 P.273

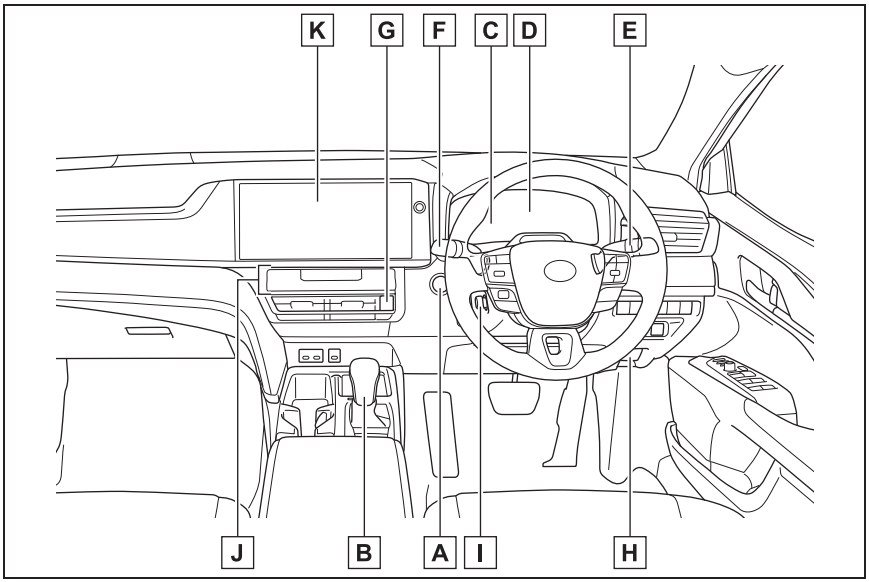
E 給油口 P.157
給油方法 P.158
燃料の種類／燃料タンク容量 P.398
F タイヤ P.316
サイズ／空気圧 P.400
冬用タイヤ／タイヤチェーン P.273
点検／ローテーション／空気圧警報システム P.316
パンク時の対処 P.372
G ボンネット P.312
開け方 P.312
エンジンオイル P.398
オーバーヒート時の対処 P.391

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.339）

H ヘッドランプ／デイタイムランニングランプ P.145
方向指示灯 P.139
I フロントフォグランプ P.152
J 制動灯／尾灯／リヤ方向指示灯 P.139, 145
K サイド方向指示灯 P.139
L 番号灯 P.145
M 尾灯／後退灯
シフトポジションをＲにする P.136

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



A パワースイッチ P.129

ハイブリッドシステムの始動／モード切りかえ P.129

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.344

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.382

警告メッセージ P.360

B シフトレバー P.136

シフトポジションの切りかえ P.136

けん引時の注意 P.347

シフトレバーが動かないときの対処 P.137

C メーター P.70

見方／明るさの調整 P.70

警告灯／表示灯 P.66

警告灯点灯時の対処 P.352

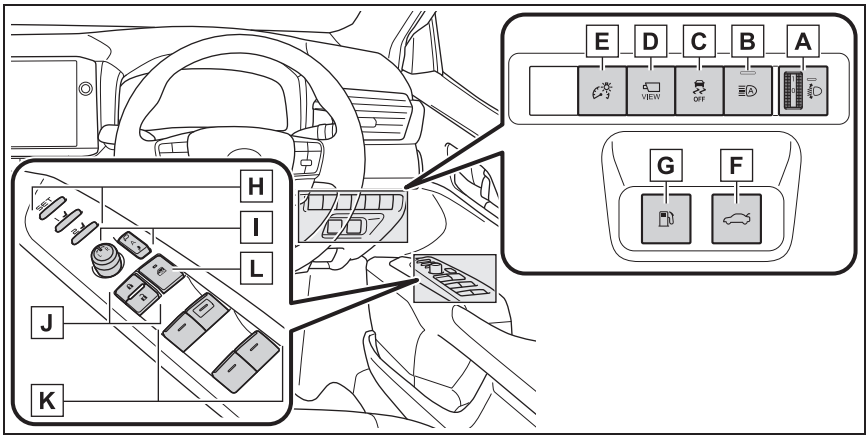
D マルチインフォメーションディスプレイ P.74

表示内容 P.74

エネルギーモニター P.81
警告メッセージ表示時の対処 P.360
E 方向指示レバー P.139
ランプスイッチ P.145
ヘッドランプ／車幅灯／尾灯／デイタイムランニングランプ P.145
フロントフォグランプ P.152
F ワイパー&ウォッシャースイッチ P.152
使い方 P.152
ウォッシャー液の補充 P.315
G 非常点滅灯スイッチ P.343
H ボンネット解除レバー P.312
I ハンドル位置調整スイッチ P.107
J エアコン P.278
操作方法 P.278
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.279
K オーディオ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



A 手動光軸調整ダイヤル P.148

B オートマチックハイビームスイッチ P.149

C VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.262

D カメラスイッチ★※

E インストルメントパネルライトコントロールスイッチ P.74

F トランクオープナースイッチ P.94

G 給油扉オープナースイッチ P.158

H ドライビングポジションメモリースイッチ★ P.114

I ドアミラースイッチ P.109

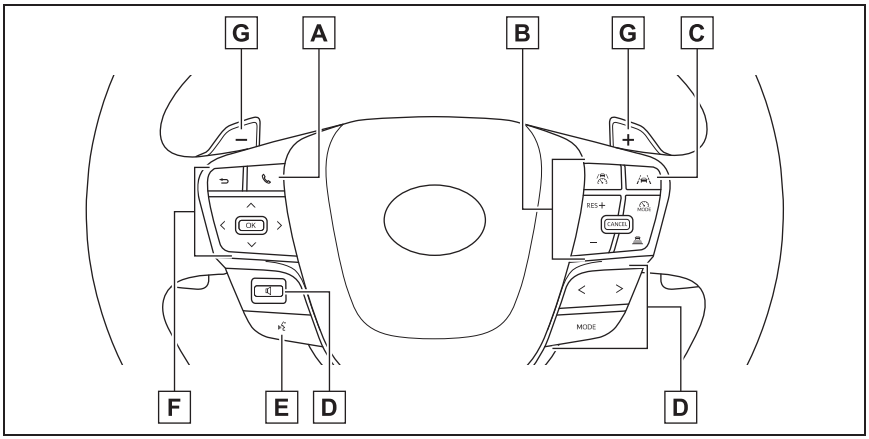
J ドアロックスイッチ P.92

K パワーウインドウスイッチ P.111

L ウインドウロックスイッチ P.113

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A 電話スイッチ※

B クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.201

クルーズコントロール P.211

C LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.181

D オーディオスイッチ※

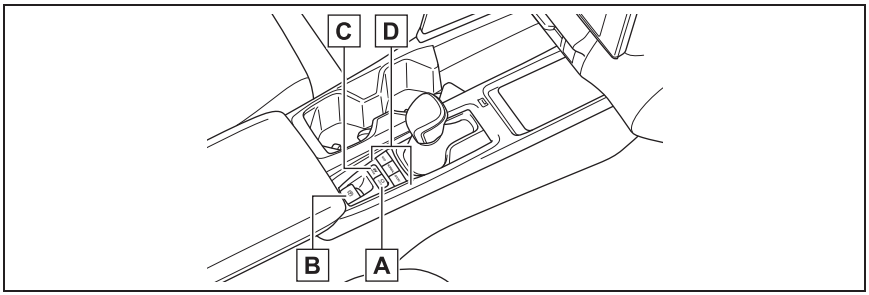
E トークスイッチ※

F メーター操作スイッチ P.75

G パドルシフトスイッチ★ P.136

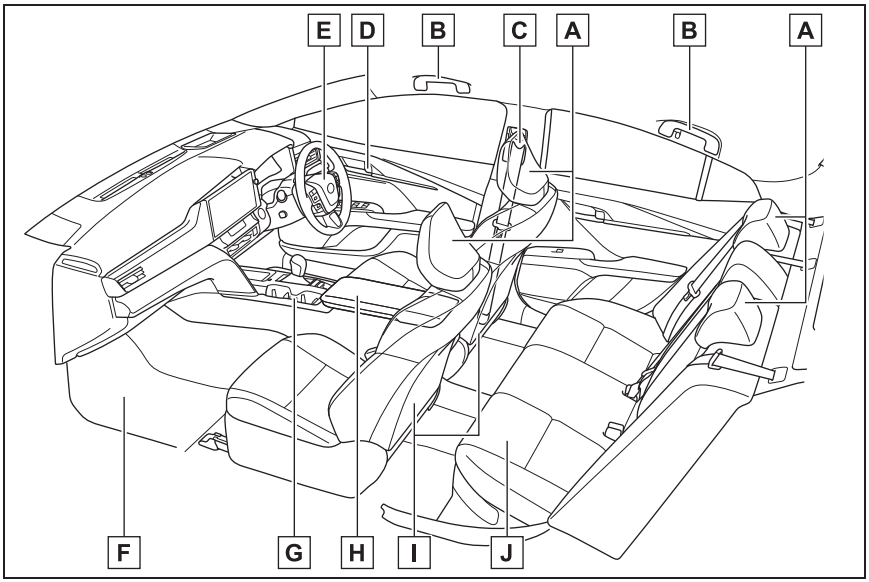
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



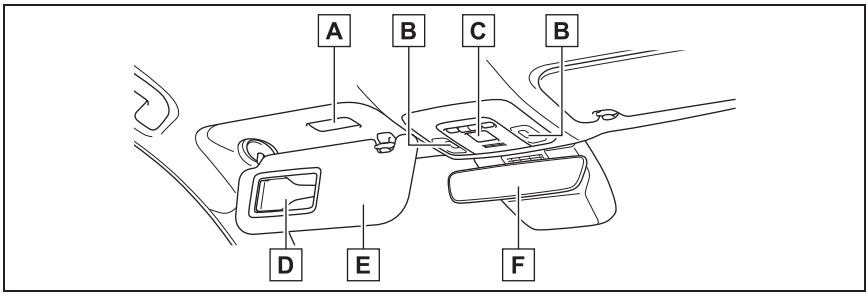
A ブレーキホールドスイッチ P.143
B パーキングブレーキスイッチ P.140
かける／解除する P.140
冬季の注意 P.274
警告ブザー／警告メッセージ P.352, 360
C EV ドライブモードスイッチ P.134
D ドライブモードセレクトスイッチ P.260

■ 室内



A ヘッドレスト P.104
B アシストグリップ P.303
C シートベルト P.27
D ロックレバー P.92
E SRS エアバッグ P.31
F フロアマット P.24
G カップホルダー P.290
H コンソールボックス P.291
I フロントシート P.102
J リヤシート P.103

■天井



A バニティミラーランプ P.302
B インテリアランプ／パーソナルランプ P.286
C ヘルプネットボタン※1
D バニティミラー P.302
カードホルダー P.292
E サンバイザー※2 ..... P.302
F インナーミラー P.108

※1別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※2やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.41）



安全・安心のために 1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24
安全なドライブのために 25
シートベルト 27
SRS エアバッグ 31
排気ガスに対する注意 37

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 38
チャイルドシート 39

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 53
ハイブリッドシステムの注意 57

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 61
オートアラーム 62

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

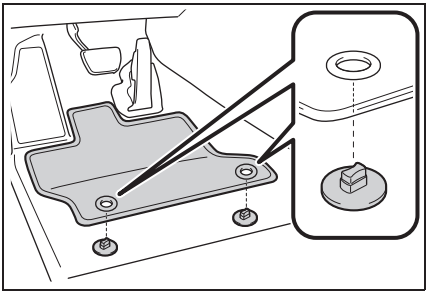
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

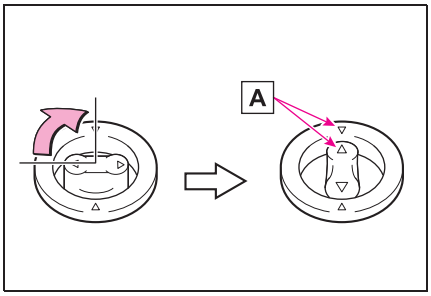
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

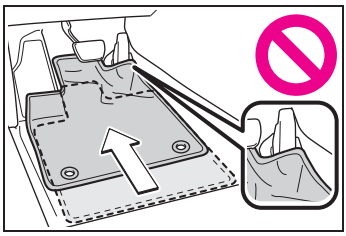
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

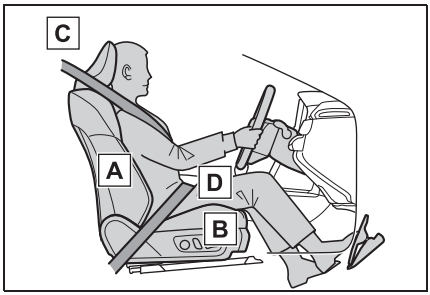


●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する (→P.102)

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする (→P.102)

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→P.104)

D シートベルトを正しく着用する (→P.27)

⚠ 警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。
- シート位置を調整するときは、移動するシートの動きによって他の乗客が怪我をしないように注意してください。
- シート位置を調整するときは、怪我をしないように、シートの下や可動部の近くに手を入れないでください。シート機構に指や手が挟まれるおそれがあります。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.27)
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.39)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー／ドアミラーを正しく調整してください。(→P.108, 109)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

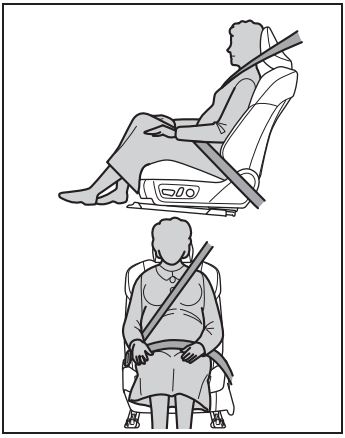
⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)

■お子さまを乗せるとき

→P.49

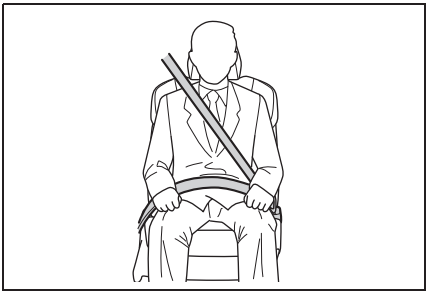
■シートベルトの損傷／故障について

- ベルトやプレート／バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし／分解／廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

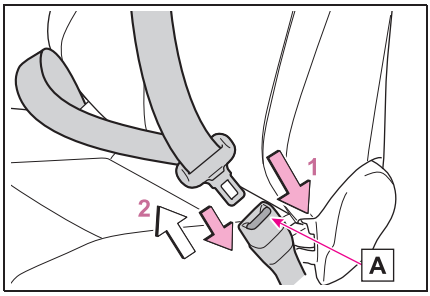
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.49)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.27)

着け方／はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタン [A] を押す

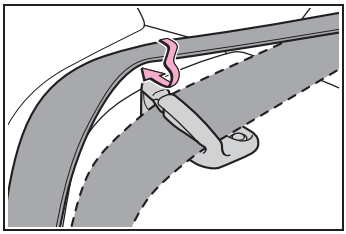
知識

■緊急ロック式リトラクター（ELR）

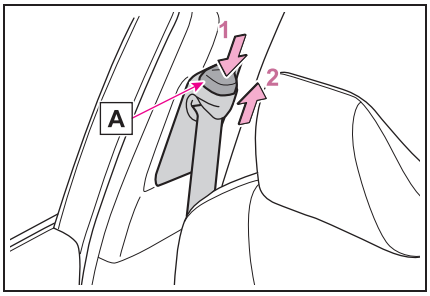
リトラクターは急停止時や衝撃時にベルトをロックします。前傾姿勢を急激に取った場合にもロックされることがあります。シートベルトがロックした際は、ベルトを強く引っ張ってから離し、その後ゆっくり優しく引っ張るとベルトが伸びます。

■リヤシートベルト

シートベルトがガイドから外れた場合は、ガイドに通してからご使用ください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタン [A] を押しながら、アジャスターを下げる

2 解除ボタン [A] を押しながら、アジャスターを上げる

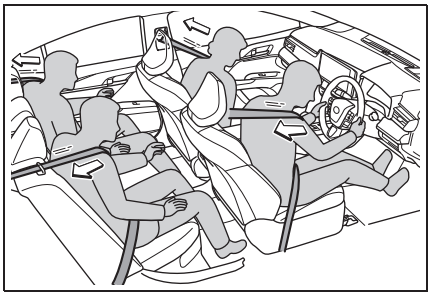
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

警告

■シートベルトの高さをアジャスターで調節するとき

シートベルトが常に肩の中央にかかっていることを確認してください。ベルトは首から離し、肩からずり落ちないようにしてください。これを怠ると、急停止／急ハンドル等による事故発生時に保護効果が低下し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー（フロント席／リヤ外側席）



前方／側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席／リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方／側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

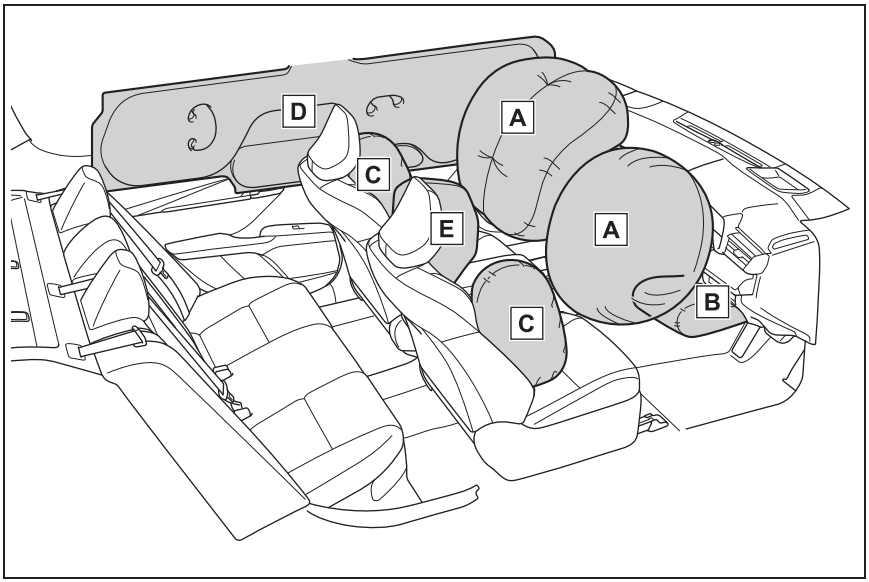
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席座面にはクッションなどを置かないでください。乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。
- シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

・ フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

E SRS ファーサイドエアバッグ

フロント席乗員の頭や首などへの衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷／やけど／打撲などを受けることがあ

ります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ／エアバッグカバー／インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。(→P.60)

●すべてのドアは開錠されます。(→P.90)

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。(→P.262)

●室内灯が自動で点灯します。(→P.288)

●非常点滅灯が自動で点滅します。(→P.343)

■緊急通報について

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・車両に一定以上の衝撃を受けたオペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。
詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

・フロント SRS エアバッグ
・SRS ニーエアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。

・シートベルトプリテンショナー

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

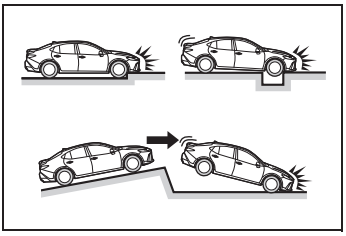
●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

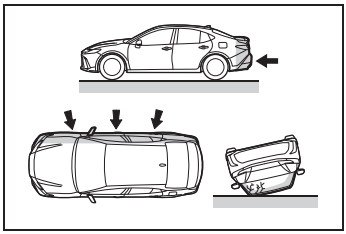
●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

・フロント SRS エアバッグ
・SRS ニーエアバッグ
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

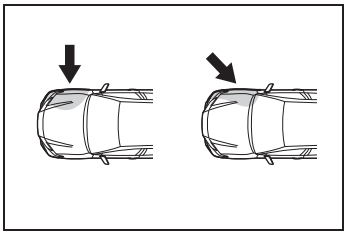


■SRS エアバッグが作動しないとき

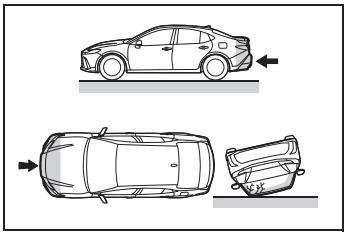
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃／横転／または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



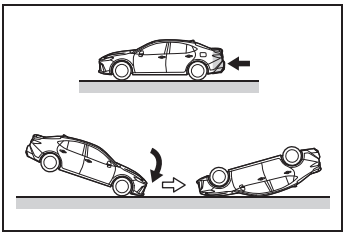
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃／横転／または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

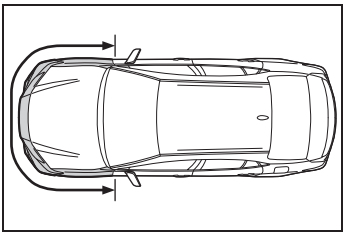


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

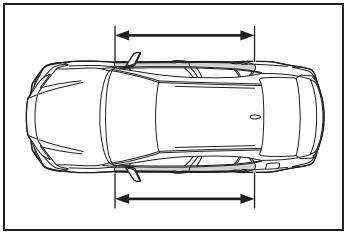
次のような場合には、点検／修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損／変形などがあるとき
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損／変形／穴あきなどがあるとき
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分／ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近／インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー／リヤピラー部／ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠警告

■SRS エアバッグについて

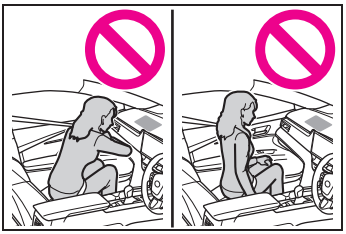
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

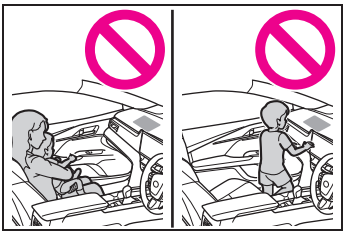
●助手席SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.39)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



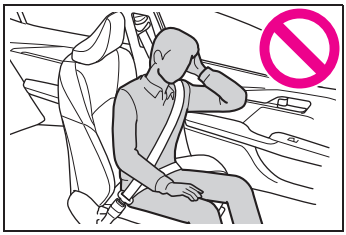
●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



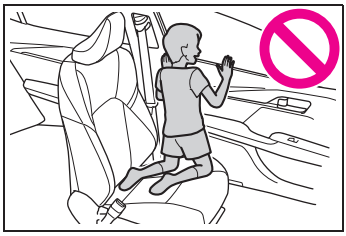
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

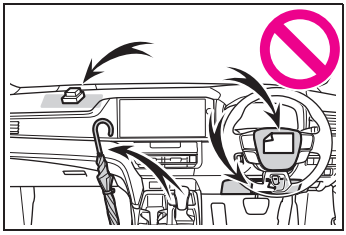
- ドアやフロントピラー／センターピラー／リヤピラー／ルーフサイドレールへ寄りかからない



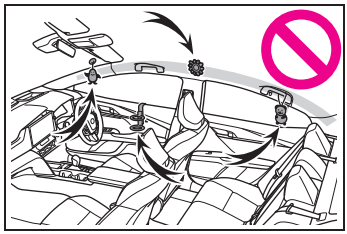
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード／ハンドルのパッド部分／インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア／フロントウインドウガラス／ドアガラス／フロントピラーおよびリヤピラー／ルーフサイドレール／アシストグリップなどには何も取り付けない



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

⚠警告

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造／廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造／廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし／取り付け／分解／修理

●次の部品周辺の修理／取りはずし／改造

・ハンドル
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・シート
・シート表皮
・フロントピラー
・センターピラー
・リヤピラー
・ルーフサイドレール
・フロントドアパネル
・フロントドアトリム
・フロントドアスピーカー

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●次の部品やその周辺の修理／改造

・フロントフェンダー
・フロントバンパー
・車内側面部

●次の部品、または装置の取り付け

・グリルガード
・除雪装置
・ウインチ

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー／無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色／無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- トランクを閉めたままにしてください。
- トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター／ウインドウロックスイッチをご使用ください。(→P.92, 113)
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ／ボンネット／トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.39
チャイルドシートを使用するときは：P.40
シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.43
チャイルドシートの取り付け方法：P.47
・ シートベルトで固定する：P.48
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.50
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.51

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  (→P.43)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.43）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

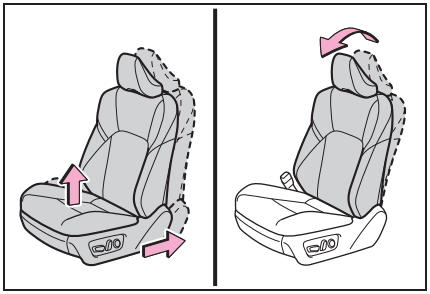
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さが調整できる場合は、シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

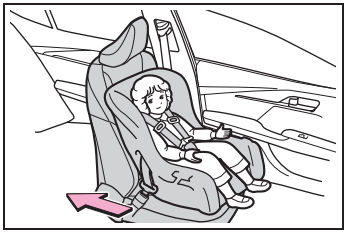
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠警告



⚠警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

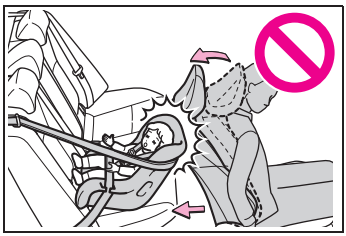


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

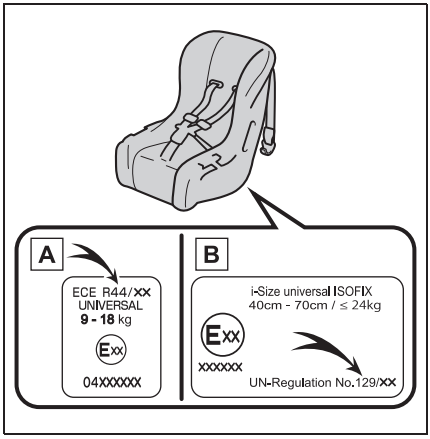
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

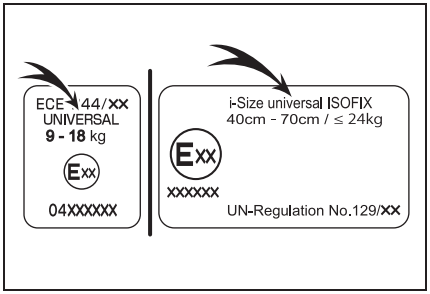
A UN(ECE) R44 認可マーク ※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク ※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」

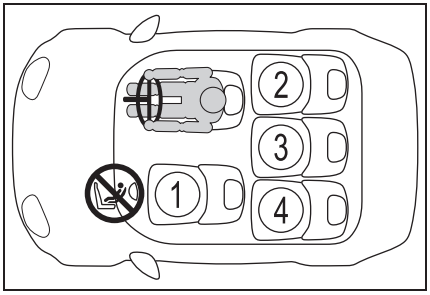
・ セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド
「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック
「vehicle specific（特定車両）」



※1UN(ECE) R44、UN(ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	UF ※4
2 ※3	U
3	U
4 ※3	U

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

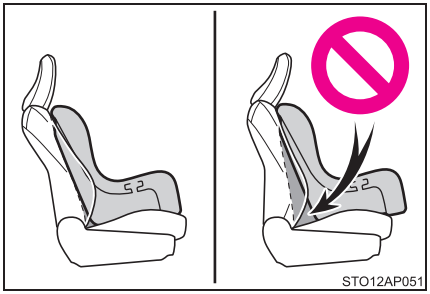
トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてくださ

い。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

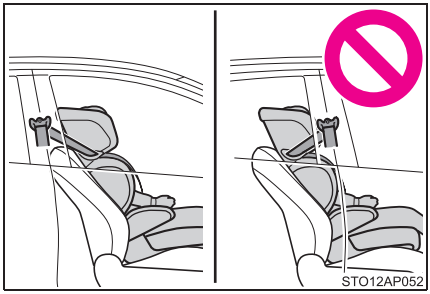
ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャ

イルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

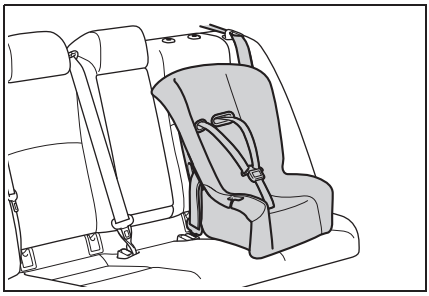


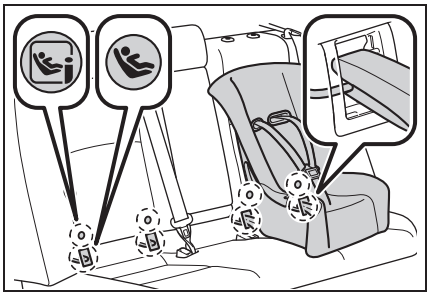
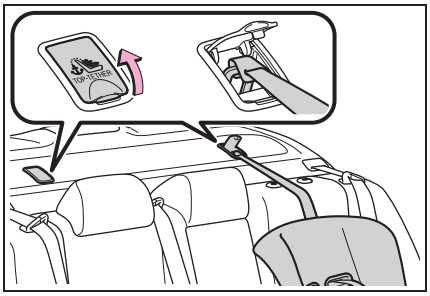
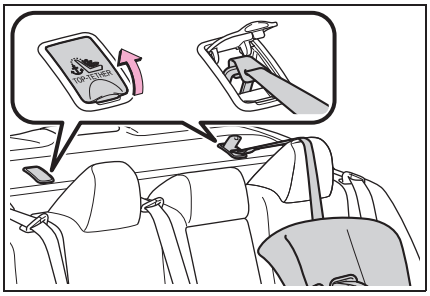
- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した

姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.48

固定方法		ページ
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.50
テザーベルトを固定する	分離式ヘッドレスト：  一体式ヘッドレスト： 	P.51

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.43, 44）

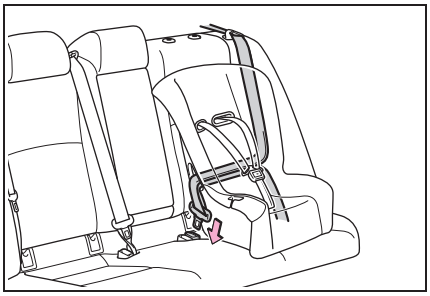
1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助

手席シートを正しく調整してください。(→P.40)

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.104)

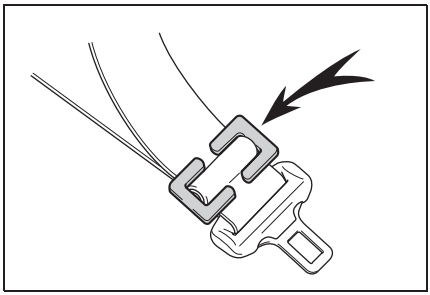
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番:73119-22010)



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.50)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

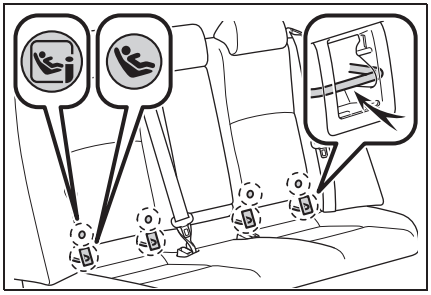
⚠警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.43, 44）

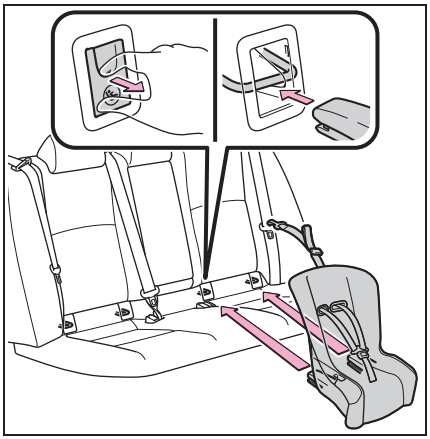
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.104）

2 ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、チャイルドシートをシートに取り付ける

ロアアンカレッジはカバーのうしろにあります。

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.50）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

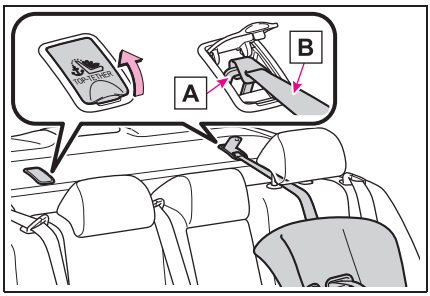
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

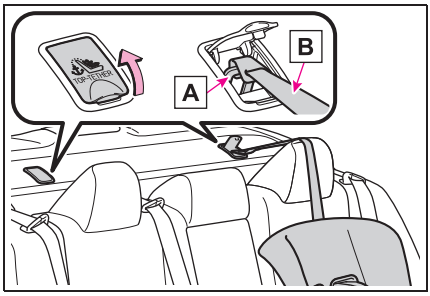
▶ 分離式ヘッドレスト



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

▶ 一体式ヘッドレスト



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

▶ 分離式ヘッドレスト

1 ヘッドレストを上げる

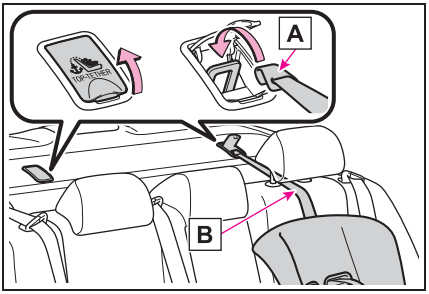
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシー

トが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.104)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.50)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



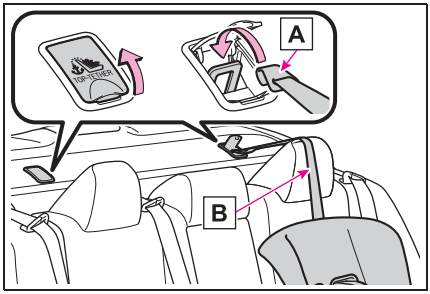
A フック

B テザーベルト

▶ 一体式ヘッドレスト

トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.50)



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

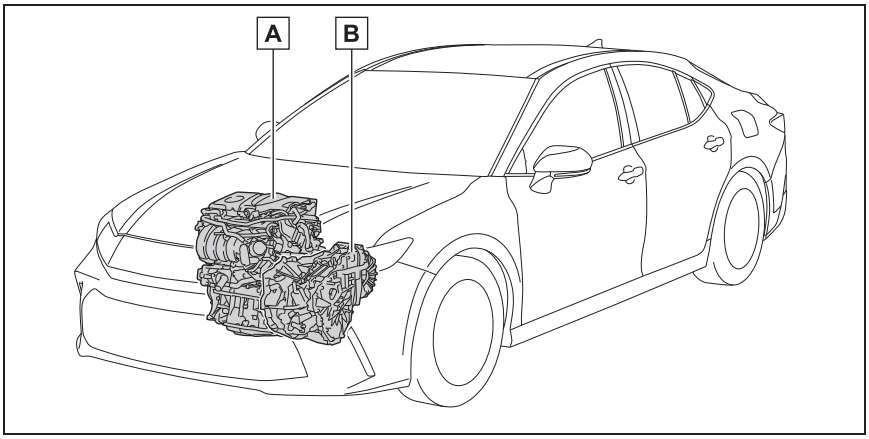
ハイブリッドシステムの特徴

お客様のお車はハイブリッド電気自動車です。従来の車両とは異なる特性があります。車両の特性を十分に理解し、注意深く操作してください。

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B 電気モーター

■ 停車時／発進時／低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止します※。発進時は電気モーターを使って発進します。低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P.54)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。必要に応じて電気

モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時／制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

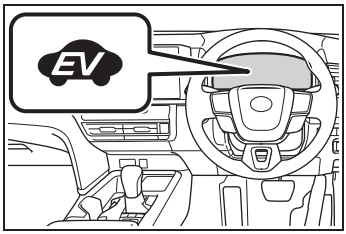
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがD またはS で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがD またはS で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動／停止します。ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないことがあり、燃費が低下する場合があります※。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 急加速／急減速をくり返したとき
- 長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について■

→P.388

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であ

ることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音
- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動／停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動／停止による振動
- リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理／廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

次の状態のとき、音圧と音色が変化する場合があります。

- 炎天下または寒冷地に長時間駐車した場合
- 高圧洗浄機の水がスピーカーに直接かかった場合
- スピーカーの全面が泥・雪・氷などが付着したり、スピーカーの全体が凍結したりした場合

■マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

先読みエコドライブ★ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ お客様の走りを次回の支援に反映する

ため、けん引など、車両の状態が大きく変わるような場合は、先読みエコドライブの機能の利用をしない に設定することを推奨します。

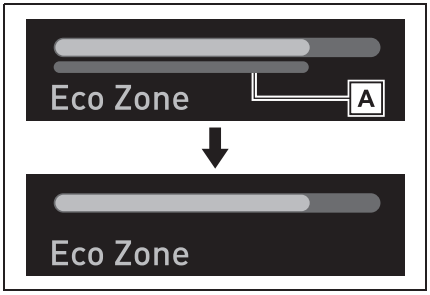
本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

過去のドライバーの行動をデータベースに蓄積し、どこで減速・停止をするかを予測します。減速・停止行動を蓄積した地点に対して減速支援を行うことで、駆動用電池の充電量を増やすことができます。

- アイコンの強調表示後、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.78）の「アクセル操作の目安」（A）の表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。(アクセル OFF 案内)



- アクセル OFF 案内に従ってアクセルペダルを離した際に、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高めます。

■ 先読み SOC※ 制御

※ SOC は駆動用電池残量です。

電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

- 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。
- 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

知識

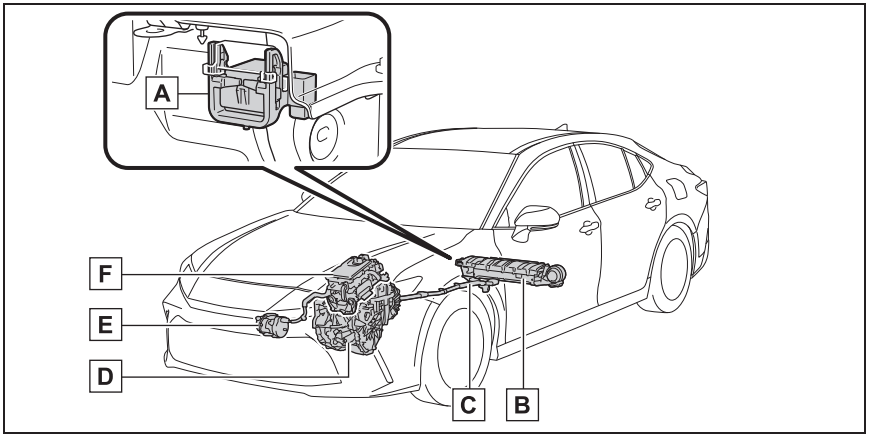
■先読み SOC 制御について

本機能はナビの案内稼働中、かつそのルート上に車両がいる場合に実施されます。（駐車場などでは実施されません）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池／パワーコントロールユニット／オレンジ色の高圧ケーブル／電気モーターなどの高電圧部位（最高約600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため⚠表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A サービスプラグ

B 駆動用電池

C 高電圧ケーブル（オレンジ色）

D 電気モーター

E エアコンコンプレッサー

F パワーコントロールユニット

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯 (→P.354) が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 10.1L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠警告

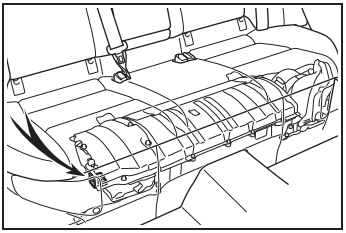
■高電圧／高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位／高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし／分解などは絶対に行わないでください。

●高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位／高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない。電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→P.347)

⚠ 警告

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

■駆動用電池について

●この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。

●絶対に転売／譲渡／改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱／発煙／発火／爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売／譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品／ケーブル／それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駆動用電池について

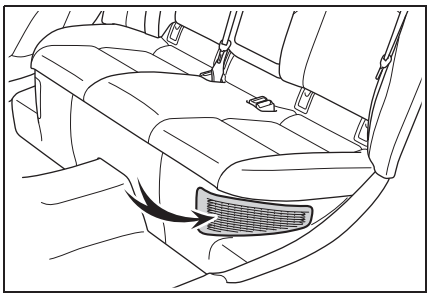
駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



⚠注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→P.333)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池を損傷するおそれがあります。

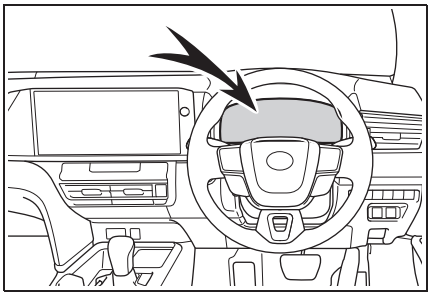
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

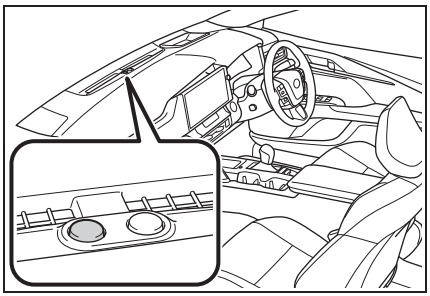
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

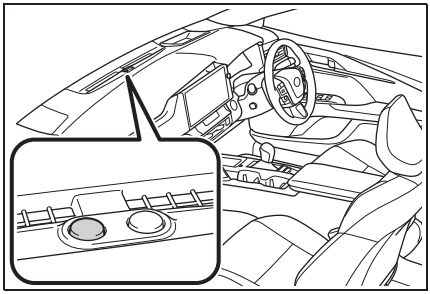
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア／トランク／ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除／停止します）

知識

■オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

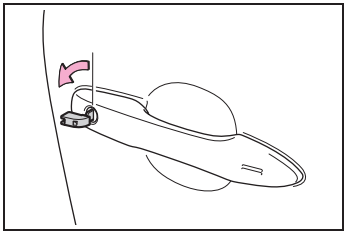
■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

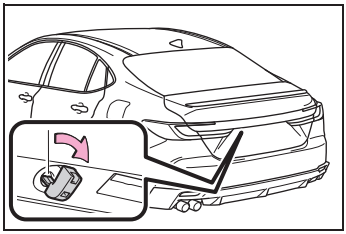
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



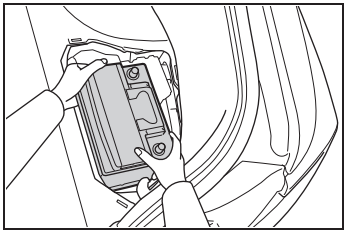
●メカニカルキーを使ってトランクを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア／トランク／ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき (→P.388)



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠される

ことがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電／交換したとき

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示 2

2-1. 計器の見方

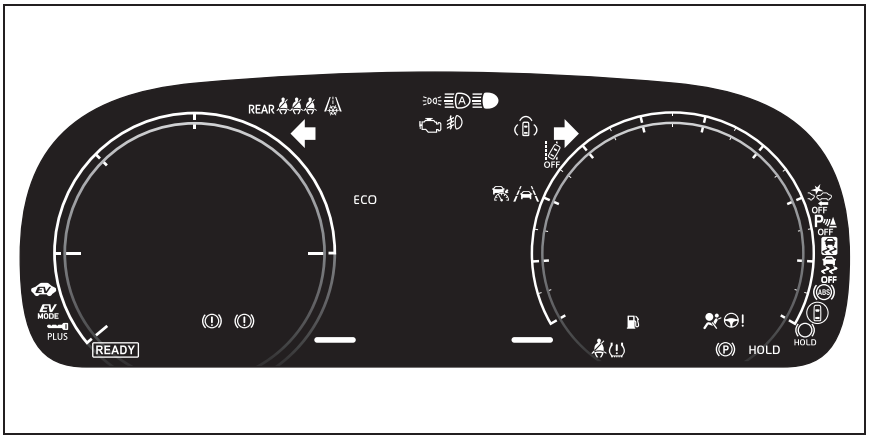
警告灯／表示灯 66
計器類 70
マルチインフォメーションディスプレイ 74
エネルギーモニター／燃費画面 81

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

- ブレーキ警告灯 ※1 (→P.352)（赤色）
- ブレーキ警告灯 ※1 (→P.352)（黄色）
- 高水温警告灯 ※2 (→P.352)
- ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2 (→P.352)
- 充電警告灯 ※2 (→P.353)
- 油圧警告灯 ※2 (→P.353)
- エンジン警告灯 ※1 (→P.353)
- SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1 (→P.353)
- ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1 (→P.353)
- ペダル誤操作警告灯 ※2 (→P.354)
- パワーステアリング警告灯 ※1 (→P.354)（赤色）
- パワーステアリング警告灯 ※1 (→P.354)（黄色）
- 燃料残量警告灯 (→P.354)


運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→P.354)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.355)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.355)


タイヤ空気圧警告灯 ※1 (→P.355)



PCS 警告灯 ※1 (→P.355)


(黄色)
LTA 表示灯 (→P.356)


(黄色)
LDA 表示灯 (→P.356)


(黄色)
PDA 表示灯 (→P.356)


(黄色)
レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.356)


(黄色)
クルーズコントロール表示灯 (→P.356)


運転支援情報表示灯 ※1 (→P.357)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1 (→P.357)


スリップ表示灯 ※1 (→P.357)


(点滅)
パーキングブレーキ表示灯 (→P.358)



(点滅)
ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.358)

※1作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。


方向指示表示灯 (→P.139)


尾灯表示灯 (→P.145)


ハイビーム表示灯 (→P.148)


(緑色)
AHB 表示灯 (→P.149)


フロントフォグランプ表示灯 (→P.152)



PCS 警告灯 ※1, 2 (→P.172)


(緑色)
LTA 表示灯 (→P.181)


(黄色点滅)
LTA 表示灯 (→P.181)


（白色）
LTA 表示灯 (→P.181)


（緑色）
LDA 表示灯 (→P.186)


（黄色点滅）
LDA 表示灯 (→P.186)


（黄色）
LDA OFF 表示灯 ※2 (→P.186)


ドアミラーインジケーター※3 (→P.217, 232, 242)


クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.237)


クリアランスソナー検知表示灯★ (→P.237)


プラスサポート表示灯★ (→P.266)


運転支援情報表示灯 ※1, 2 (→P.217, 232, 242, 247, 251)


（緑色）
PDA 表示灯 (→P.191)


（白色）
PDA 表示灯 (→P.191)


（緑色）
レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.201)


（白色）
レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.201)


（緑色）
クルーズコントロール表示灯 (→P.211)


（白色）
クルーズコントロール表示灯 (→P.211)


（点滅）
スリップ表示灯 ※1 (→P.262)


VSC OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.262)


“READY” インジケーター (→P.129)


EV ドライブモード表示灯 (→P.134)


パーキングブレーキ表示灯 (→P.140)


ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1 (→P.143)


ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.143)


EV インジケーター (→P.54)


エコドライブモード表示灯 (→P.260)


スポーツモード表示灯 (→P.260)


低温表示灯 ※6 (→P.70)


制動灯表示灯 (→P.69)

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 ドアミラーに表示されます。

※4 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：トヨタアシストセンサー機能の作動状態に関わらず、シフトポジションを R に変更するとインジケーターが消灯します。

※5マルチインフォメーションディスプレイまたはリヤカメラ非装着車

※6外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7センターパネルに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両（→P.237）は、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■制動灯表示灯について

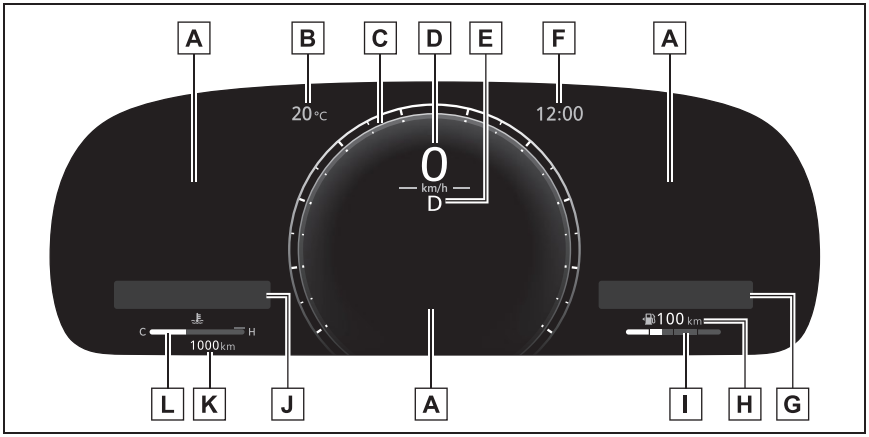
ブレーキペダルの操作または運転支援システムによってストップランプが点灯したときに点灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

▶ ディスプレイタイプ 1 ／タイプ 2



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.74)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.360)

B 外気温

外気温度を -40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C タコメーター／アナログスピードメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

アナログメーターは設定画面で変更できます。(→P.76)

アナログスピードメーター：車両の走行速度を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.72)

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

D デジタルスピードメーター

E シフトポジション表示

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G ウィジェット（オーディオシステム連携表示）

オーディオシステム連携表示の一部を簡易表示します。(→P.79)
コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.73)

I 燃料計

燃料残量を示します。

J ウィジェット（燃費グラフ）

燃費グラフの一部を簡易表示します。(→P.78)
コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。

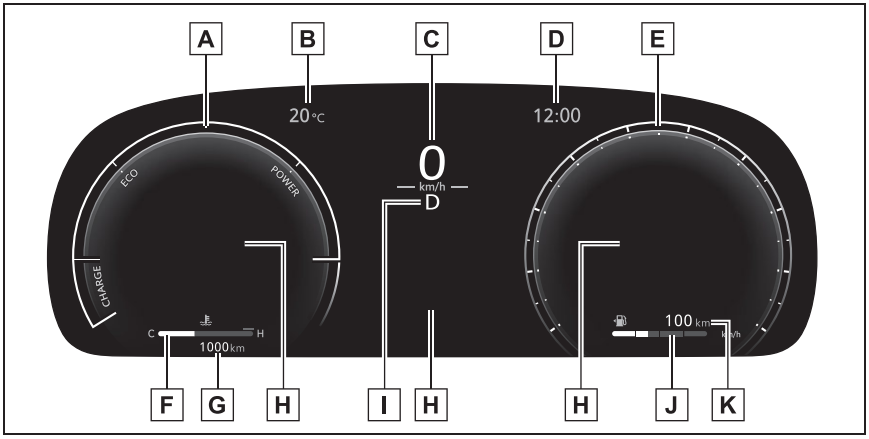
K オドメーター／トリップメーターディスプレイ

走行した総距離を表示します。

L 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

▶ ディスプレイタイプ 3



A タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

お好みのメーターに変更することができます。(→P.76)
ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.72)
タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

B 外気温

外気温度を -40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊

「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E アナログスピードメーター

F 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ

走行した総距離を表示します。

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.74)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.360)

I シフトポジション表示

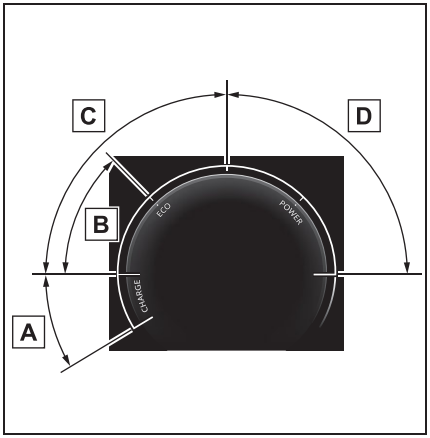
J 燃料計

燃料残量を示します。

K 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.73)

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

知識

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ハイブリッドシステムインジケーターは、以下の場合に作動します。

ハイブリッドシステムインジケーターは、以下の状況で作動します：

● “READY” インジケーターが点灯します。

●シフトレバーはDまたはSの位置にあります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約20km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■航続可能距離について

●表示された値はあくまで参考としてご利用ください。

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●タンクに少量の燃料しか追加しないと、表示が更新されない場合があります。給油の際はパワースイッチを切ってください。パワースイッチを切らずに車両に給油すると、表示が更新されない場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ で、計器類の表示を変更できます。(→P.76)

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

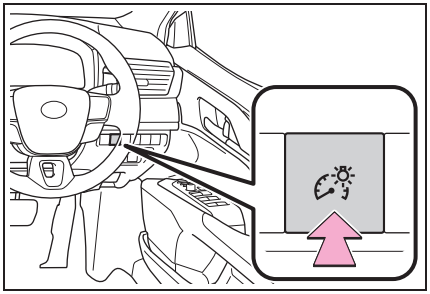
●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

⚠ 注意

●水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.391)

インストルメントパネルライトの明るさ変更

インストルメントパネルライトのスイッチを押すたびに、明るさを調整できます。



知識

■メーターの明るさ（昼間モードと夜間モード）

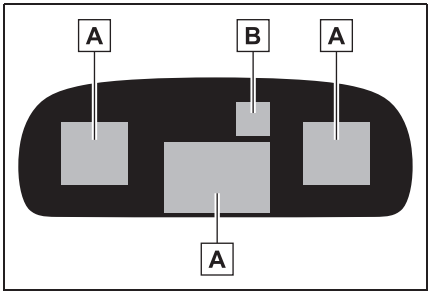
メーターの明るさは、昼間モードと夜間モードの間で切りかわります。

●昼間モード：テールランプが消灯しているとき、または点灯していても周辺が明るいとき

●夜間モード：テールランプが点灯し、周囲が暗いとき

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示



A コンテンツ表示エリア

運転に関連する様々な情報を表示できます。マルチインフォメーションディスプレイは、表示設定やその他の車両設定の変更にも使用できます。

特定の状況で、警告やアドバイスが割り込み表示されます。

B 運転支援システム情報表示エリア

以下のいずれかのシステムが作動しているときに、マルチインフォメーションディスプレイで選択されていない場合は、運転支援システムの状態を縮小表示します。

・PCS（プリクラッシュセーフティ）(→P.172)
・LTA（レーントレーシングアシスト）(→P.181)
・LDA（レーンディパーチャーアラート）(→P.186)
・PDA（プロアクティブドライビングアシスト）(→P.191)
・レーダークルーズコントロール (→P.201)
・クルーズコントロール (→P.211)

知識

■液晶ディスプレイについて

→P.73

⚠警告

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

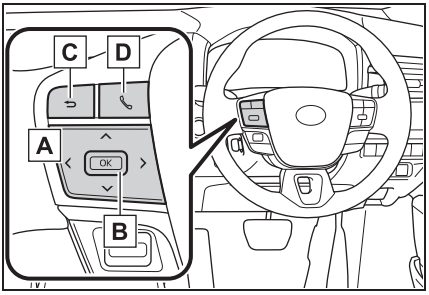
■低温時の画面表示について

→P.73

表示を切りかえるには

■ メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ∧/∨：ページの切りかえ・カーソル移動
〈/〉：表示項目の切りかえ・ページ送り

B 短押し：決定
長押し：リセット・詳細項目表示・カーソル表示

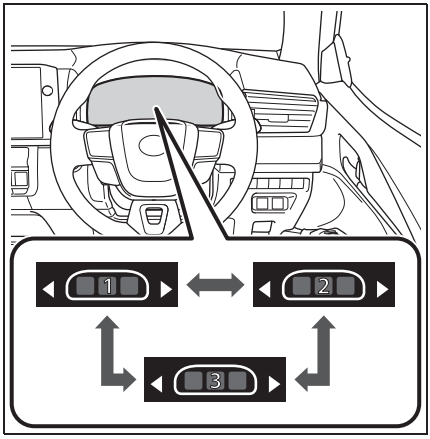
C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ メーターのページ切りかえ

〈 または 〉 を押してページを切りかえます。



マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について（中央画面）

■ 表示項目

- ブランク（非表示）
- 運転支援システム情報
- ナビゲーションシステム表示★
- 設定
- 警告メッセージ (→P.360)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示項目の切りかえ

ページ内の設定モード画面から表示させる項目を選択します。

1 ❮ または ❯ を押してページを選択します。

2 ページ編集を有効にするには、OK を長押しします。

3 ❮ または ❯ を押して変更する表示を選択します。

4 ∧ または ∨ を押してコンテンツを選択します。

5 設定が完了したら、⮌ を押します。

■ 運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）(→P.172)
- LTA（レーントレーシングアシスト）(→P.181)
- LDA（レーンディパーチャーアラート）(→P.186)
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）(→P.191)
- レーダークルーズコントロール (→P.201)
- クルーズコントロール (→P.211)

■ ナビゲーションシステム表示★

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（メーター表示）

メーターの表示設定は ⚙ で変更できます。

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位★

燃費単位の単位を選択することができます。

● メータータイプ

メーター表示のタイプを選択することができます。

● メータースタイル

メーター表示のスタイルを選択することができます。

● ダイヤルタイプ

アナログメーターに表示する項目を選択することができます。(→P.70)

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● 燃費グラフ

燃費の表示を選択することができます。

● ハイブリッドシステムインジケーター

基準動作範囲の表示を選択することができます。

● ドライブインフォメーション

ドライブインフォメーションに表示する項目を選択することができます。

● TRIP A ／ B の表示項目

TRIP A ／ B のドライブインフォ情報を変更することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示／非表示を、項目ごとに変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 設定（車両の機能と設定）

→P.401

知識

■道路名表示

地図データに含まれる道路名のみが表示されます。

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

⚠ 警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について（サイド画面）

■ 表示項目

● ブランク（非表示）
● 燃費グラフ
● エコアクセルガイド／エコジャッジ
● 始動後走行時間／ EV 走行比率
● 運転支援システム情報 (→P.76)
● ナビゲーションシステム表示★
● オーディオシステム連携表示
● ドライブインフォメーション
● TRIP A ／ B の走行情報
● エネルギーモニター (→P.81)
● タイヤ空気圧 (→P.317)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ページ内の表示項目の切りかえ

→P.76

■ ページ内の設定モード画面から表示させる項目を選択します。

1 〈 または 〉 を押してページを選択します。
2 ページ編集を有効にするには、OK を押し続けます。

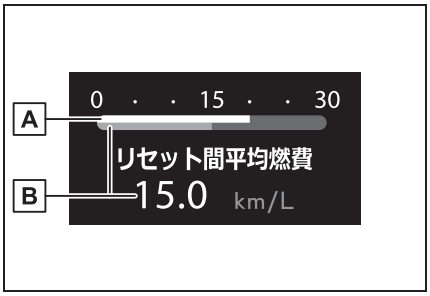
3 ❮ または ❯ を押して変更する表示を選択します。

4 ☰ が表示されている側の ❮ または ❯ を押して各項目の表示 / 非表示を選択できるコンテンツ一覧画面に移動します。

5 ∧ または ∨ を押してコンテンツを選択し、項目の表示 / 非表示を選択します。

■ 燃費グラフ

表示される燃費は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

⚙ 画面の “ 燃費グラフ ” で選択した燃費が表示されます。(→P.76)

● 平均燃費（始動後）

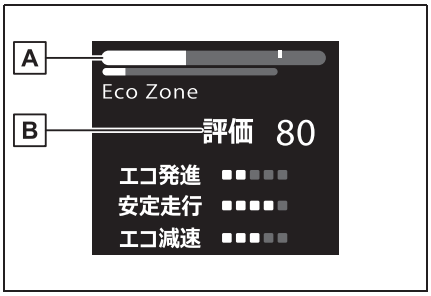
ハイブリッドシステム始動以降の平均燃費を表示します。

● 平均燃費（リセット後）

表示をリセットしてからの平均燃費を表示します。

平均燃費表示をリセットするには、OK を押し続けます。

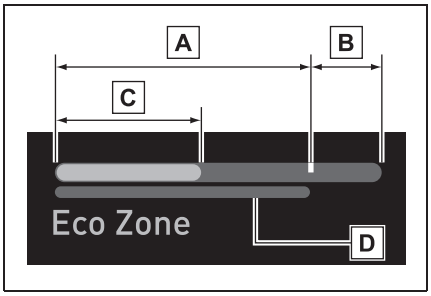
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイドの見方



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。(→P.122)

D アクセルペダル操作の目安

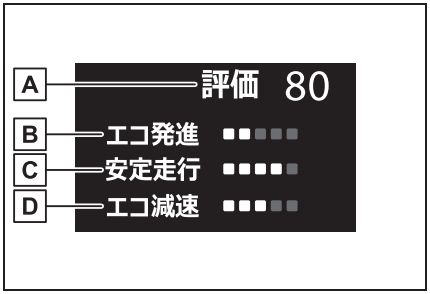
発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリ

アの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

● エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



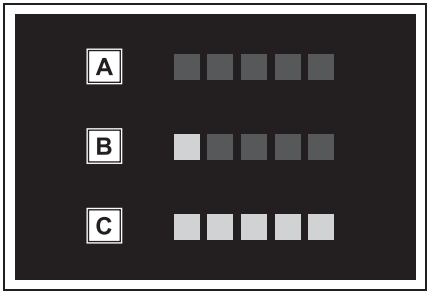
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

バー表示の読み方



A 未評価

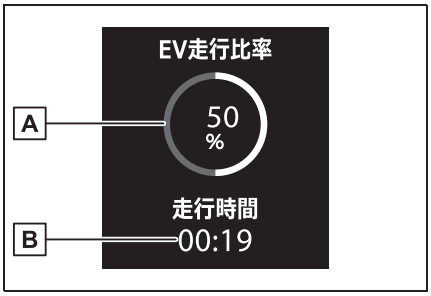
B 低い

C 高い

・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

■ 始動後走行時間／ EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

■ ナビゲーションシステム表示★

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

● 目的地までのルート案内

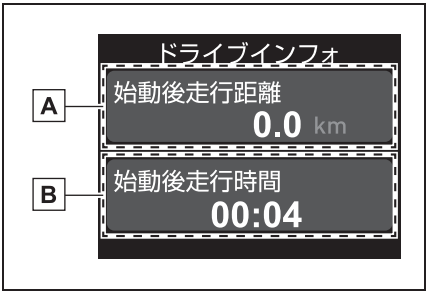
● コンパス表示

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます

■ ドライブインフォメーション



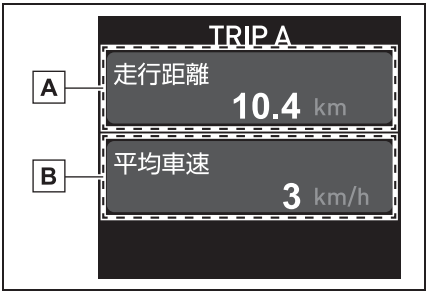
A ドライブインフォメーション 1

B ドライブインフォメーション 2

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを ⚙ から選択して表示させることができます。(→P.76)

- 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
- 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

■ トリップインフォメーション



A TRIP A ／ B の走行情報 1

B TRIP A ／ B の走行情報 2

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを ⚙ から選択して表示させることができます。(→P.76)

- 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- 走行距離：リセット後の走行距離を表示
- 走行時間：リセット後の経過時間を表示

知識

■ エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
- クルーズコントロール／レーダークルーズコントロールを使用しているとき

提案機能

以下の状況でドライバーに提案を表示します。応答は、メーターコントロールスイッチで選択できます。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

ドアガラスが開いている状態でワイパーを操作すると、ドアガラスを閉じるかどうかを尋ねる提案メッセージが表示されます。

すべてのドアガラスを閉じるには、「はい」を選択します。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で車速が一定速度を超えると、ドアガラスを閉じるかどうかを尋ねる提案メッセージが表示されます。

すべてのドアガラスを閉じるには、「はい」を選択します。

知識

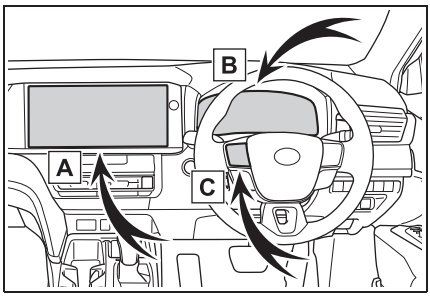
■カスタマイズ

一部の機能はカスタマイズできます。(→P.402)

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイに表示します。

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ (→P.75)

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

メーター操作スイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターを表示させる

エネルギーモニターは、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示領域（左 / 右）に表示できます。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

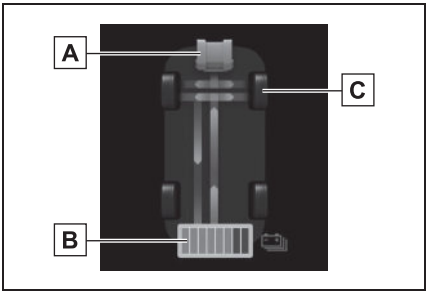
矢印の色は次のように変化します。

緑または青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄または橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



A エンジン

B 駆動用電池

C フロントタイヤ

知識

■駆動用電池の残量警告について

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

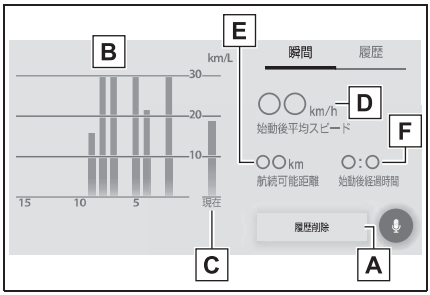
燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

“瞬間” を選択する



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D ハイブリッドシステム始動後平均車速

E 航続可能距離

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

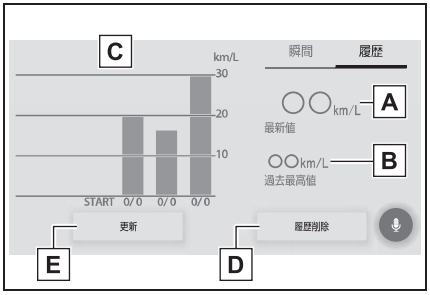
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 燃費履歴画面の見方

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

“履歴” を選択する



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴削除” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

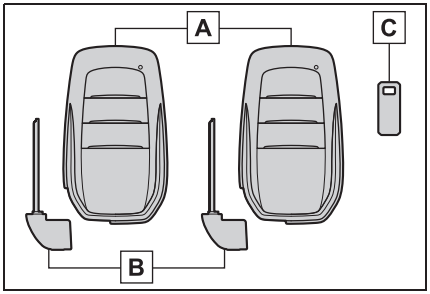
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー
キー 86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 89
トランク 93
スマートエントリー&スタートシステム 96
3-3. シートの調整
フロントシート 102
リヤシート 103
ヘッドレスト 104
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 107
インナーミラー 108
ドアミラー 109
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 111
3-6. お好み設定
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 114
マイセッティング 117

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.96)
・ ワイヤレス機能の作動 (→P.87)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。(→P.98)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.335)
・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・ 作動範囲が狭くなった
・ 電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます (→P.335) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・ TV
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

●スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■電池の交換方法

→P.335

■電子キーの取り扱いについて

JP

・本機は電波法の認証に適合しています。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

00

■電子キー機能の停止

電子キーを同じ場所に放置するなど、一定時間動かさない場合、電子キーの機能が停止することがあります。これは電池の消耗を抑えるためです。電子キーを手に取るなど動かすと、自動的に機能が回復します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

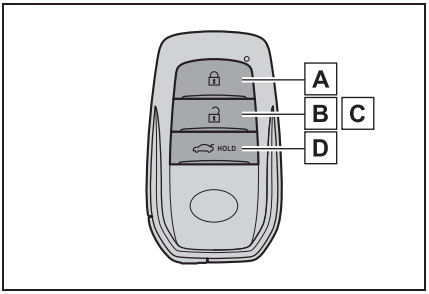
→P.384

■電子キーを紛失したとき

→P.383

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する (→P.89)

B 全ドアを解錠する (→P.89)

C ドアガラス ※ を開く (→P.89)

D トランクを開ける (→P.95)

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンの動作に影響を与える条件

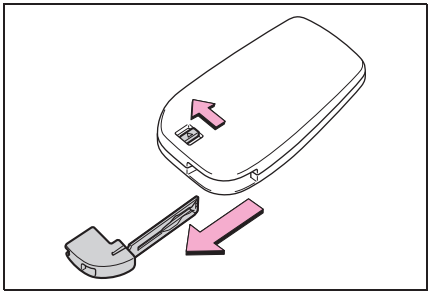
→P.98

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.384)



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.383

■不正キーの使用について

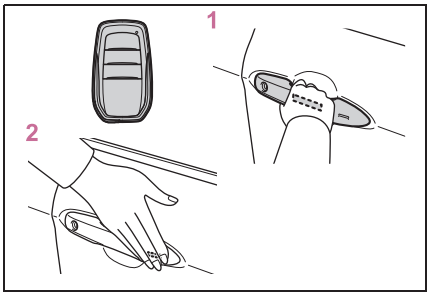
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 運転席側のドアハンドルを握るとドアが解錠されます。運転席側のドアハンドルを約 2 秒間握ると、すべてのドアが解錠されます。助手席側のドアハンドルを握ると、すべてのドアが解錠されます。※

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

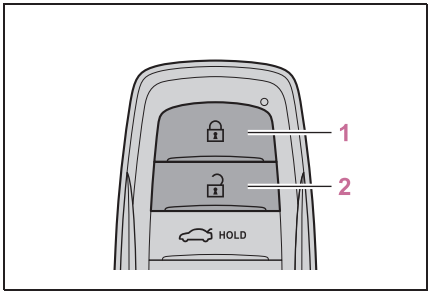
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

※ ドアロック解除設定は変更できます。(→P.89, 401)

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

長押しすると、ドアガラス※が開きます。

※ この設定は、トヨタ販売店でのカスタマイズが必要になる場合があります。

知識

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー画面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ”（2 回）	フロント席のいずれかのドアハンドルを押し続けると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.62)

■衝撃検知ドアロック解除システム

車両が強い衝撃を受けた場合、すべてのドアが解錠されます。ただし、衝撃の強さや事故の種類によっては、システムが作動しない場合があります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

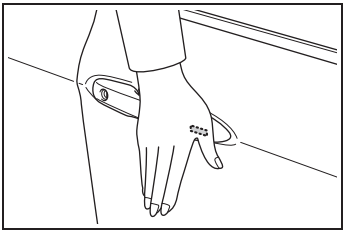
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

- スマートエントリー&スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた
- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.62)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.98

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解

錠ができます。(→P.384)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.335)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.384)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

- リヤドアを開閉したあと約10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
- ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.401)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

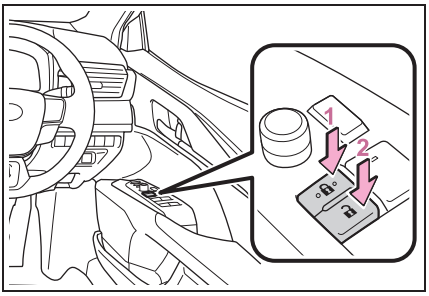
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

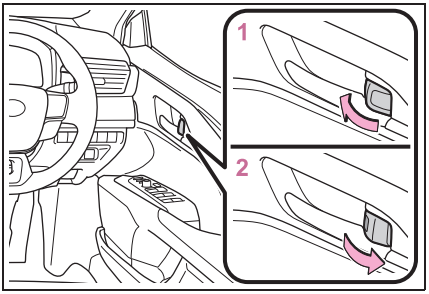
■ ドアロックスイッチ（施錠／解錠）



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

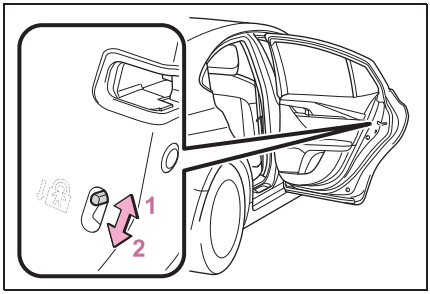
■半ドア走行時警告ブザー

各ドア、ボンネットまたはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドア、ボンネットまたはトランクがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.401 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	車速が約 20 km/h 以上になると、すべてのドアが自動的にロックされます。
シフト操作連動ドアロック	シフトレバーを P からシフトすると、すべてのドアが自動的にロックされます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にすると、すべてのドアが自動的にロック解除されます。
運転席ドア開連動アンロック	運転席のドアを開けると、すべてのドアが自動的にロック解除されます。

トランク

トランクオープナーやエントリー機能、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

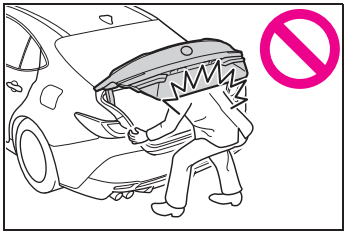
トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■トランクの使用にあたって

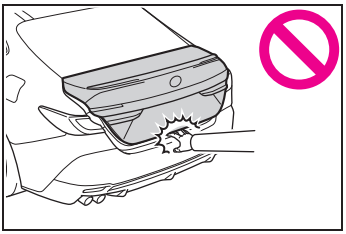
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

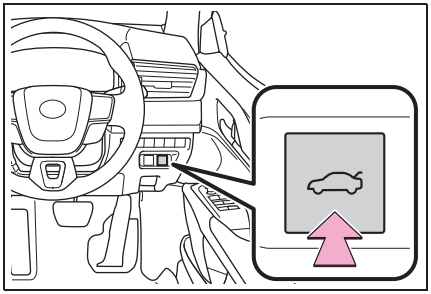


- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

トランクオープナースイッチを押す



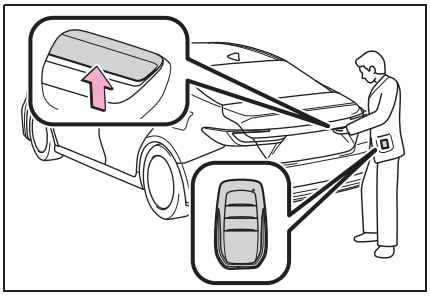
■ トランクリリースボタン

電子キーを携帯し、トランクリッドのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開ける

ことができます。

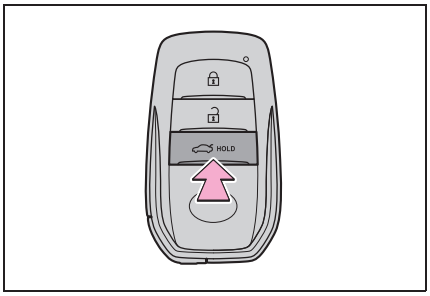
- エントリー機能
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- オートドアアンロック機能
- メカニカルキー



■ ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



知識

■ トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- パワースイッチを OFF にしたときに、トランクランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

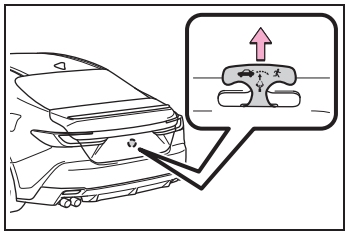
■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■ トランク内部リリースレバー★

トランクリッドの内側にある蓄光レバーを引き上げることにより、トランクリッドを開けることができます。

トランクリッドを閉めた後も、レバーはしばらく点灯し続けます。



★：グレード、オプションなどによって装備の有無があります。

■スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンが正常に動作しない場合

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.335)

■半ドア走行時警告ブザー

→P.92

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

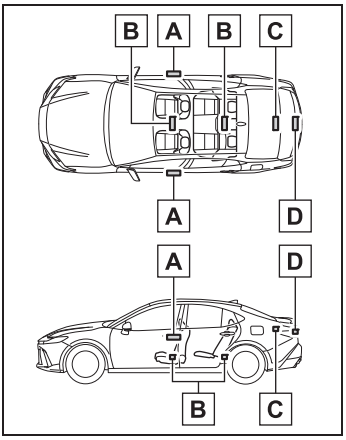
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→P.89)
- トランクを開ける (→P.94)
- ハイブリッドシステムを始動する (→P.129)

知識

■アンテナの位置



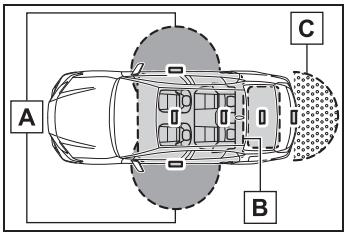
A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します

C トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
(→P.360)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

●車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFF にした	運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。また、イルミネーションエントリーシステムが正常に作動しない場合があります。

・車の周辺に電子キーを一定時間以上放置した
・数日間スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

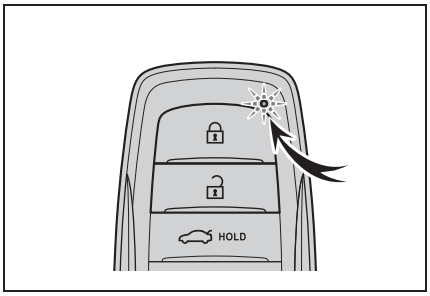
●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯ラジオ、携帯電話、コードレス電話、その他の無線通信機器を携帯する場合

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.384)

また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.384 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.98)

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないこ

とがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.401)

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.98)

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

●トランク内に電子キーを置かないでください。電子キーの場所(トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→P.95)

■電子キーが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠 →P.384

●ハイブリッドシステムの始動 →P.384

■カスタマイズ機能

一部の機能はカスタマイズできます。(→P.401)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.89, 384)

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ →P.384

●ハイブリッドシステムの停止 →P.129

⚠警告

■電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ (→P.96) から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

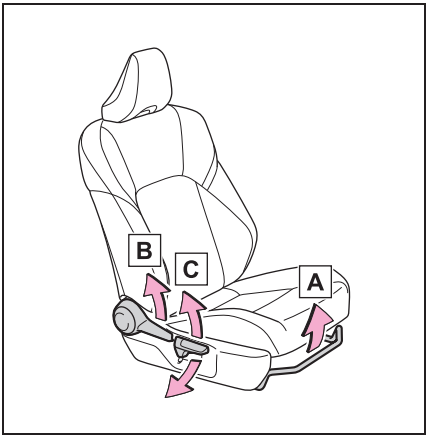
⚠警告

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車

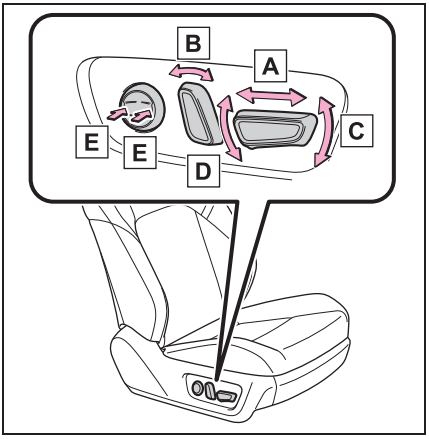


A 前後位置調整

B リクライニング調整

C シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ パワーシート装着車



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 腰部硬さ調整

知識

■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.114）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シート位置の自動調整★

お好みのシート位置をドライビングポジションメモリーに登録すると自動で調整されます。（→P.114）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、またはパワーイージーアクセスシステム作動中に運転席の後ろに物が挟まっている場合、運転席は停止し、その後わずかに前方に移動します。挟み込み防止機能が作動した場合は、設定されたシートポジションとは異なる位置で停止します。シートポジションをご確認ください。

⚠警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

⚠ 警告

■シート調整について

- シートが同乗者や荷物に当たらないように注意してください。
- 衝突時にシートベルトの下に滑り込むリスクを減らすため、シートを必要以上にリクライニングしないでください。シートをリクライニングしすぎると、ラップベルトが腰を通り過ぎて腹部に直接拘束力が加わったり、首がショルダーベルトに接触して事故の際に死亡または重傷を負うリスクが高まります。運転中はシートの調整を行わないでください。シートが予期せず動いて運転者が車両を制御できなくなる可能性があります。
- マニュアルシートのみ：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■シートを調整するときは

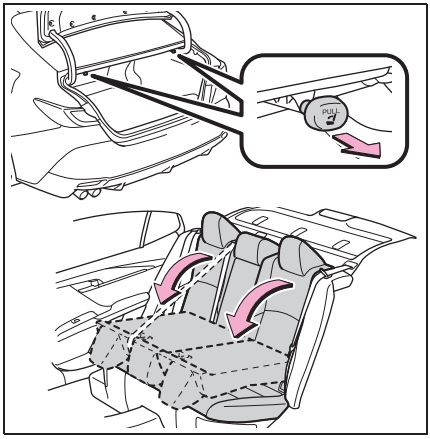
ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- 倒した背もたれの上やトランク内に人を乗せて走行しない
- お子さまがトランク内に入らないよう注意する

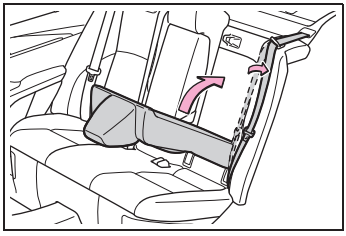
⚠ 警告

- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- リヤシートの背もたれを前方に倒す前に、フロントシートの位置を調整して、リヤシートの背もたれを倒したときに、リヤシートの背もたれがフロントシートに干渉しないようにしてください。

■背もたれをもとにもどしたあとは

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれたり、シートの背もたれに引っかかったりしていないことを確認してください。

シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



- シートベルトがガイドに通されていることを確認してください。

⚠ 注意

■運転席側の背もたれを倒したとき

広くなったトランクに収納した荷物が中央席のシートベルトを損傷しないようにしてください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

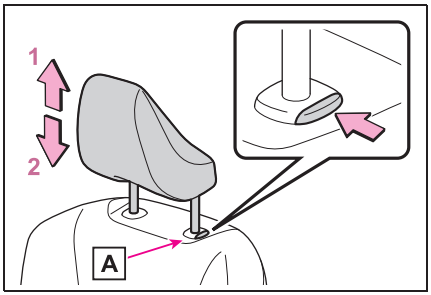
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席



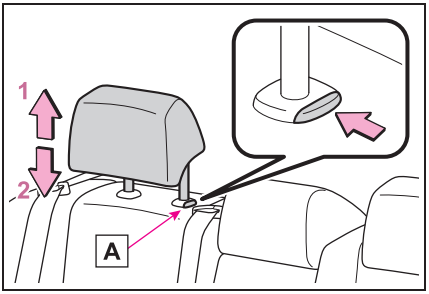
1 上げる

ヘッドレストを引き上げます。

2 下げる

ロック解除ボタン A を押しながらヘッドレストを押し下げます。

■ リヤ外側席（調整式）



1 上げる

ヘッドレストを引き上げます。

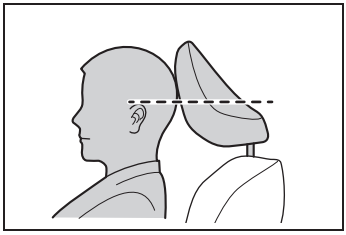
2 下げる

ロック解除ボタン A を押しながらヘッドレストを押し下げます。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



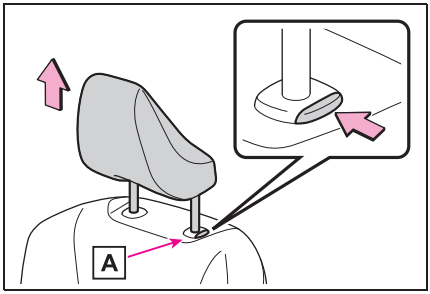
■リヤ席のヘッドレストの調整

使用時には必ずヘッドレストを格納位置より 1 段上げてください。

ヘッドレストを取りはずすには

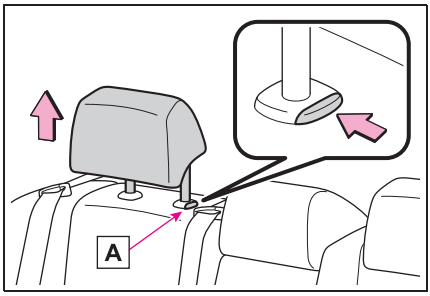
■ フロント席

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ リヤ外側席（調整式）

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。

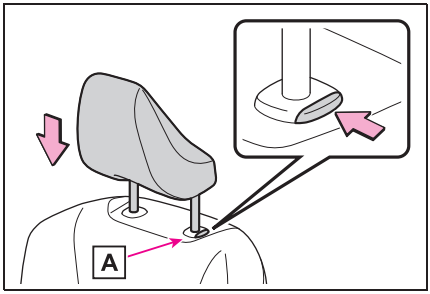


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

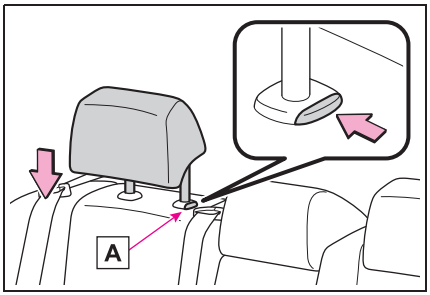
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



■ **リヤ外側席（調整式）**

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

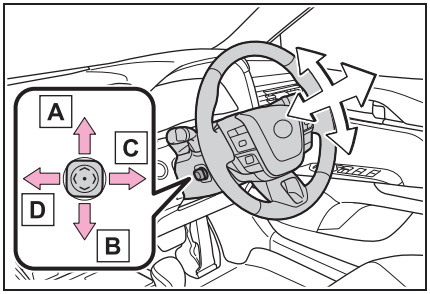
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



A 上方へ

B 下方へ

C 手前へ

D 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき※

※運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.114）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.114）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

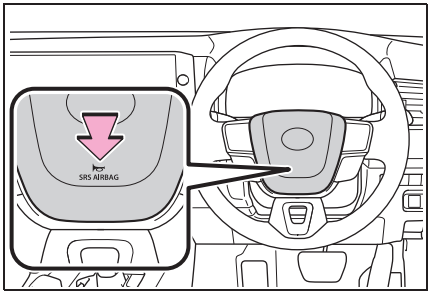
⚠警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



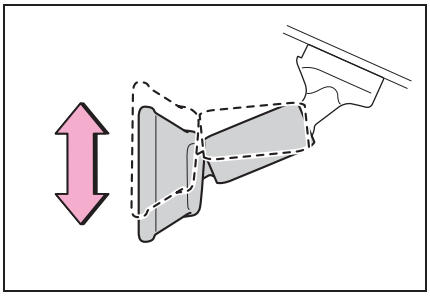
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

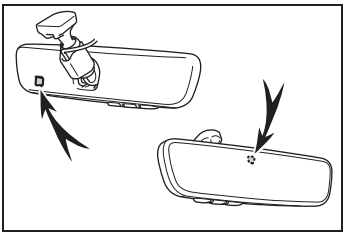
防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠警告

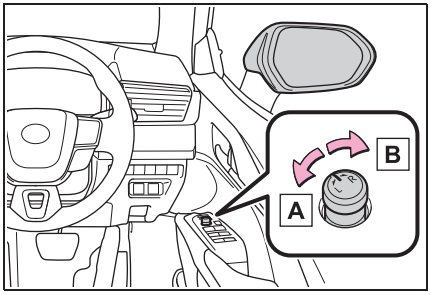
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

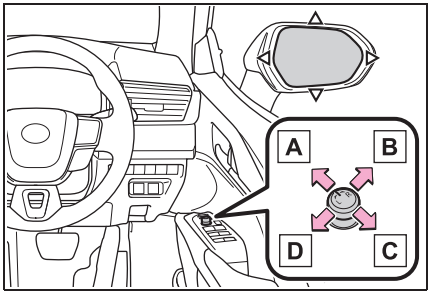
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させ

ると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.278)

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.114)

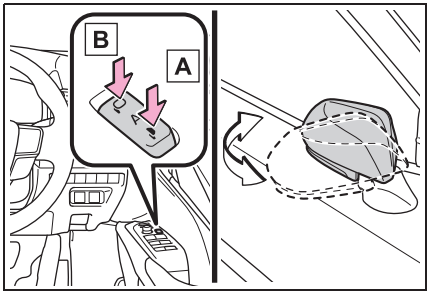
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

⚠警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのL またはR どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトポジションをR にした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションをR にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションがR 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

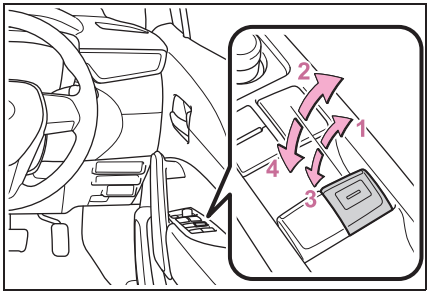
通常位置が変更された場合は、後進時に角度を再調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
6 再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.384)

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.89)

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.62)

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

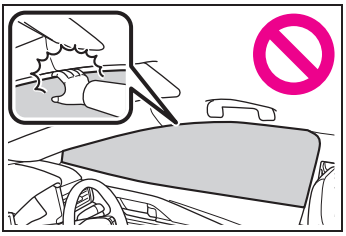
⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.113)

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

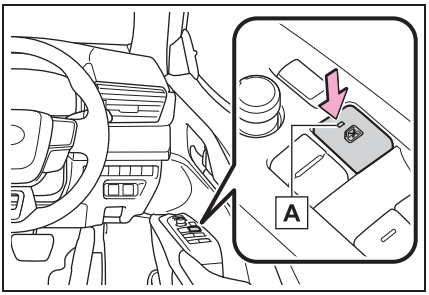
■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

この機能は、運転席、ドアミラー、ハンドルを自動的に調整し、車両への乗り降りを容易にしたり、ユーザーの好みに合わせたりします。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3 パターン）を登録できます。

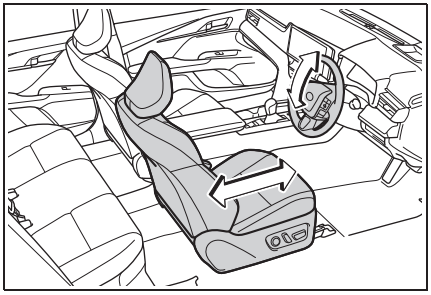
マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

マイセッティングについては、P.117 を参照してください。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。



・ シフトポジションを P する
・ パワースイッチを OFF にする
・ シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。
・ パワースイッチを ACC または ON にする
・ シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方または最上方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■挟み込み防止機能

パワーイージーアクセスシステム作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

⚠ 警告

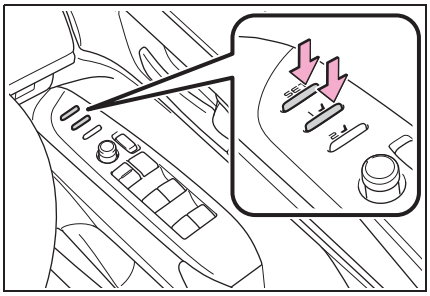
■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションを登録するには（運転席のみ）

1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 運転席・ドアミラー角度・ハンドルをお好みの位置に調整する
4 “SET” ボタンを押しながら、または “SET” ボタンを押したあと 3 秒以内に “1” または “2” のどちらか登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

■登録できるシート位置 (→P.102)

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

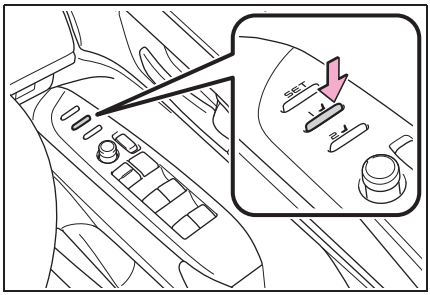
⚠ 警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには（運転席のみ）

1 シフトポジションが P にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 1 または 2 のどちらか呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- “SET” ボタンを押す
- “1” または “2” のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作

する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■音声対話サービスでの操作について

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●ドライビングポジションの登録

●ドライビングポジションの呼び出し（シフトレバーが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）（運転席のみ）

■ マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(→P.118)

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

1 電子キーで個人を特定：マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 パワースイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

● メモリーコール機能の解除方法

メモリーコール機能の解除方法は認証機器によって異なります。

詳しくは別冊 「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて（マイセッティング装着車）

●個人を特定するデバイスによっては作動するタイミングが異なる場合があります。

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

マイセッティング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。(→P.96)

● Bluetooth® デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キーを検出して個人を認識したとき

は、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジションメモリー（メモリーコール機能）★

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

・ 電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠して運転席ドアを開けたとき

● メーター表示※／マルチメディア設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● 安全運転支援機能※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● センターディスプレイで設定可能な車両設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 121
荷物を積むときの注意..... 128

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 129
EV ドライブモード 134
ハイブリッドトランスミッション 136
方向指示レバー 139
パーキングブレーキ..... 140
ブレーキホールド 143

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 145
AHB（オートマチックハイビーム） 149
フォグランプスイッチ..... 152
ワイパー&ウォッシャー..... 152

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 157

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する..... 160
Toyota Safety Sense 162
ドライバーモニター..... 170
PCS（プリクラッシュセーフティ） 172
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 181
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 186
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 191
発進遅れ告知機能 196
RSA（ロードサインアシスト） 198
レーダークルーズコントロール 201
クルーズコントロール 211
ドライバー異常時対応システム 215
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 217
後方車両接近告知..... 222
周辺車両接近時サポート（通報提案機能）..... 225
後方車両への接近警報 228
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）..... 230
安心降車アシスト..... 232
クリアランスソナー..... 236
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 242
RCD（リヤカメラディテクション） 247
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 251
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）..... 255
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 257
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 258
ドライブモードセレクトスイッチ 260
運転を補助する装置 261
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 266

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス
.....271
寒冷時の運転.....273

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.129

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→P.136)

2 パーキングブレーキを解除する (→P.140)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.141)

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.140)

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→P.136)

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける (→P.140)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトポジションを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 シフトレバーを P にする (→P.136)

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→P.262)

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.271)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■エコアクセルガイド (→P.78)

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■新しいトヨタの慣らし運転

車両の寿命を延ばすために、以下の注意事項を守ることをお勧めします。

●最初の 300 km の間：

急ブレーキは避けてください。

●最初の 1000 km まで：
・非常に高速で運転しないでください。
・急加速は避けてください。
・長時間一定速度で運転しないでください。

■海外での車両の運転

関連する車両登録法を遵守し、正しい燃料が利用可能であることを確認してください。(→P.398)

■環境に配慮した走行

→P.72

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

⚠警告

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。
車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、次を参照してください。→P.344

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.136)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

⚠ 警告

●制限速度を超えて運転しないでください。法定速度で許可されている場合でも、高速走行対応タイヤを装着していない限り、時速 140 km/h を超えて運転しないでください。時速 140 km/h を超えて運転すると、タイヤの破損、制御不能、さらには傷害につながる可能性があります。そのような速度で運転する前に、必ずタイヤ販売店にご相談いただき、車両のタイヤが高速走行対応タイヤかどうかを確認してください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをN にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠警告

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。READYインジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READYインジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

⚠ 注意

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、次を参照してください。(→P.372)

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまった時は必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

● R に切りかえたとき※

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によってはシフト操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止 (→P.262) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。(→P.262)

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。(→P.406)

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●ブレーキ時に荷物が前方に滑り落ちるのを防ぐため、大型トランクには荷物を積まないでください。荷物はできるだけ床面に近い低い位置に保管してください。

●ブレーキ時に荷物が前方に滑り落ちるのを防ぐため、大型後部座席を折りたたむときは、長い物を前部座席のすぐ後ろに置かないでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●拡大されたトランクには絶対に人を乗せないでください。トランクは乗客用ではありません。乗客は必ず座席に座り、シートベルトを正しく締めてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く (→P.140)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

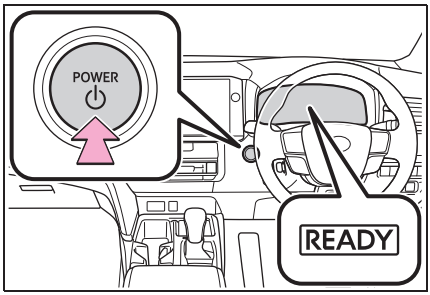
4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.266 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワースイッチ文字照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ文字照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチが OFF のとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- パワースイッチが ACC または ON のときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
トヨタ販売店へご連絡ください。
(→P.61)

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。
ハイブリッドシステムを始動するには、P.385 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合 (→P.92) はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いとき

●ハイブリッドシステム始動時にREADY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。
READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30 ℃以下)、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.54

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.386 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.86

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.98

■ご留意いただきたいこと

→P.99

■スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに “スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→P.60

■電子キーの電池交換

→P.335

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次を参照してください。P.384.

⚠警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて(→P.140)、シフトレバーをPの位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“パワーON”の表示が消灯していることを確認する

知識

■ハイブリッドシステム自動停止機能

●この車両には、シフトレバーがPレンジの状態でハイブリッドシステムが長時間作動すると、ハイブリッドシステムを自動的に停止する機能が搭載されています。

●シフトレバーがPレンジの状態でハイブリッドシステムを作動させたまま放置すると、約1時間後にハイブリッドシステムが自動的に停止します。

●ブレーキペダルを踏んだり、シフトレバーがP以外の位置にある場合、ハイブリッドシステム自動停止機能のタイマーはリセットされます。

●駐車後、車内からドアロックスイッチ(→P.92)で、または車外からメカニカルキー(→P.384)でドアを施錠すると、ハイブリッドシステム自動停止機能は解除されます。運転席ドアを開けると、ハイブリッドシステム自動停止機能のタイマーは再び有効になります。

⚠ 警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.344)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを短く確実に押してください。

■駐車時

排気ガスには無色無臭の有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。以下の注意事項を守ってください。

以下の注意事項を守らないと、排気ガスが車内に入り込み、めまいなどによる事故や、死亡または重大な健康被害につながる可能性があります。

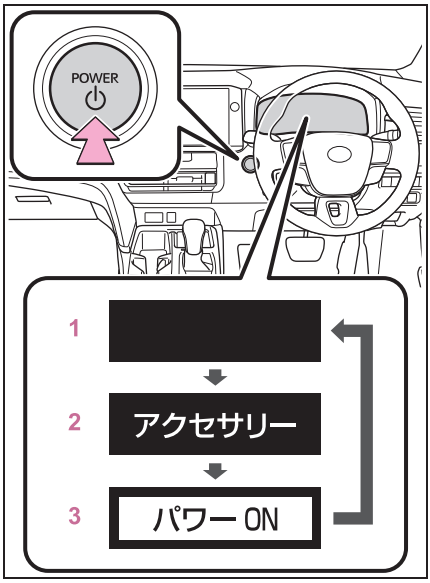
●換気の悪い場所やガレージなどの密閉された場所に駐車する場合は、ハイブリッドシステムを停止してください。

●ハイブリッドシステムを作動させたまま長時間放置しないでください。
やむを得ず長時間放置する場合は、広い場所に駐車し、排気ガスが車内に入らないようにしてください。

●積雪地帯や降雪地帯では、ハイブリッドシステムを作動させたまま放置しないでください。ハイブリッドシステム作動中に車両周囲に雪が積もると、排気ガスが車内に溜まり、車内に侵入する可能性があります。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF※1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※2

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

※1シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。

※2カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（マルチメディア装着車）（→P.407）

知識

■自動電源 OFF 機能

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、約 20 分以上パワースイッチを ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、パワースイッチが ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

■ACC カスタマイズが “OFF” のとき

●パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

●安全降車アシスト作動中はブザーが鳴り、音声ガイダンスが流れます。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” が

表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していることを確認する

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチは ON のままになるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

●ハイブリッドシステムが作動していないときにメーター内に “アクセサリー” または “パワー ON” と表示される場合は、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF してから車両を降りてください。

EV ドライブモード

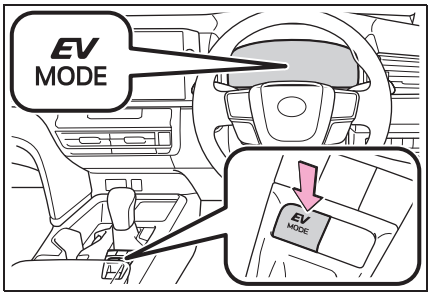
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。

早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いときエネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→P.81)

●一定車速以上のとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

ただし、車両状態によっては EV ドライブモードが解除され、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）に戻る場合があります。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したときエネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→P.81)

●一定車速以上のとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに現在切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードが解除されました” と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

⚠警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

ハイブリッドトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2 (→P.138)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは変化しません。

- Sモードで走行中にS5またはS4にシフトダウンしたとき (→P.138)
- Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき。(→P.260)

■急発進の抑制制御（ドライブスタートコントロール）

→P.127

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

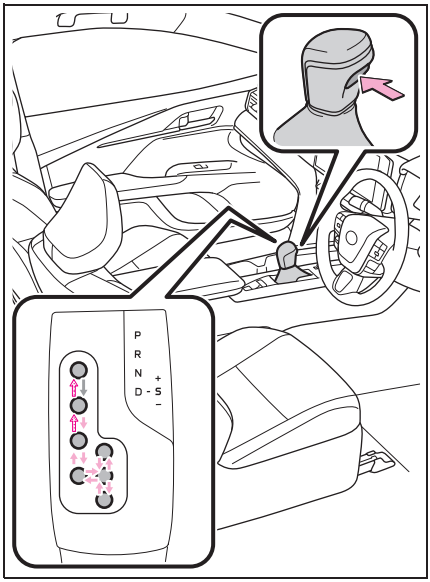
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。
エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



⬅：パワースイッチが ON の状態

で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇦：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

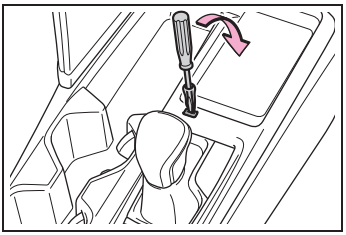
■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

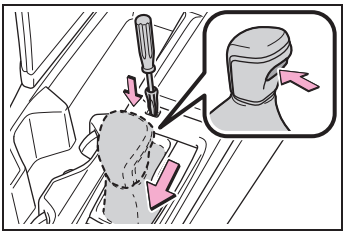
1 パーキングブレーキをかける
2 パワースイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



⚠警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

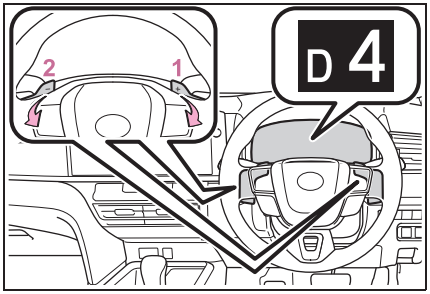
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.260

D ポジションでレンジ選択するには（パドルシフトスイッチ装着車）

パドルシフトスイッチの “－” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D5 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、車速等に応じて D4 か D5 に設定されます。

知識

■Dポジションでパドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

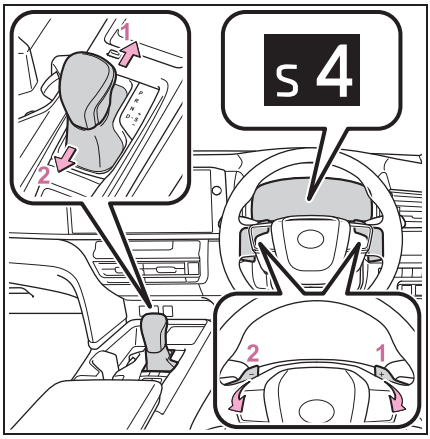
■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持したとき
- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき

S モードでシフトレンジ選択するには

シフトポジションを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。パドルシフトスイッチ（装備されている場合）またはシフトレバーの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチ（装備されている場合）またはシフトレバーの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S モードでの初期レンジは車速等に応じて S4 か S5 に設定されます。

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチ（装備されている場合）を操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■S モード

●加速力とエンジンブレーキ力を6段階から選べます。

●シフトレンジを低くすると、シフトレンジを高くした場合よりも加速力とエンジンブレーキ力が大きくなり、エンジン回転数も上がります。

●S4 レンジ以下のとき、パドルシフトスイッチ（装備されている場合）を “＋” 側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

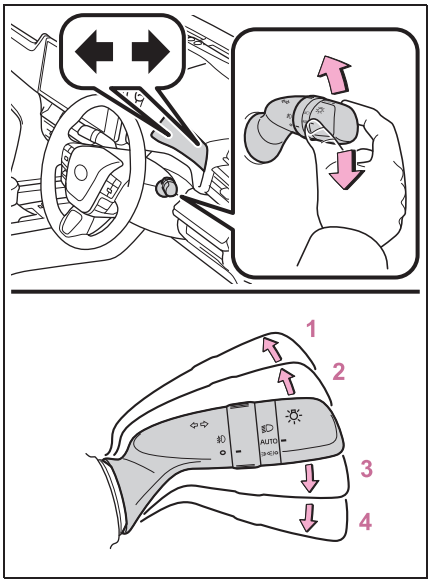
●エンジンの過回転を防止するため、シフトレンジが 4 以下の場合、自動的にシフトアップが行われることがあります。

■シフトレバーをSにシフトしてもSインジケーターが点灯しない、またはDインジケーターが表示される場合

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

すべての方向指示灯が点滅しているか、確認してください。(→P.339)
すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

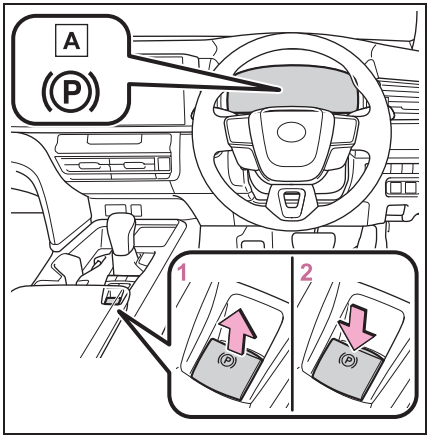
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.141)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.358)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.140)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチ

インフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席のドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●シフトレバーが P もしくは N 以外の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒

間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.121

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.352

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.273

⚠ 警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてください。車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.386)

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

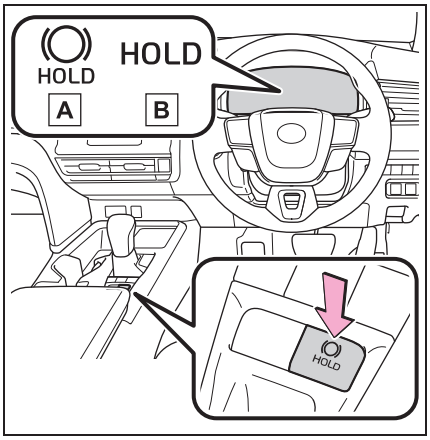
ブレーキホールド

シフトレバーがD・S ・Nまたは Pでブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

●マルチインフォメーションディスプレイに、「EPB 動作が途中で停止しました 」や「EPB 故障　販売店で点検してください」が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P.140)

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください” または “BrakeHold 故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯が点滅したときは

→P.358

⚠警告

■次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

●急坂路

●すべりやすい路面

●自動洗車機を使用するとき

●けん引されるとき

⚠注意

■駐車するとき

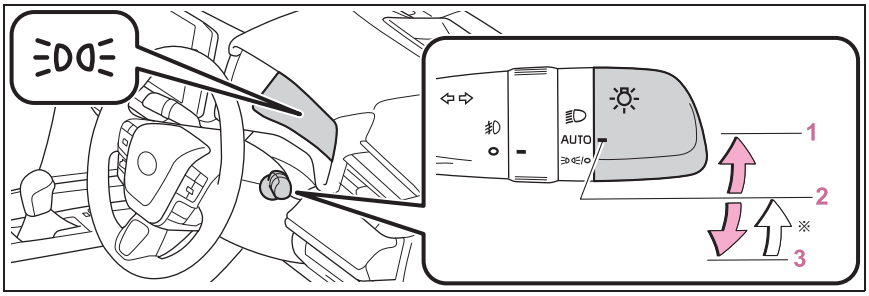
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 /Oの位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO	デイタイムランニングランプ（→P.146）が点灯 ※2	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 /O ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※3

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 3 /Oの状態に切りかえるには スイッチを下に回した状態で約 1 秒保持してから、手を離します。

約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2 AUTO のまま変化しません。

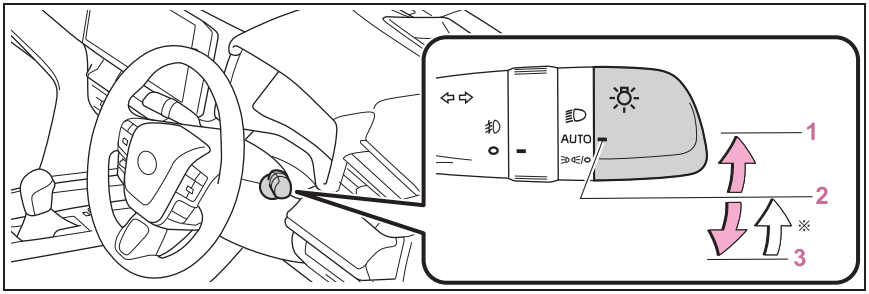
※2 周囲の明るさに従って、尾灯・番号灯が自動的に点灯・消灯します。

※3 停車中から低車速での走行中にのみ点灯します。
ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、2AUTOでの点灯状態にもどります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・デイタイムランニングランプ（→P.146）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※ シフトポジションが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。
シフトポジションを P 以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■デイタイムランニングランプ

●日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチ または AUTO ※ をにすると、デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

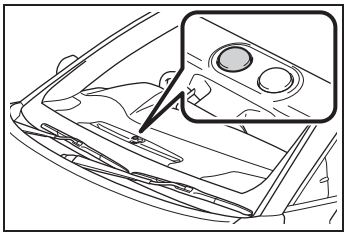
※：周囲が明るい場合

デイタイムランニングライトは、パーキ

ングブレーキを再度かけた場合でも、点灯した後は点灯したままになります。

●デイタイムランニングライトシステムは、ヘッドライトを点灯する場合に比べて耐久性が高く、消費電力も少ないため、燃費向上に貢献します。

■ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。
周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

●パワースイッチを OFF にした場合、ドアを開閉してから 30 秒後にヘッドライトとテールライトが消灯します。（全てのドアを閉めた後にキーを ON にした場合は、すぐに消灯します。）

●テールランプのみ点灯している場合：パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けると、テールランプは自動的に消灯します。

ライトを再び点灯させるには、パワースイッチを ON にするか、ライトスイッチを一度 OFF にしてから または に戻してください。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはトランクを開閉したとき

■ドアのロックを解除したとき（ウェルカムランプ）

周囲が暗くなるとパーキングライトが自動的に点灯し、ライトスイッチが AUTO の位置にある場合はエントリー機能またはワイヤレスリモコンを使用してドアのロックが解除されます。

■カスタマイズ機能

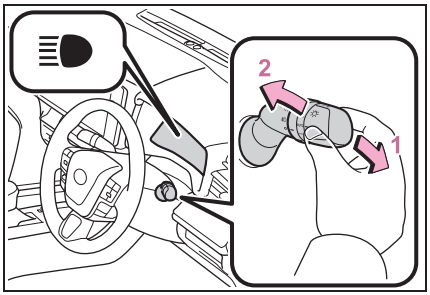
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.407)

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

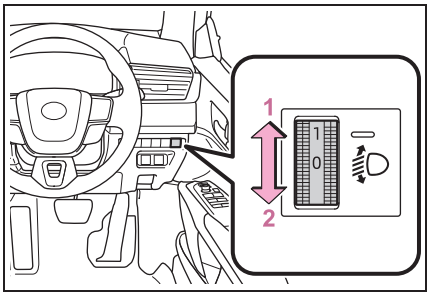
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

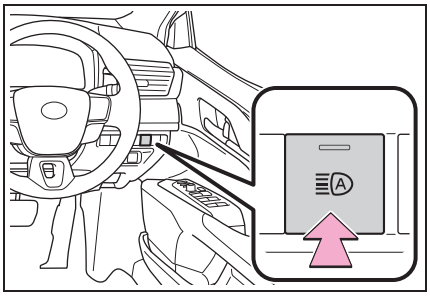
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

オートマチックハイビームを使うには

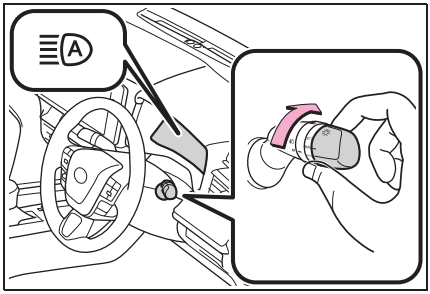
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを AUTO または

 の位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します
- 車速が約 34 km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 27 km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・車両が設計された国の道路の反対側を車両が走行する地域で車両を使用する場合（例えば、右側通行用に設計された車両を左側通行地域で使用する、またはその逆）
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.162
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166

■フロントカメラの感度を一時的に下げる

フロントカメラの感度を一時的に下げることができます。

1 以下の条件を満たしている場合は、パワースイッチを OFF にしてください。

・ヘッドライトスイッチが  または

AUTO の位置

・ヘッドライトスイッチレバーはロービームの位置
・オートマチックハイビームが ON

2 パワースイッチを ON にする。

3 2 の手順を実行してから 60 秒以内に、ヘッドライト スイッチ レバーをハイビームの位置に押し、その後素早く元の位置に 10 回引いて、レバーを元の位置にしたままにします。

4 感度が変更されると、AHB 表示灯が 3 回点滅します。

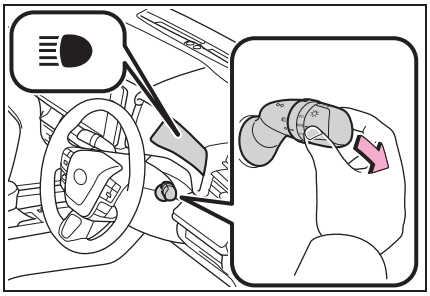
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

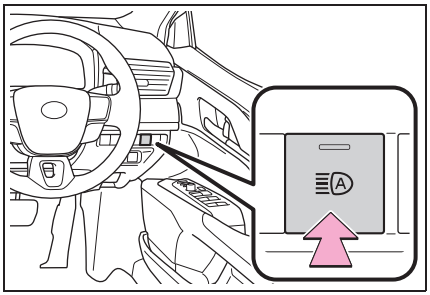


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

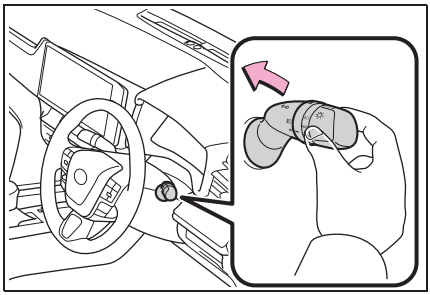


■ 一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

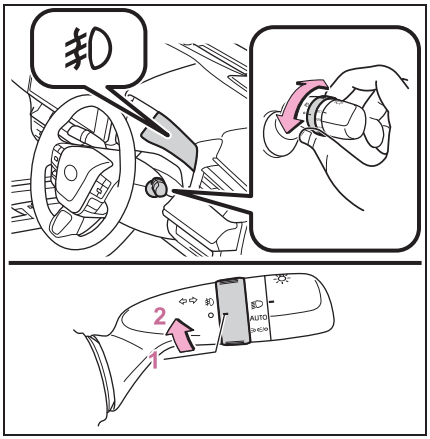
レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた



1　消灯する

2　点灯する

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

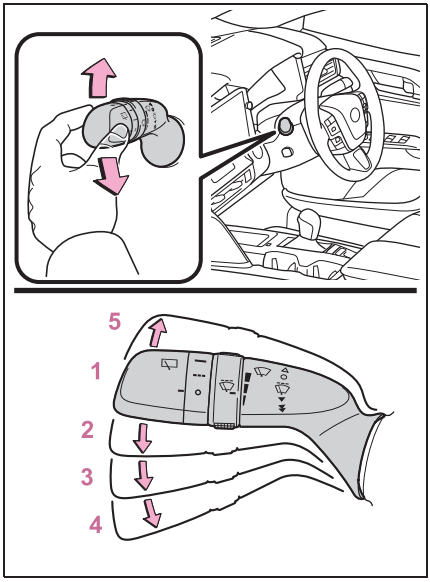
ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

▶ 間欠時間調節式ワイパー装着車

次のように　レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



1　OFF

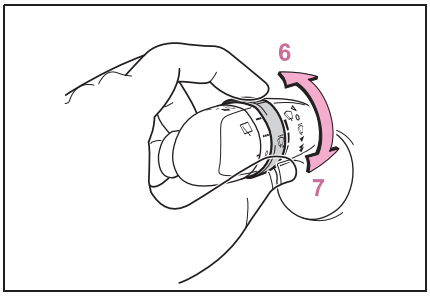
2 間欠ワイパー作動

間欠ワイパーは、車速が上昇するにつれて作動頻度が高くなります。

3 ▼ 低速ワイパー作動

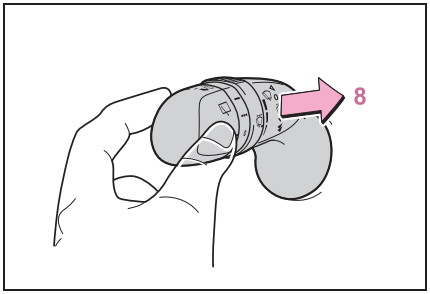
4 ▼▼ 高速ワイパー作動

5 △ 一時作動



6 間欠ワイパーの作動頻度を上げる

7 間欠ワイパーの作動頻度を下げる



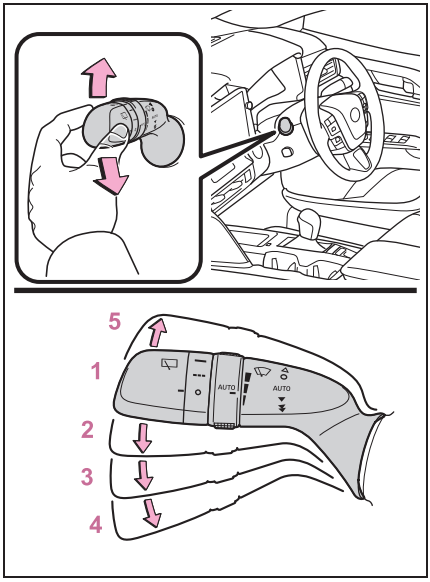
8 ウォッシャー / ワイパー同時作動

レバーを引くと、ワイパーとウォッシャーが作動します。

ウォッシャーが噴射した後、ワイパーは自動的に数回作動します。（数回作動した後、液だれ防止のため、少し時間をおいてもう一度作動します。ただし、走行中は液だれ防止機能は作動しません。）

▶ 雨滴感知ワイパー装着車

AUTO を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 O OFF

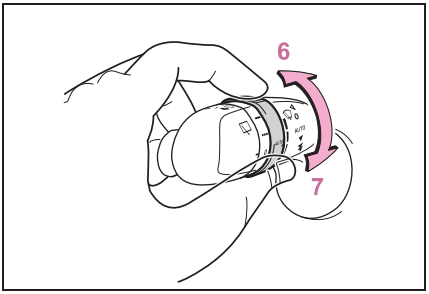
2 AUTO 雨滴感知オート作動

3 ▼ 低速ワイパー作動

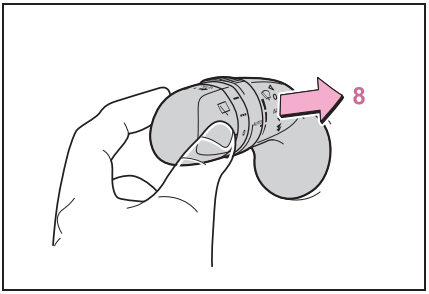
4 ▼▼ 高速ワイパー作動

5 △ 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整することができます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）
7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。）

知識

■作動条件

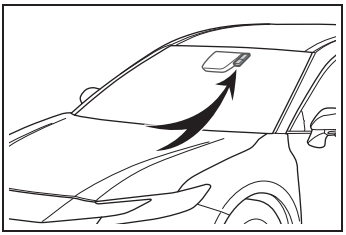
パワースイッチが ON のとき

■車速によるワイパー作動への影響

車速は間欠ワイパーの作動間隔に影響します。

■車速による作動への影響（雨滴感知ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチが ON のときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能（雨滴感知ワイパー装着車）

AUTO を選択した場合、ワイパー作動中にフロントドアを開けると、停車中であればワイパーからの水しぶきが車内にいる人にかかるのを防ぐため、ワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると、ワイパーは作動を再開します。

⚠ 警告

■AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知ワイパー装着車）

AUTO を選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

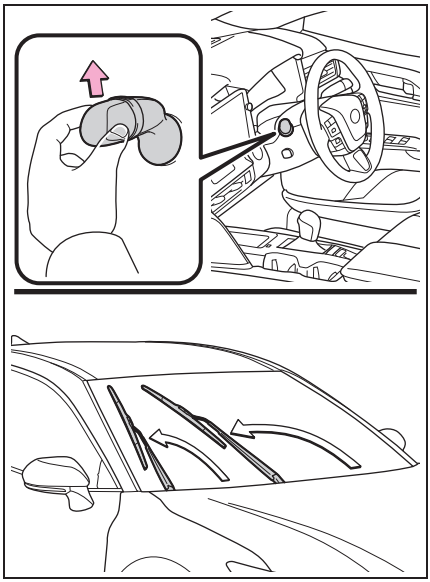
ワイパーの停止位置の変更 / ワイパーの持ち上げ

ワイパーは使用していないときはボンネットの下に収納されています。寒冷時に駐車する場合やワイパーインサートを交換する場合は、ワイパーレバーを使用してワイパーをサービスポジションにすることで、ワイパーを上昇させることができます。

■ ワイパーをサービスポジションまで上げる

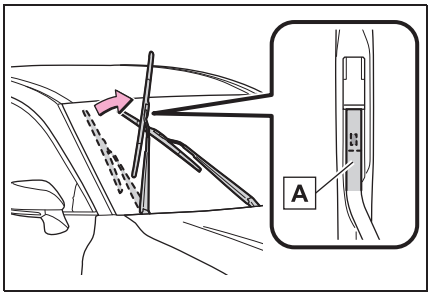
パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に、ワイパーレバーを ▲ の位置に動かし、約 2 秒以上保持します。

ワイパーがサービス位置に移動します。



■ ワイパーの持ち上げ方

ワイパーアームのフック部分を持ち、ワイパーをフロントガラスから持ち上げます。



A フック部分

知識

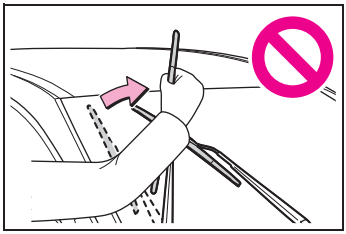
■ワイパーを格納位置まで下げる方法

ワイパーをフロントガラスに取り付けた状態で、パワースイッチを ON にし、ワイパーレバーを操作位置にします。ワイパースイッチを OFF にすると、ワイパーは格納位置で停止します。

注意

■ワイパーを上げる際

- ワイパーがボンネットの下に格納されている状態では、ワイパーを持ち上げないでください。ボンネットに接触し、ワイパーやボンネットが損傷する恐れがあります。
- ワイパーブレードを持ってワイパーを持ち上げないでください。ワイパーブレードが変形する恐れがあります。



- ワイパーが上がっている状態でワイパーレバーを操作しないでください。ワイパーがボンネットに接触し、ワイパーやボンネットが損傷する恐れがあります。

給油口の開け方

次の手順で燃料タンクのキャップを開くことができます。

密閉式タンク搭載車：車両の燃料タンクは特殊な構造になっており、給油前に燃料タンク内の圧力を下げる必要があります。オープナースイッチを押してから給油準備ができるまで数秒かかります。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

→P.398

■無鉛レギュラーガソリン用燃料タンク開口部

誤った燃料補給を防ぐために、車両には無鉛燃料ポンプの特殊ノズルのみが取り付けられる燃料タンク開口部が設けられています。

⚠警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
- 喫煙しないでください。
- 除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

■給油するとき

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

- 燃料ノズルを燃料給油口にしっかりと差し込んでください。
- 燃料ノズルが自動的にカチッと音がして外れたら、給油を中止してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。

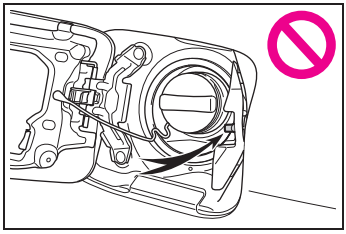
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

⚠ 注意

■給油

●密閉式タンク搭載車：給油は 30 分以内に行ってください。30 分を超えると内部バルブが閉じ、給油中に燃料が溢れる可能性があります。給油口開閉スイッチを再度押してください。

●密閉式タンク搭載車：給油口ロックが燃料ノズルブーツなどで押されていないことを確認してください。
ロックが押された状態だと内部バルブが閉じ、燃料が溢れる可能性があります。これを防ぐには、給油口開閉スイッチを再度押してください。

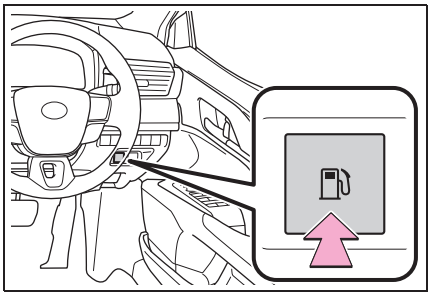


●給油中は燃料をこぼさないでください。
燃料をこぼすと、排ガス浄化装置の異常作動や燃料系統部品、車両の塗装面の損傷など、車両に損傷を与える可能性があります。

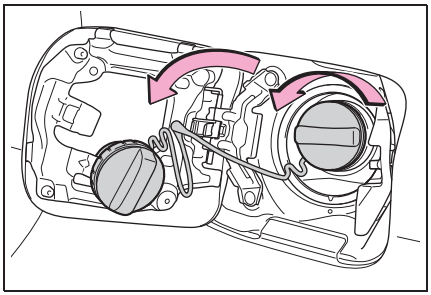
給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押す

密閉式タンク搭載車：スイッチを押してから約 10 秒以内に給油扉が開きます。給油が可能になる前に、メーターパネル内のマルチインフォメーションディスプレイに給油口ドアオープナーの作動状況を示すメッセージが表示されます。



2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



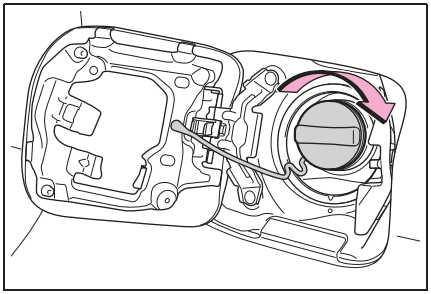
知識

■給油扉が開かない場合

トヨタ販売店へご連絡ください。

給油口の閉め方

キャップを “ カチッ ” と音がするまでまわして閉める



知識

■マルチインフォメーションディスプレイに「燃料キャップを確認してください」と表示されたら（密閉式タンク搭載車）

燃料タンクキャップが緩んでいる可能性があります。パワースイッチを切り、キャップを確認してしっかりと締めてください。メッセージが消えない場合は、数秒待ってから再度パワースイッチを切ります。

⚠警告

■燃料タンクキャップを交換する際は

トヨタ純正の燃料タンクキャップ以外は使用しないでください。純正品以外のキャップを使用すると、火災などの事故を引き起こし、死亡または重傷につながる可能性があります。

ソフトウェアアップデートを確認する

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

マルチメディアディスプレイ※／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 メインメニューの「⁘」にタッチします。
2 「運転支援アップデート」にタッチします。

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートが利用可能な場合は、センターディスプレイに通知が表示されます。画面に表示される指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。
変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき※

・法規上の問題が発生したとき※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

⚠ 警告

- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.149

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.172

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.181

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.186

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.191

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.198

■ レーダークルーズコントロール

→P.201

■ クルーズコントロール

→P.211

■ ドライバー異常時対応システム

→P.215

■ ドライバーモニター★

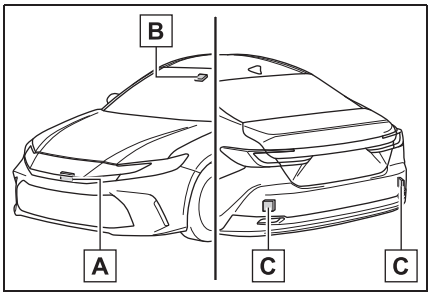
→P.170

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

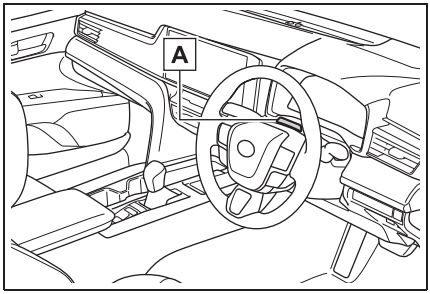


A 前方レーダー

B 前方カメラ

C 後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

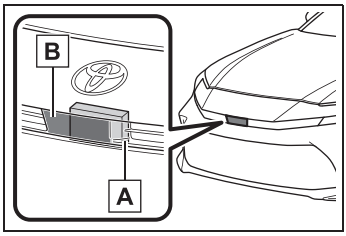
■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への衝撃を避けるレーダー・フロントグリル・フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

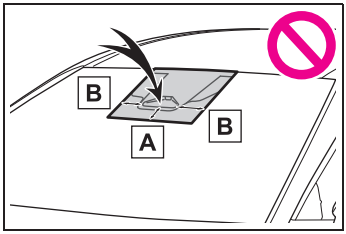
・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

■ドライバーモニターカメラの取り扱いについて（ドライバーモニターカメラ装着車）

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●ドライバーモニターカメラを分解・改造しない

●ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない

●ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない

●ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない

●ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない

レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。

●お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

知識

■センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●外気温が高温または低温のとき

●センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミ などが付着したとき

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき

・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール

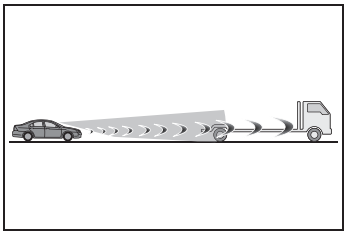
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

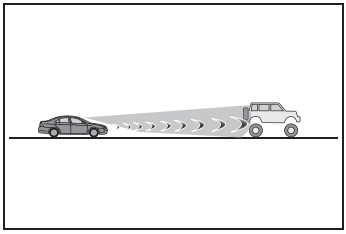
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

●VSC・TRC 等の安全システムが作動したとき

●VSC・TRC 等の安全システムが OFF になったとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況（ドライバーモニター装着車）

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

●炎天下での駐車後など、車内が高温のとき

●強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

●周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき

●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき

●眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき

●助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき

●前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき

●ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき

●帽子を被っているとき

●眼帯を着用しているとき

●赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき

●コンタクトレンズをつけているとき

●マスクを着用しているとき

●笑ったり、眼を細めたりしているとき

●眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき

●眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき

●眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき

●車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

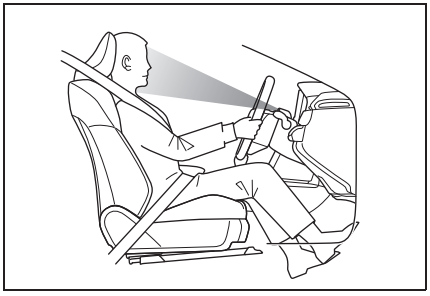
ドライバーモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

ドライバーモニターが正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラで運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」参照。(→P.117)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■ 注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始されます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴情報を数値化し、車両に装備されたコンピューター内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

●お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。

●数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。

●顔情報はお客様自身で削除することが可能です。

●顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。

・顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。

・顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。

・コンピュータに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。

・消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

■顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

●顔の一部 (眉、目、鼻、口のいずれか) が隠れている状態

●眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している

●正面を向いていない場合

●髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリー等で顔の一部が隠れている

●目を閉じている

●双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.162

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.411)

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.172）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.180）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

●安全にお使いいただくために：→P.162

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

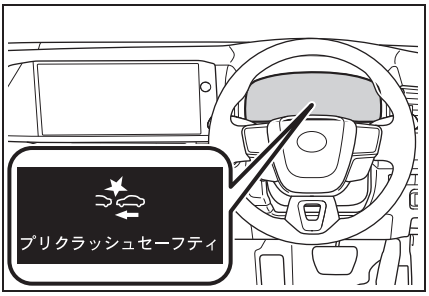
※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

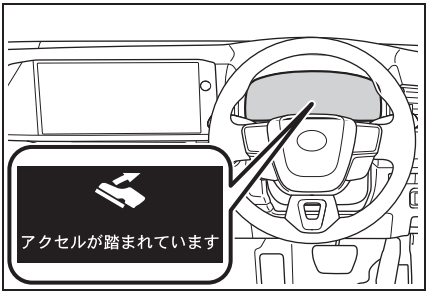
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

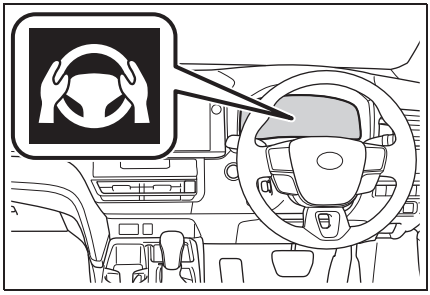
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

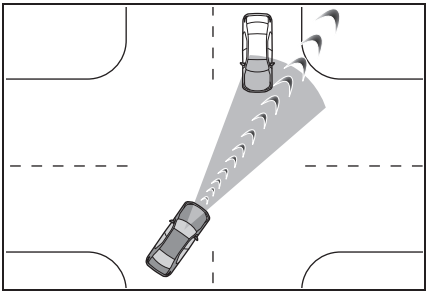


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

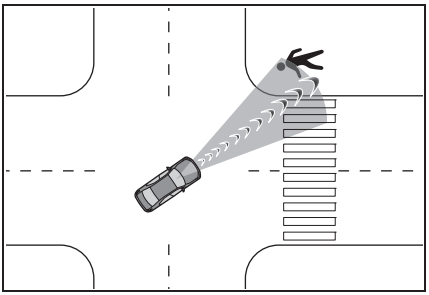
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車/対向自動二輪車の進路を横切るとき

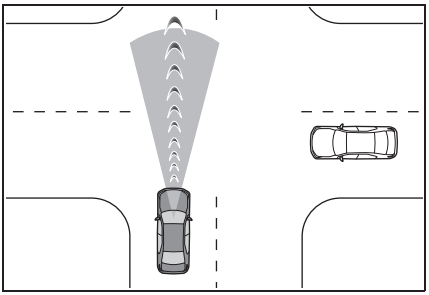


● 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



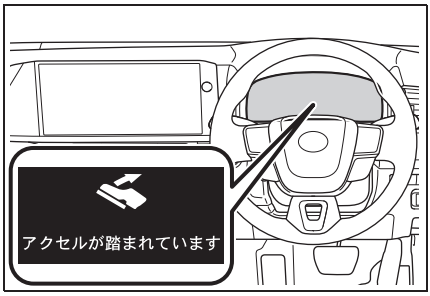
■ **交差点衝突回避支援（出合頭車両）**

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ **低速時加速抑制**

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



⚠ 警告

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

⚠ 警告

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステム

が判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを激しく、または急に操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを激しく、または急に操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	●自車速度以下 ●約 40km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

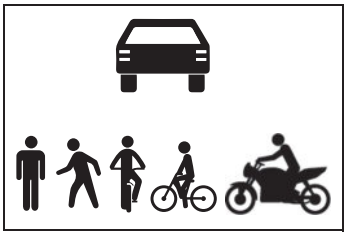
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

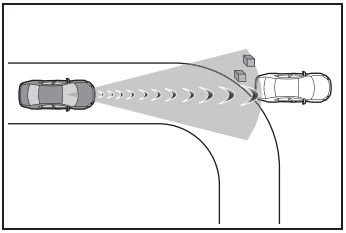
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



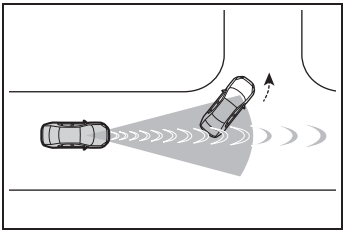
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

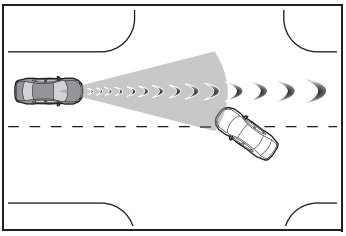
・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・ 作動対象などに急接近したとき
・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



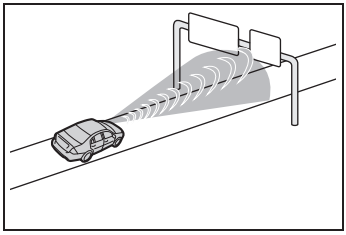
・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



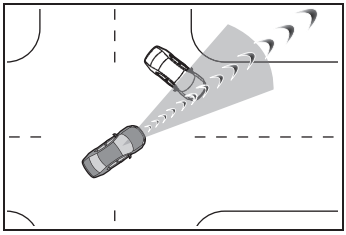
・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



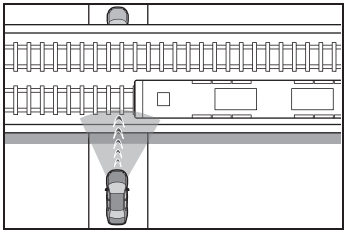
・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
・ 交差点内で右折中、対向車 / 対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



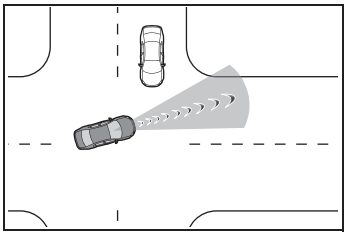
・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき



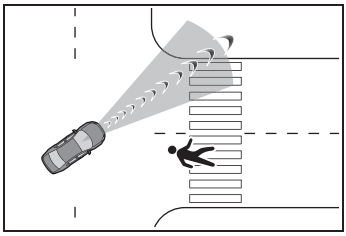
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・ 自車や作動対象がふらついているとき
・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・ 作動対象に急接近したとき
・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・ 作動対象が複数重なっているとき
・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき

・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車 / 対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき
・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.408)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.408)

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

 を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

● ドライバーモニターカメラ装着車：ドライバーが前を向いていないとシステムが判断した場合、ユーザーの設定に関わらず、衝突被害軽減ブレーキおよび緊急

操舵アシストが のタイミングで作動します。

- レーダークルーズコントロール作動中は、ユーザー設定に関わらず衝突警報が のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

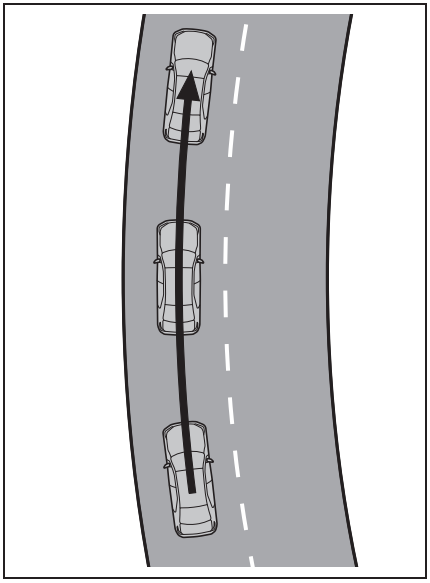
この機能は高速道路および自動車専用道路でのみ使用してください。

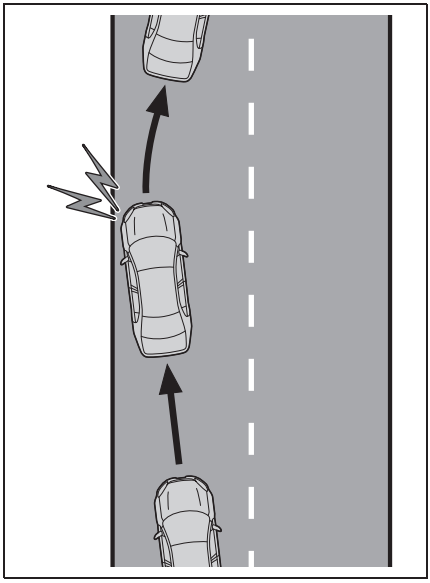
レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。





● この機能が作動中、車両が車線から逸脱しそうになると、ディスプレイとブザーでドライバーに警告します。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。

⚠ 警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき

●レーダークルーズコントロールが作動しているとき

●車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●急カーブを走行していないとき

●一定以上の加減速がないとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起 (→P.183) が行われていないとき

●車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。(→P.182)

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

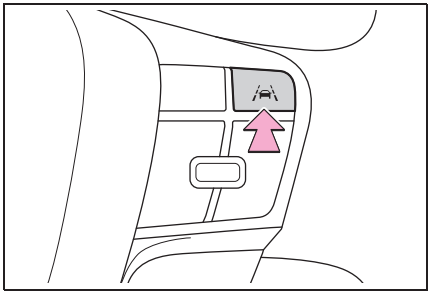
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON ／ OFF を変更する

LTA の ON ／ OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

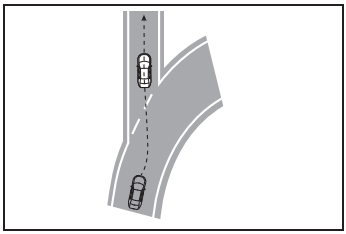


⚠ 警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.167
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 白色	 灰色／白色	 灰色	LTA がスタンバイ中
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

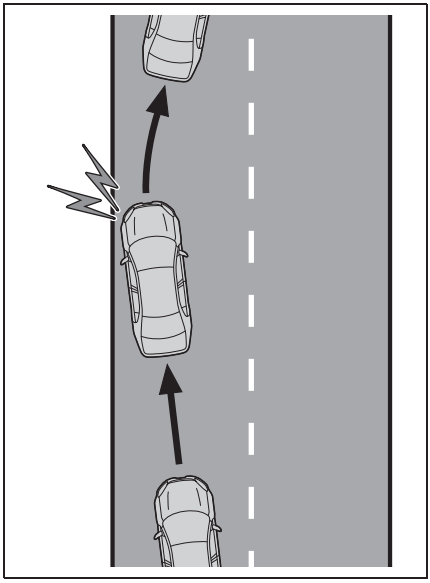
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



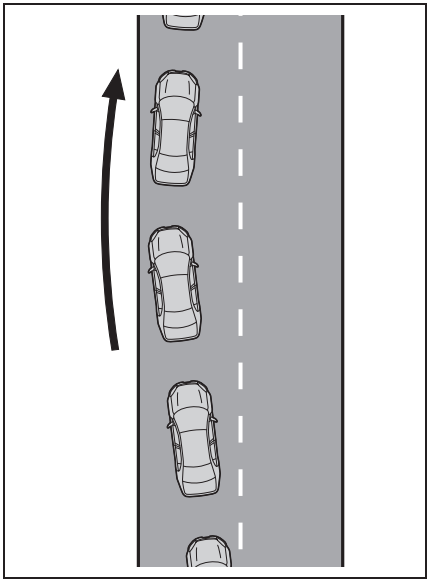
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

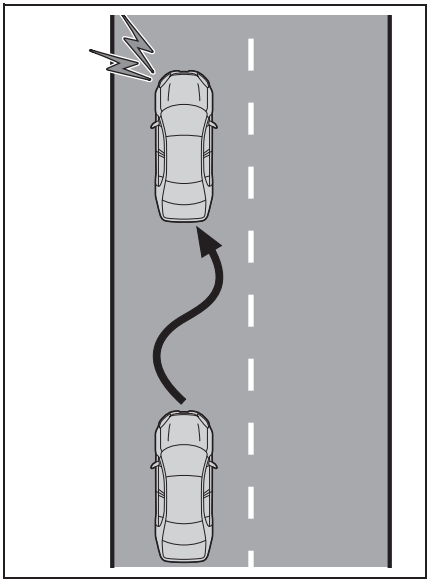
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



⚠警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。
LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

・車速が約 50km/h 以上のとき
車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)

・システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・VSC または TRC を OFF にしていな

いとき

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件 (→P.187) が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する車線逸脱警報 / 抑制機能が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に車線逸脱警報 / 抑制機能が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●ドライバーモニターカメラ装着車：運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する警報、抑制のタイミングが変化します。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタ

マイズメニューから切りかえることができます。(→P.408)

● カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→P.410)

⚠ 警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.167
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.168
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.192）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.193）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト（OAA）	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
減速アシスト（DA）	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト（SA）	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30 ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30 ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・ レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・ PCS が OFF のとき
・ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.166
・ シフトポジションが P、R または N のとき
・ 運転席シートベルトを着用していないとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。
・ 車速が約 15km/h 以下のとき
・ 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・ 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・ 車線が検出できなくなった場合
・ ブレーキ操作を行った場合
・ アクセル操作を行った場合
・ 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・ 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.167

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

⚠ 警告

- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1 m 以下、または約 2 m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。(→P.409)
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.409)

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを

使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●車両や樹木、看板などにより信号を正

しく認識できないとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

●道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合

●歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合

●交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合

●日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON ／ OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動 / 非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.410）

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.410）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166

ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行して

いるとき

- ●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- ●工事などの通行規制区間に標識があるとき
- ●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- ●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ●ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知 (例えば、強調表示やブザー吹鳴) します。

- ● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- ● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- ● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

・ 最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識のあいだを通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が矢印信号のとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

● 車の仕様によっては、表示される標識が一か所に重複する場合があります。

	重複表示の例

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.410)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

レーダー クルーズ コントロールは高速道路および自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.206

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

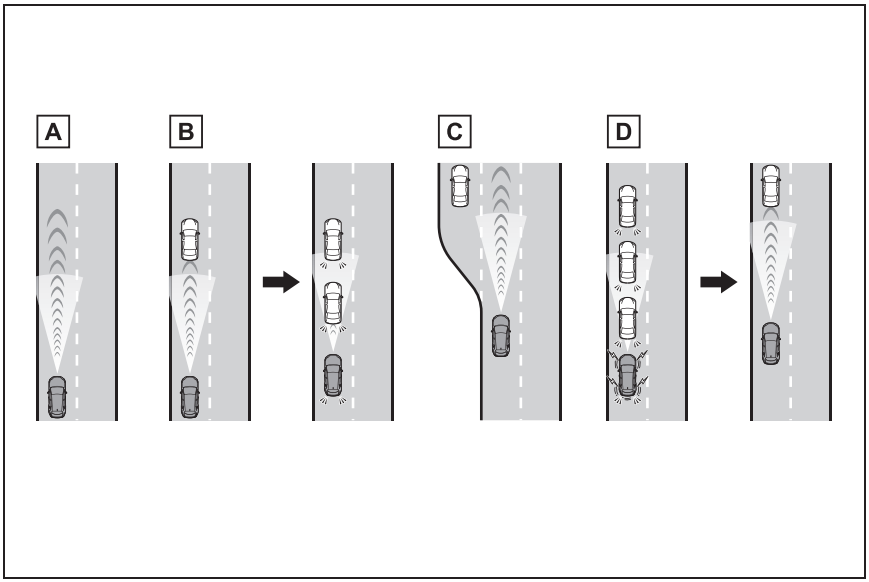
⚠警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.166
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.167

基本機能



A 定速走行：先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

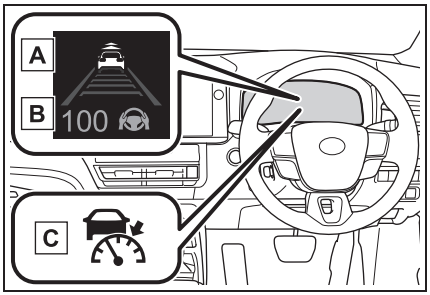
C 加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RES スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

システムの構成部品

■ メーター表示

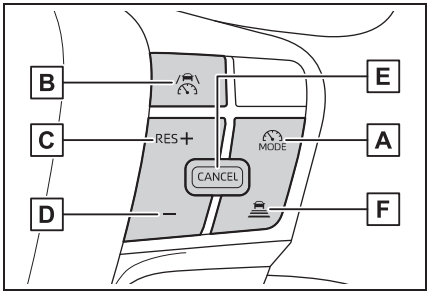


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D “-” スイッチ

E キャンセルスイッチ

F 車間距離切りかえスイッチ

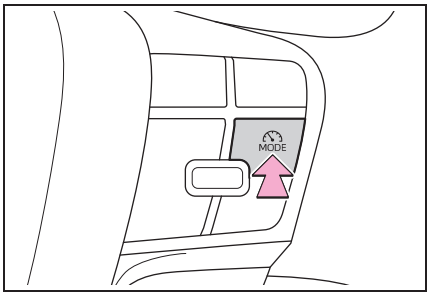
レーダークルーズコントロールを使用する

速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。

レーダークルーズコントロール表示灯が

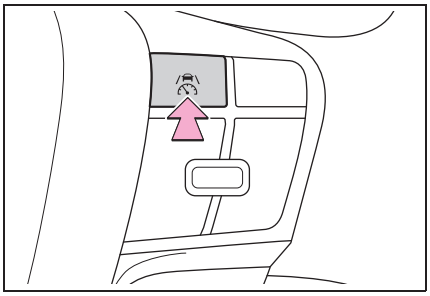
点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

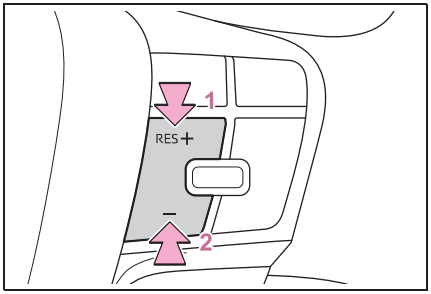
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

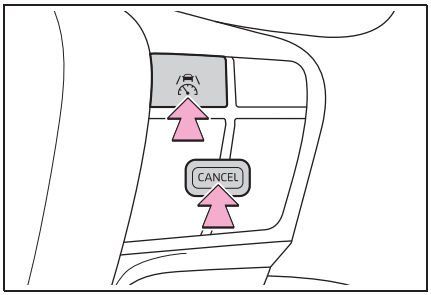
カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

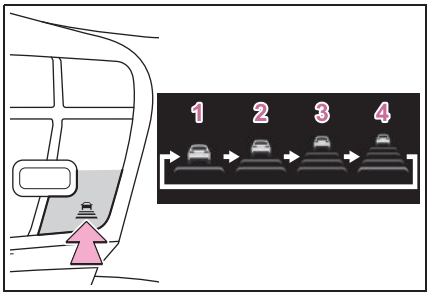
（制御停中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速 100km/h の場合）
1	短	約 30m
2	中	約 45m
3	長	約 60m
4	最長	約 70m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
- 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に “RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行に

もどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- ●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- ●パーキングブレーキが作動したとき
- ●走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- ●プリクラッシュセーフティが OFF のとき
- ●急坂路で制御停車したとき
- ●制御停車中に次を検出したとき
  - ・運転席シートベルトを着用していない
  - ・運転席ドアが開いた
  - ・車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

- ●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.168

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.162

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報 (→P.206) も作動しないおそれがあります。

- ●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- ●自車が車線変更しているとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●同じ車線に停車中の車がいるとき
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ●先行車が急ブレーキをかけたとき
- ●渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- ● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ● 先行車が極端な低速走行をしているとき
- ● 速度を設定した直後
- ● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニターサポート機能（装備されている場合）

ドライバーモニターの警告が表示されている間は、車両の加速が抑制されます。

ドライバーモニターの警告が消えると、加速抑制制御は終了します。

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

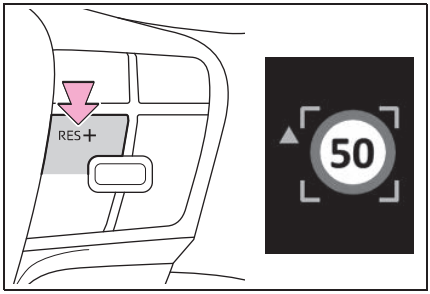
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

レーダークルーズコントロール（ロードサインアシスト連携機能付き）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

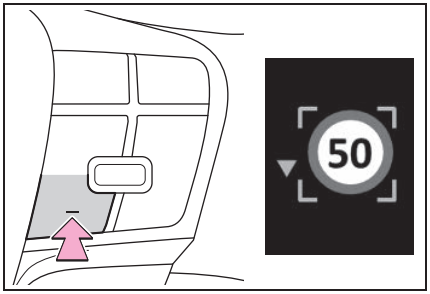
RSA 機能が有効で、レーダークルーズコントロールが作動しているときに最高速度標識を検出すると、検出された制限速度が上下の矢印とともに表示されます。“+” スイッチまたは “-” スイッチを長押しすることで、設定速度を検出された制限速度まで増減できます。

● 現在の設定速度が検出された制限速度よりも低い場合



“+” スイッチを押し続けます。

● 現在の設定速度が検出された制限速度よりも高い場合



“-” スイッチを押し続けます。

知識

■レーダークルーズコントロール（ロードサインアシスト連携機能付き）は、以下の場合には正常に作動しないことがあります。

レーダークルーズコントロール（ロードサインアシスト連携機能付き）は、RSAが作動しない、または標識を正しく検出できない状況では正常に作動しない場合がありますので、(→P.198) この機能を使用する際は、必ず実際の制限速度を確認してください。

以下の状況では、“＋” スイッチまたは“-” スイッチを長押ししても設定速度が検出された制限速度に変更されない場合があります。

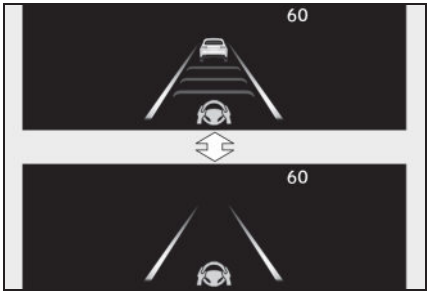
- 制限速度情報が入手できない場合
- 検出された制限速度が設定速度と同じ場合
- 検出された制限速度がレーダークルーズコントロールシステムが作動できる速度範囲外である場合

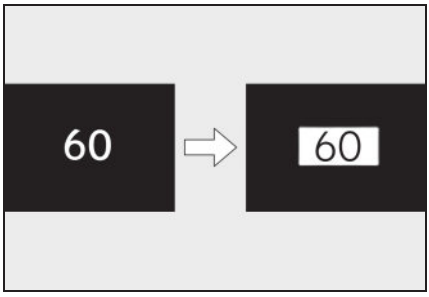
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.408)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

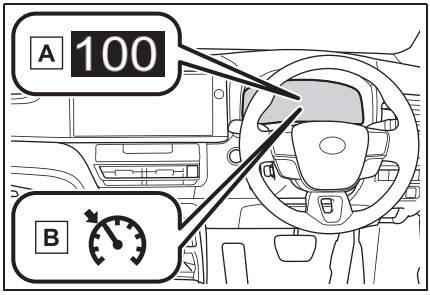
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.162

システムの構成部品

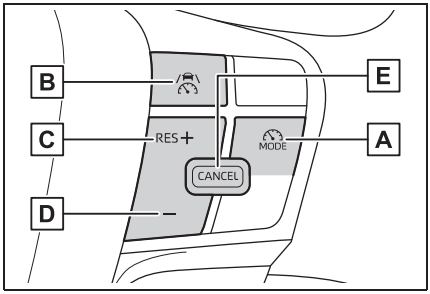
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D “-” スイッチ

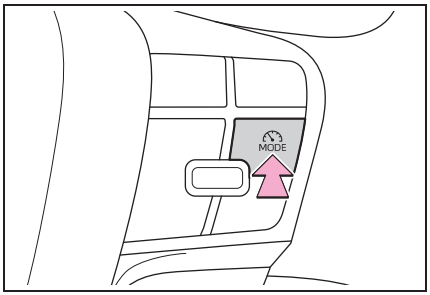
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

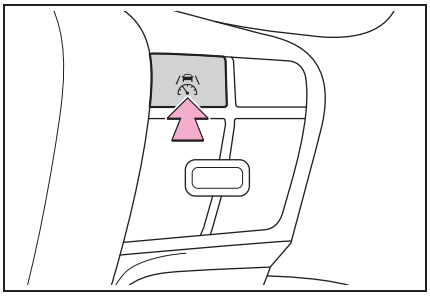
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

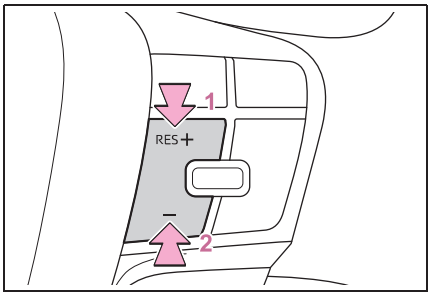
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

■ スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる
2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すたびに 1 km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

■ アクセルペダルで設定速度を上げる

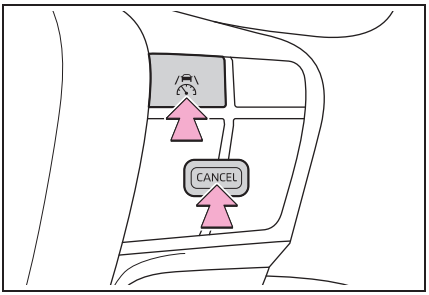
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除され

ます。



2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

知識

■クルーズコントロールの自動解除

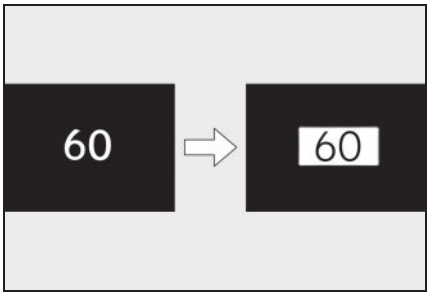
次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- ●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- ●車速が約 30km/h 未満になったとき
- ●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- ●パーキングブレーキが作動したとき
- ●運転席シートベルトを着用していないとき
- ●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.168

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色	[redacted]	なし	クルーズコントロール OFF

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

●ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況（ドライバーモニター装着車）→P.171

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識して

いるとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

●自車速が約 50km/h 以上

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.168

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバーモニターカメラ装着車：ドライバー異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

●LTA

⚠警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

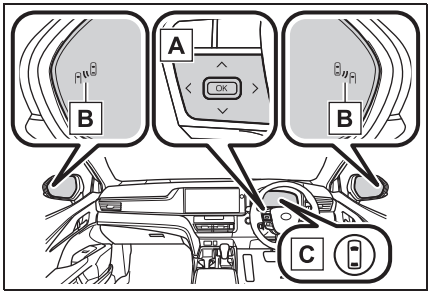
⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター(→P.66) が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.411)

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



C5-000-1

⚠ 警告

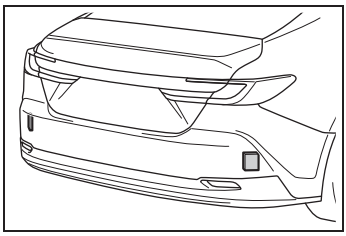
■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

⚠ 警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件 (→P.221) でしばらく走行してください（目安：約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

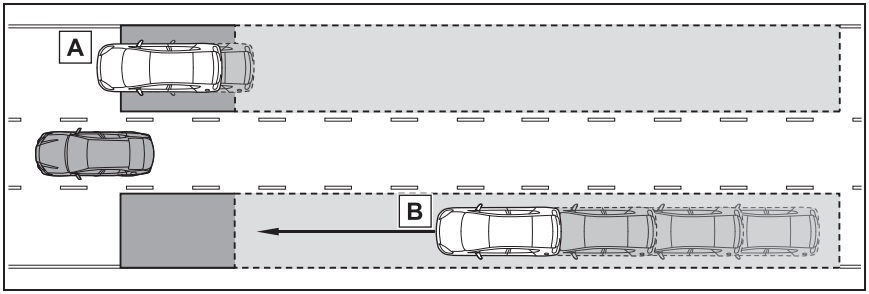
ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.411)

ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯 (→P.67) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

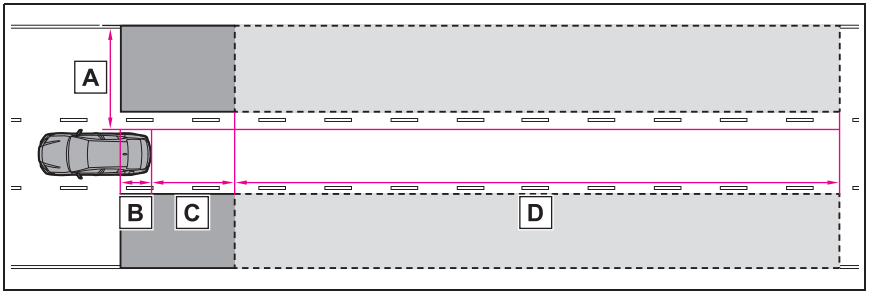


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※2

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※3

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車が追いこされる場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続

します。

※3自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P.186 を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●パワースイッチが ON のとき
- ●ブラインドスポットモニターがONのとき
- ●シフトレバーが R 以外のとき
- ●車速が約 10km ／ h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- ●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- ●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- ●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- ●対向車
- ●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ●同じ車線を走行する後続車※
- ●2 つ隣の車線を走行する他車※
- ●大きい速度差で自車が追いこす他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- ●方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき
- ●大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき※

※状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- ●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき

・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

後方車両接近告知★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

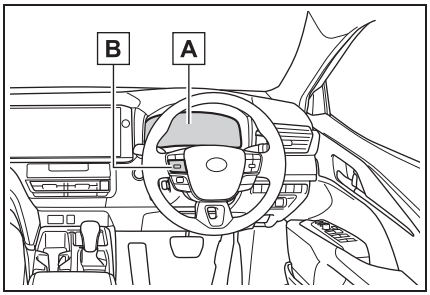
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.218

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B メーター操作スイッチ

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.411）

知識

■ブザー音の聞こえ方について

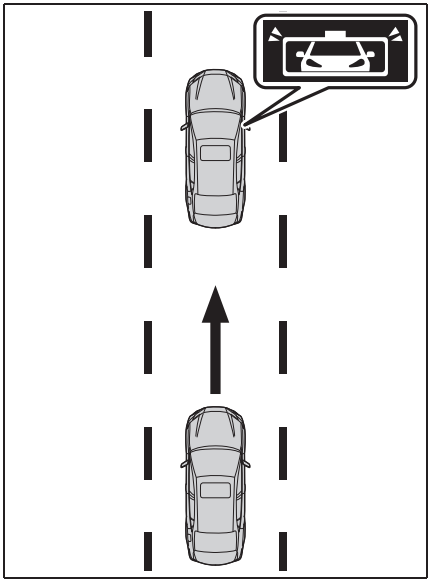
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.411）

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

■後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 後方車両接近告知が ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 車速が約 60km ／ h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約5分以上経過していること

■センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知

範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
・後続車が自車から離れていくとき
・後続車が自車を追い越そうとしているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート（通報提案機能）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

周辺車両接近時サポートは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

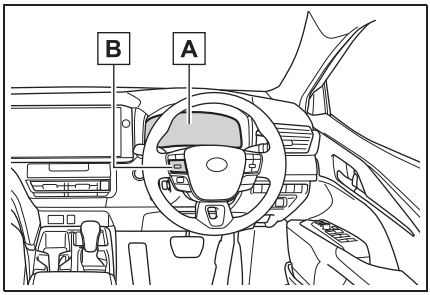
周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

■システムを正しく作動させるために

→P.218

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B メーター操作スイッチ

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.412)

知識

■音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

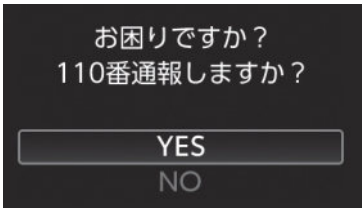
後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイで “はい（YES）” を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



知識

■周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 車速が約 60km ／ h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 10 分以上経過しているとき

■通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

- 携帯電話の電波が圏外でないとき
- 携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ヘルプネット接続提案の作動条件

- 通報提案がされていないとき
- ヘルプネットの契約がされている

■センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

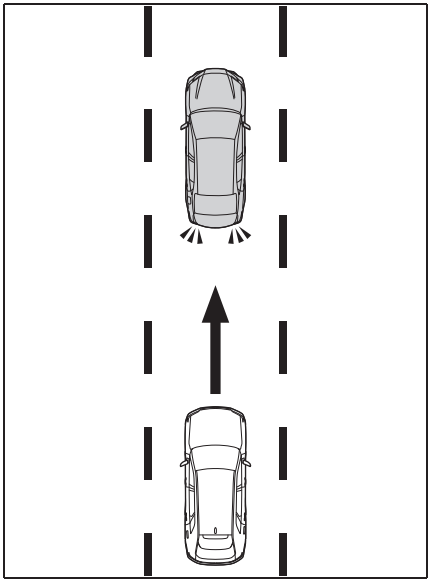
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.218

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



知識

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km ／ h ～ 100km ／ h の間
- 自車の車速が約 10km ／ h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車、または走行しているとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

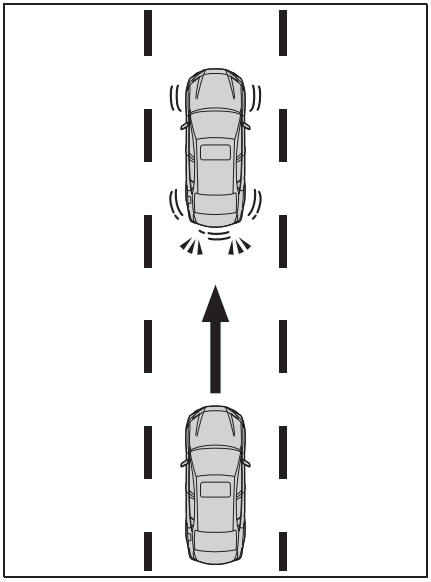
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.218

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約7分以上経過しているこ

と

●自車から見た後方車の接近速度が約30km／h～100km／hの間

●自車の車速が約0km／hのとき

※シフトレバーがNのときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車しているとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・停車した直後に後方車両が接近したとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
・走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき

・洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

⚠警告

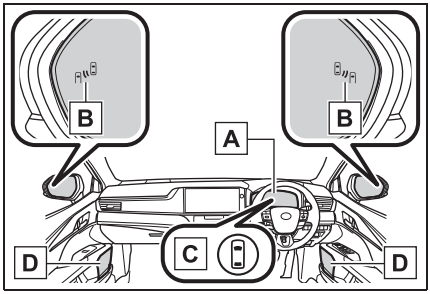
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケーター

開いたドアと衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター (→P.67) が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

D スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
- ドアを開いて乗車後、ハイブリッドシステムを始動するまで
- ハイブリッドシステム停止後3分以上経過したとき
- マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
- 外部より全ドアが施錠されているとき
- ハイブリッドシステム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき
- マルチメディアディスプレイの ACC カスタマイズ (→P.401) が ON の状態で、ハイブリッドシステムが停止されているとき
- マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき

※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.413)

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.218

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.413)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディス

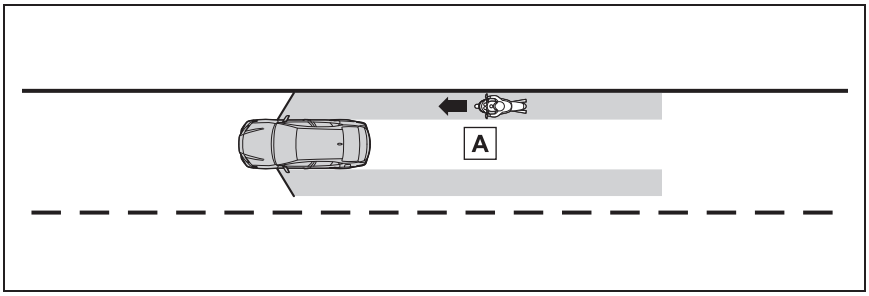
プレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

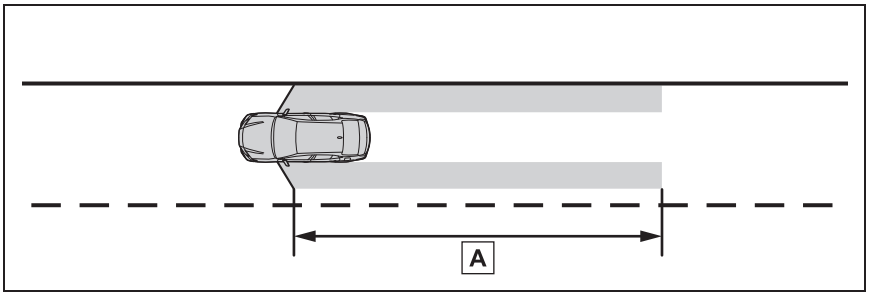
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドアを開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

●安心降車アシストが ON のとき

●停車中

●シフトレバーが R 以外のとき

■センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドアを開けた範囲付近を通過するとき

■システムが車両を検知しない条件

●安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

・接近する車両・自転車の速度が遅いとき※

・ドアを開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※

・真うしろから接近する車両・自転車※

・前方から接近する車両・自転車※

・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

・歩行者・動物など※

※状況によっては検知をすることがあります。

●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

・ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）

・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車しているとき

・隣の駐車車両に後続する車両や自転車

・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車

・発進した直後の車両や自転車

・トランクが開いているとき

・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき

・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき

・道路に対して傾いて停車しているとき

・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき

・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき

・車両や自転車が高速で接近するとき

・けん引しているとき

・急勾配の坂道に停車しているとき

・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・自車の後方からずれた状態で車両や自

転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・トランクが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

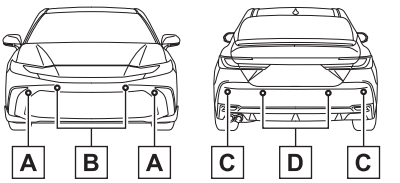
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内※で運転者にお知らせします。

※ 音声案内機能搭載車

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー
B フロントセンターセンサー
C リヤコーナーセンサー
D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチメディアディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯 ★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.237) が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON ／ OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.412)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.67) が点灯します。OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.412) から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。このとき、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切りかえることができません。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

⚠ 警告

- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km ／ h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：シフトポジションが R にあるとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

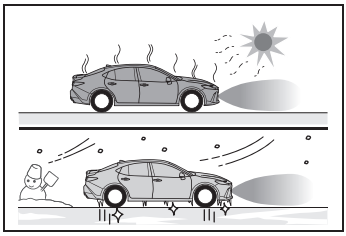
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

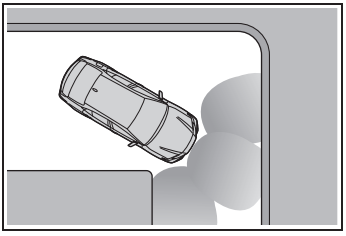
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

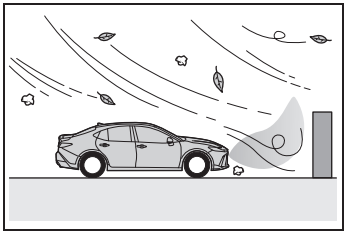
●狭い道路を走行するとき



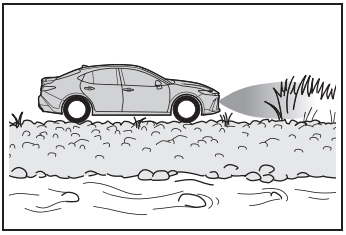
●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐

車場のバーなど）に向かって走行するとき

- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



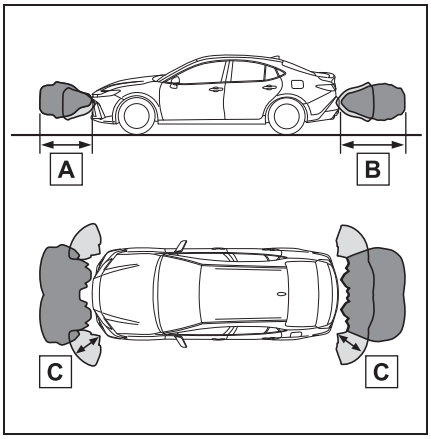
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー：約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー：約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→P.241)

■ 音声案内※ とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。ブザー音と同時に音声案内※ を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

※ 音声案内機能搭載車

知識

■ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD（装備されている場合）の音量を一括で切りかえることができます。(→P.412)

■ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディアディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

●次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠警告

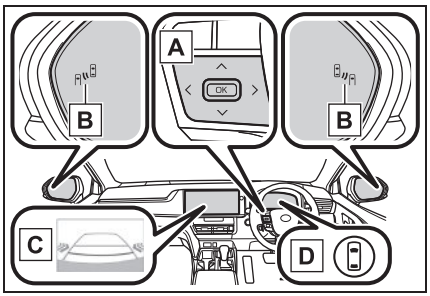
■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.218

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター (→P.67) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.243) が点灯します。イラスト※ は両後方から車両が接近している例です。

※ 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.412)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.66) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

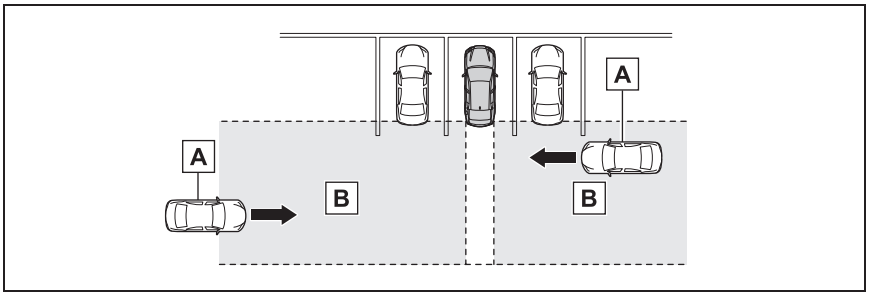
■後側方レーダーセンサーについて

→P.218

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



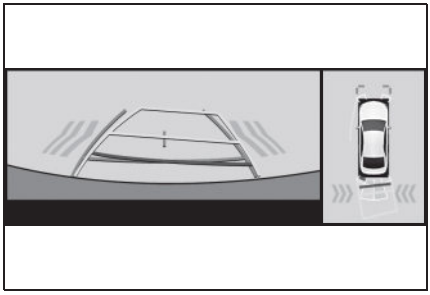
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

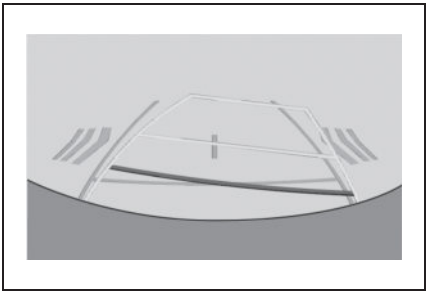
■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

● 例（パノラミックビューモニター）：両方向から車両が接近しているとき

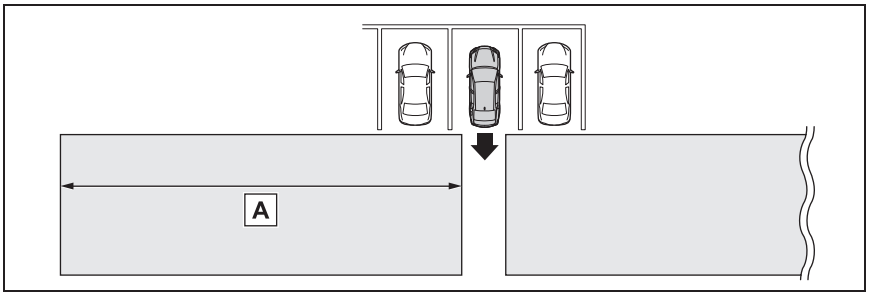


● 例（トヨタパーキングアシストモニター）：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km／h（速い）	30m
8km／h（遅い）	4m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●パワースイッチが ON のとき
- ●RCTA 機能が ON のとき
- ●シフトポジションが R のとき
- ●自車の車速が約 15km／h 以下のとき
- ●接近する他車の車速が約 8km／h ～ 56km／h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD（装備されている場合）の音量を一括で切りかえることができます。(→P.412)

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD（装備されている場合）のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- ●シフトポジションを切りかえたとき
- ●車速が一定値以上になったとき
- ●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

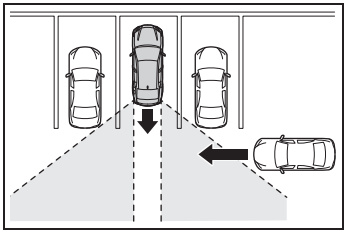
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

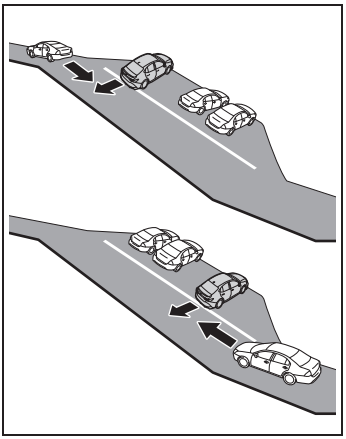
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

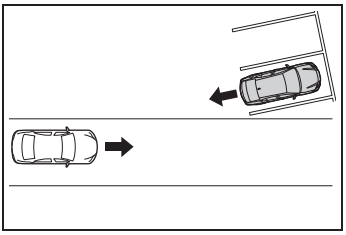
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき

●けん引しているとき

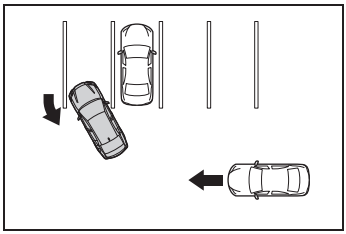
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

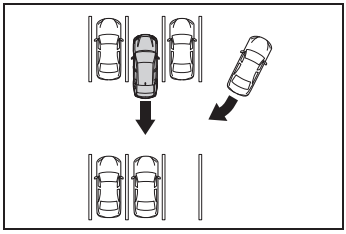
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



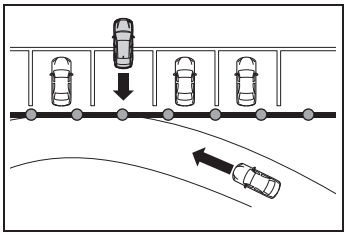
●旋回しながら車両が近付いてきたとき



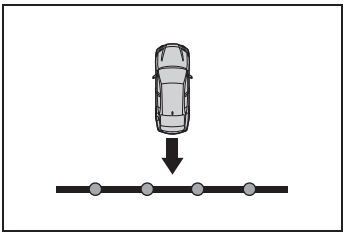
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

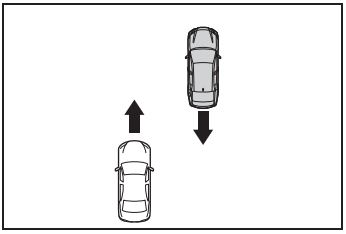


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

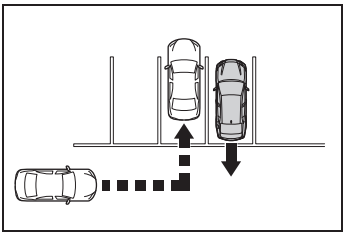


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。

●カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。

●カメラを分解・改造・塗装しないでください。

●カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。

●リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

⚠ 警告

● トランクを完全に閉めてください。

■RCD の機能を OFF にするとき

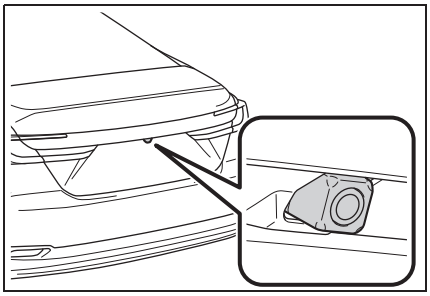
次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 上記の内容が守られないとき

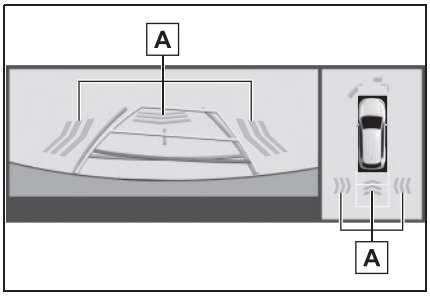
● 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

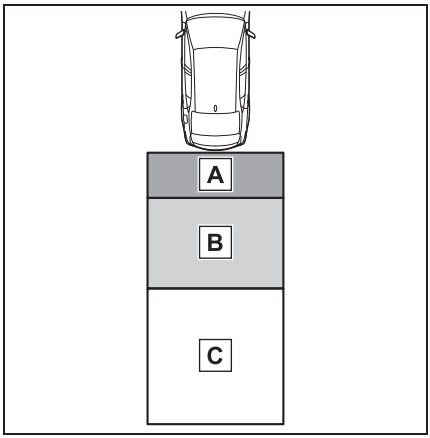
システムを作動させるには

RCD の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます (→P.413)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.67) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリア内にいるとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいるとき
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能がありとシステムが判断したとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

●パワースイッチが ON のとき

●RCD 機能が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

■ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.413)

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボードなどに乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧など）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・けん引しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
・移動物（通行車両、バイクなど）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）：→P.255
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.257
- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★：→P.258

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

⚠ 警告

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキのON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.413)

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.67) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.413) から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例（パノラミックビューモニター※ 装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ

表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例（パノラミックビューモニター※装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例（パノラミックビューモニター※装着車）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

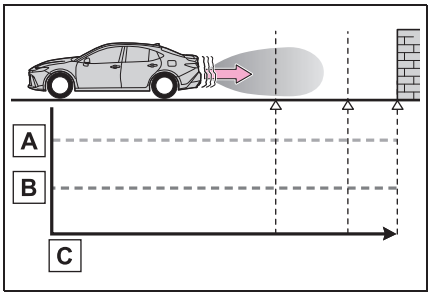
※ パノラミックビューモニターの仕様によっては表示されない場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

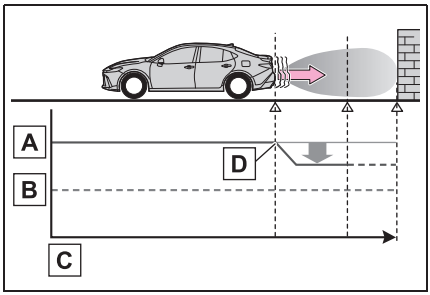


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



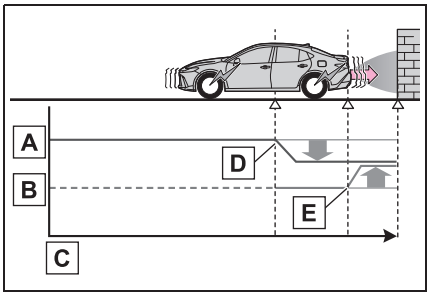
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。(→P.67)：

●シフトポジションを P にする

●進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

●車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく (→P.237)、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ (→P.252)、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

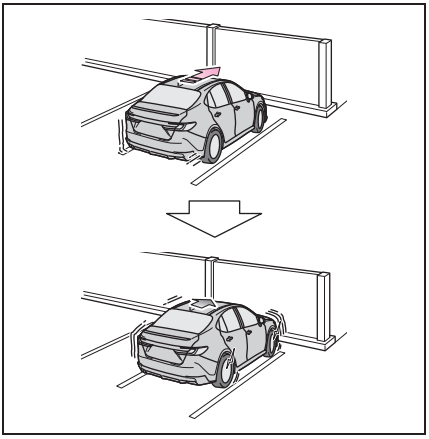
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

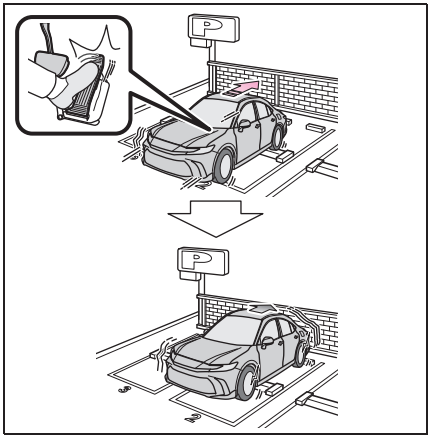
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

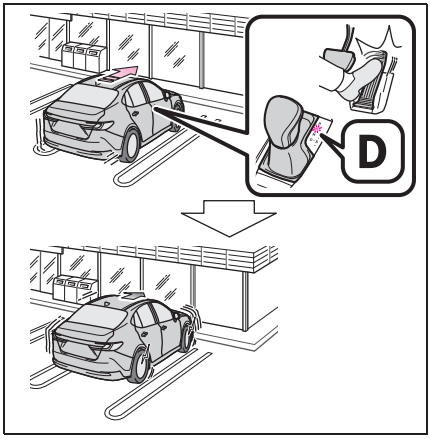
● 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



● アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



● 誤ってシフトポジションをDに入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.236

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.237

■万一、踏切内などでPKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.254

⚠ 警告

■洗車時の注意

→P.238

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯 (→P.66, 67) しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km ／ h 以下
- 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲 (→P.240) とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.239

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.239

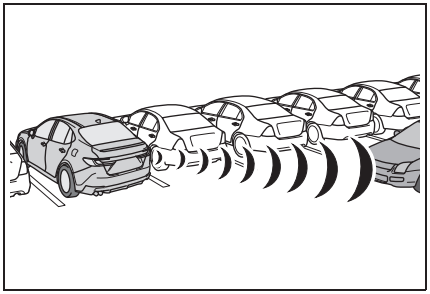
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

● 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.218

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.218

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯 (→P.66, 67) しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km ／ h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km ／ h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.245

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.246

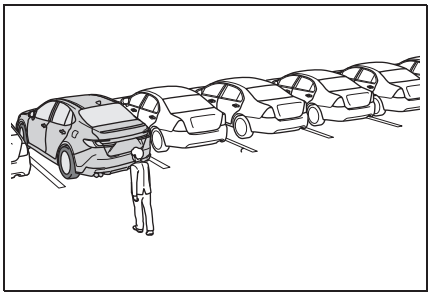
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

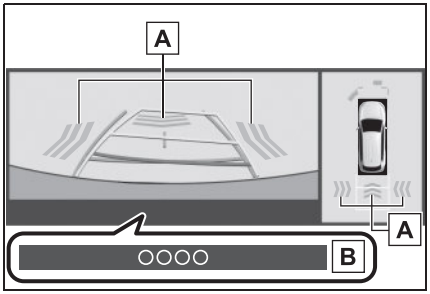
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディアディスプレイ上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

⚠警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.247

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯 (→P.66, 67) しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・ 車速が 15km ／ h 以下
・ シフトポジションが R のとき
・ 自車後方に歩行者がいるとき
・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.254

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲 (→P.248) とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後

方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.249

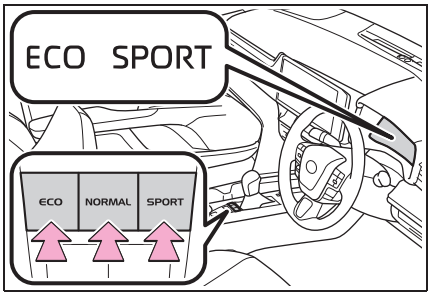
■システムが作動するおそれがあるとき

→P.250

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



スイッチを押すたびに、スポーツモード、ノーマルモード、エコドライブモードが切り替わります。

● ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

● エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

● スポーツモード※

ハイブリッドシステムの制御により、エンジンを常に高回転域で作動させることで、より応答良くかつ力強い加速を可能にします。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。

※ 燃費向上、騒音低減のため、普段の運

転ではノーマルモード / エコドライブモードをご使用ください。

知識

■ノーマルモード以外の走行モードを選択したとき

各走行モードの車両性能を実現するための最適な制御が作動します。燃費の向上を意識した走行モード以外はノーマルモード選択時に比べて十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする (→P.280)
- 風量を調整する (→P.279)
- エコドライブモードを解除する

■選択したドライブモードに応じたマルチインフォメーションディスプレイの表示

選択したドライブモードに応じて、マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメーターが変更される場合があります。

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車

両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

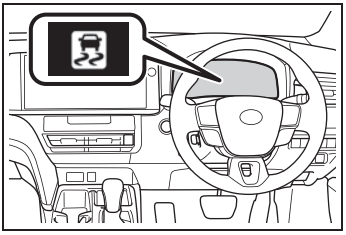
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

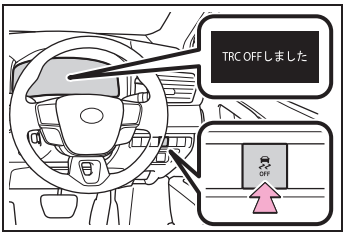


■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押します。
マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システ

ム作動可能状態にもどります。

■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーをPまたはNの位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチを OFF にした

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- エンジン停止後 1 ～ 2 分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
  ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km ／ h 以上

●車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 0km ／ h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

⚠警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC・ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ **機能の追加**

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ **音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）**

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ **通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定**

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

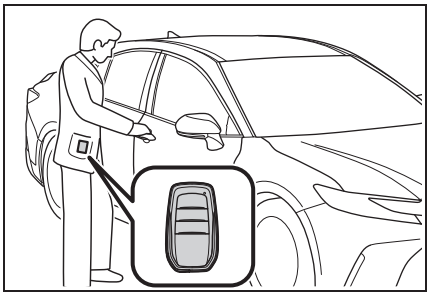
プラスサポートを使用するには

■ **プラスサポートを始動するには**

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.86, 89）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作

動可能になりません。

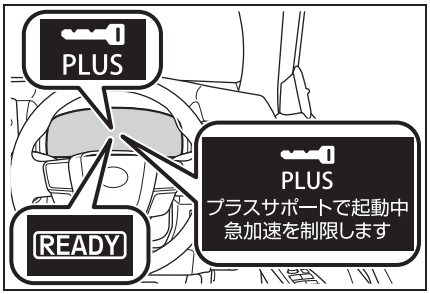


2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→P.129）

3 “プラスサポートで起動中　急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

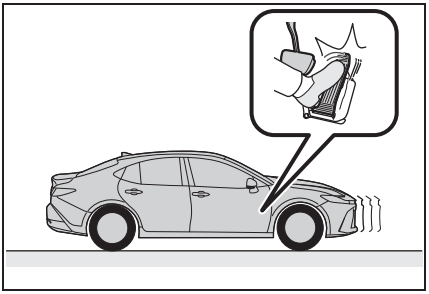
■プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.67）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しな

いように制御します。



⚠警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

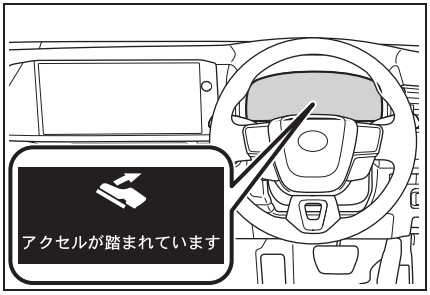
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションがP・N以外のとき

●車速が約30km／h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km／h、後退時は約12km／h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間（前進時）

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間（前進時）

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変

化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 30km ／ h	約 10km ／ h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km ／ h	約 25km ／ h 以上

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
(→P.260)

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
(→P.73)

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆ

るやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。
夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。
冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。※

※ タイヤチェーンは 18 インチのタイヤを装着した車両には装着できません。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 50km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

⚠ 注意

■スノータイヤの修理または交換

スタッドレスタイヤの修理・交換は、トヨタ販売店または正規タイヤ販売店にご依頼ください。
スタッドレスタイヤの脱着は、タイヤ空気圧警告バルブおよびトランスミッターの動作に影響を与えるためです。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もって

いるときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.140)

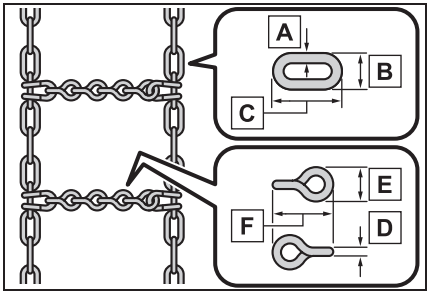
パーキングブレーキスイッチを押しながら、パワースイッチを OFF してください。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※ を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

タイヤチェーンの選択（16 インチおよび 17 インチタイヤ装着車）

タイヤチェーンを装着する際は、正しいサイズのタイヤチェーンを使用してください。
チェーンサイズはタイヤサイズごとに規定されています。



A サイドチェーン（直径 3mm）
B サイドチェーン（幅 10mm）
C サイドチェーン（長さ 30mm）
D クロスチェーン（直径 4mm）
E クロスチェーン（幅 14mm）
F クロスチェーン（長さ 25mm）

タイヤチェーンの使用に関する規制（16 インチおよび 17 インチタイヤ装着車）

タイヤチェーンの使用に関する規制は、地域や道路の種類によって異なります。チェーンを装着する前に、必ず地域の規制をご確認ください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 278

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーション 284

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 286

5-3. 収納装備

収納装備一覧 289

トランク内装備 292

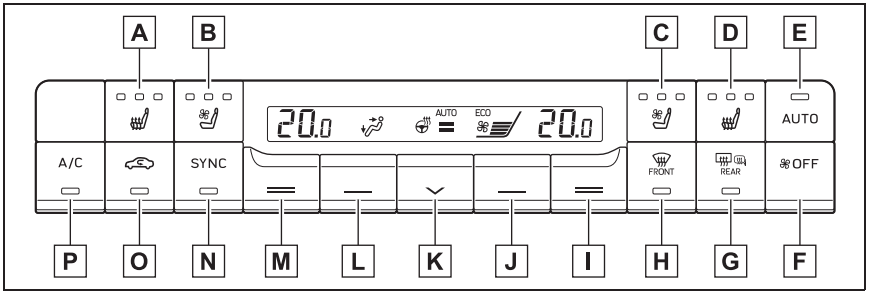
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 294

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A 助手席側シートヒーター★

B 助手席側シートベンチレーター★

C 運転席側シートベンチレーター★

D 運転席側シートヒーター★

E AUTO スイッチ

F OFF スイッチ

G リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ★

H フロントデフロスタースイッチ

I 運転席側温度調整スイッチ

J 風量切りかえスイッチ

K ステアリングヒータースイッチ★

L 吹き出し口切りかえスイッチ

M 助手席側温度調整スイッチ

N SYNC スイッチ（各席連動モード）

O 内外気切りかえスイッチ

P 冷房・除湿スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度調整スイッチ

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

冷房・除湿スイッチの表示灯が消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

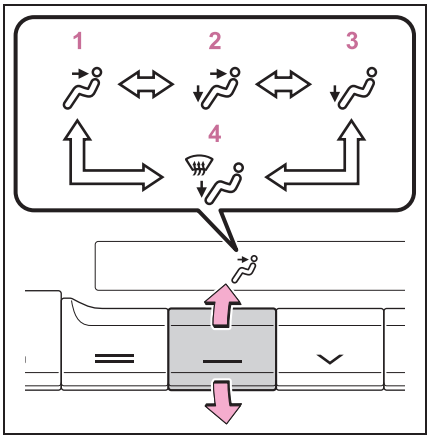
風量を増やすときは風量切りかえスイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

操作するたびに、吹き出し口が次のように切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

曇り止めは、フロントガラスとフロントサイドウインドウの曇り止めに使用されます。

フロントデフロスタースイッチを押す

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●外気導入・内気循環は設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

ドライブモード選択スイッチでエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコドライブモード以外のドライブモードを選択すると、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■エコドライブモードでの空調システムの運転

●エコドライブモードでは、燃費を優先するためにエアコンシステムを次のように制御します。
・ エンジン回転数とコンプレッサーの運転を制御して、冷暖房能力を制限
・ オート設定を選択するとファン速度が制限されます

●空調の性能を向上させるには、次の操作を実行します。
・ エコ空調モードを OFF にする (→P.282)
・ 風量を調整する
・ エコドライブモードを OFF にする (→P.260)

■外気温が 0°C 近くまで下がったとき

冷房・除湿機能機能を ON にしても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●潜在的な臭気の発生を減らすには :
・ エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
・ エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.331

■カスタマイズ機能

一部の機能はカスタマイズできます。
(→P.401)

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■空調システムの部品を修理・交換する場合

トヨタ販売店に修理 / 交換を依頼してください。蒸発器などの空調システムの一部を交換する場合は、新しいものと交換する必要があります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

マルチメディアディスプレイのオプション画面で ON ／ OFF を切りかえる (→P.282)

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

■ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

エアコン操作画面について

マルチメディアディスプレイで、エアコンの一部の機能を操作することができます。

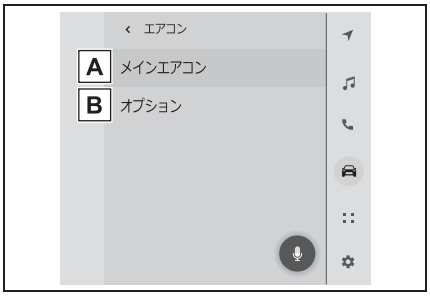
マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 表示のしかた

1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから にタッチする

2 サブメニューの “エアコン” にタッチする

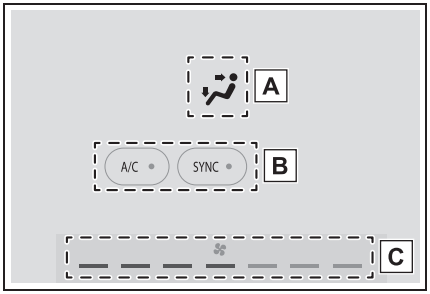
3 各画面を選択する



A フロントエアコン操作画面を表示する

B オプション画面を表示する

■ エアコン操作画面



A 吹き出し口を切りかえる

タッチするたびに、吹き出し口が切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・ガラスの曇りを取る

B 各機能の ON ／ OFF を切りかえる

タッチするたびに、機能の ON ／ OFF が切りかわります。

機能が ON のとき、インジケーターが点灯します。

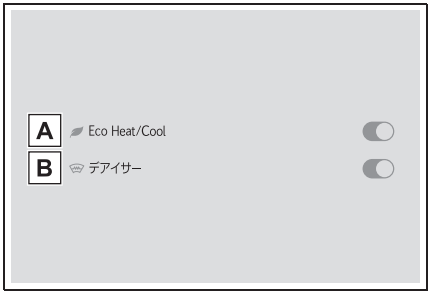
・ “A/C” : 冷房・除湿機能
・ “SYNC” : SYNC モード

C 風量表示

現在の風量が表示されます。

■ オプション画面

各機能の （作動）／ （非作動）を切りかえることができます。



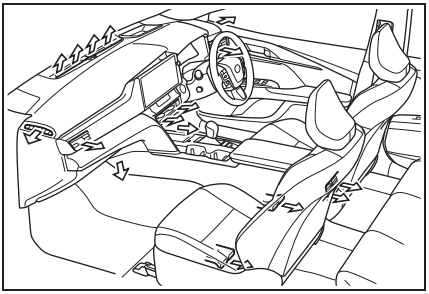
A エコ空調モード

B ウインドシールドデアイサー (→P.281)

吹き出し口の配置・操作

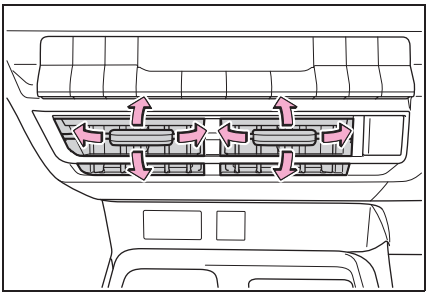
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



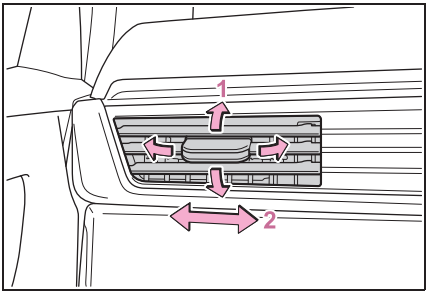
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロントセンター



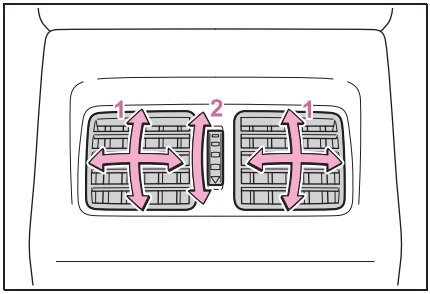
風向きを調整する

▶ フロントサイド



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

▶ リヤ

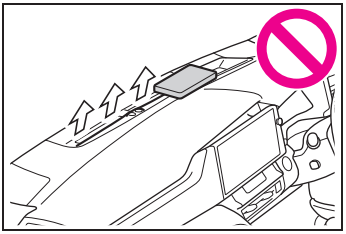


1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます

● シートベンチレーション

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

⚠ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

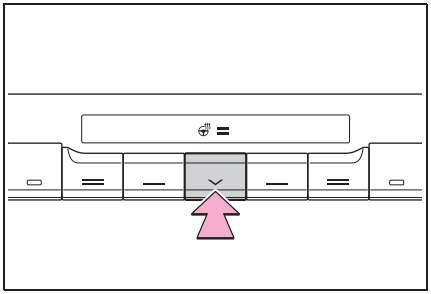
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが OFF のときは使用しないでください。

操作手順

■ ステアリングヒーター

ステアリングヒータースイッチを押す



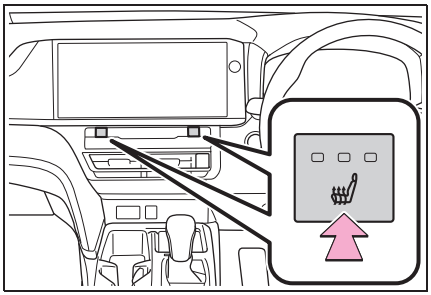
スイッチを押すたびに、作動状態は次のように変化します。

AUTO→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

ステアリングヒーターがオンの場合、モニター部のインジケーターが点灯します。

■ シートヒーター

シートヒータースイッチを押す



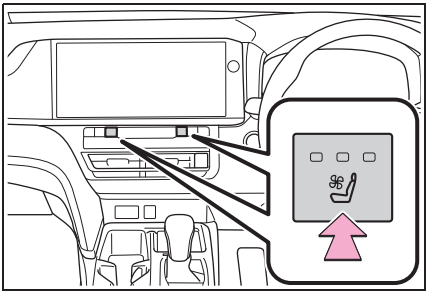
スイッチを押すたびに、作動状態は次のように変化します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

シートヒーターが ON のときは、レベルインジケーターが点灯します。

■ シートベンチレーション

シートベンチレーションスイッチを押す



スイッチを押すたびに、作動状態は次のように変化します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

シートベンチレーターが ON の場合、レベルインジケーターが点灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

⚠ 警告

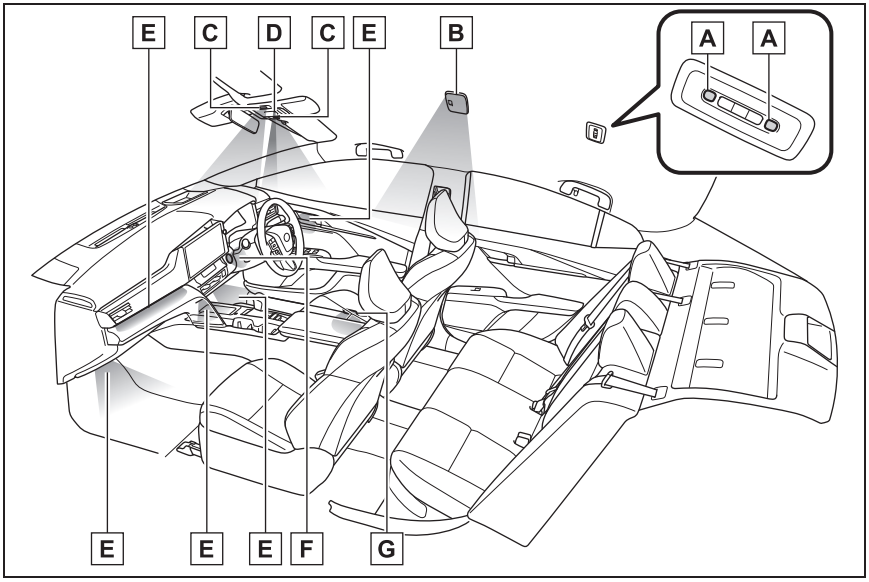
■異常過熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 毛布・クッションなどを使用しないでください。
- 長時間連続使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A リヤパーソナルランプ★ (→P.287)

B リヤインテリアランプ★ (→P.287)

C フロントインテリア / パーソナルランプ (→P.287, 287)

D シフトレバーランプ★

E 雰囲気照明★

F パワースイッチ文字照明

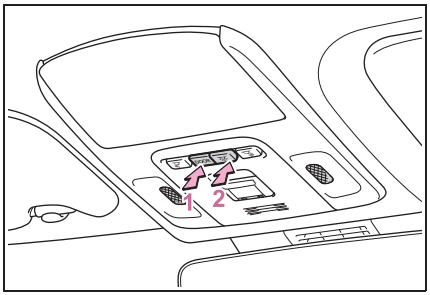
G ドアカーテシランプ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

■ フロント

▶ タイプ A



1 ドアポジション（ドア連動）の ON/OFF を切りかえる

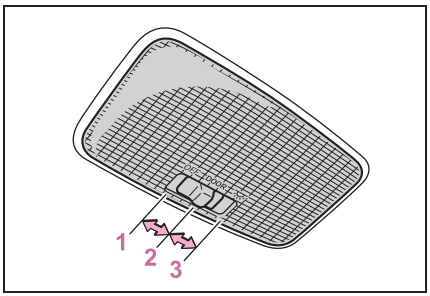
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

2 ランプを点灯・消灯する

▶ タイプ B

ドアを開けるとランプが点灯します。

■ リヤ★



1 ランプを消す

2 ドアポジション（ドア連動）

リヤインテリアランプは、フロントインテリアランプと連動して ON/OFF します。

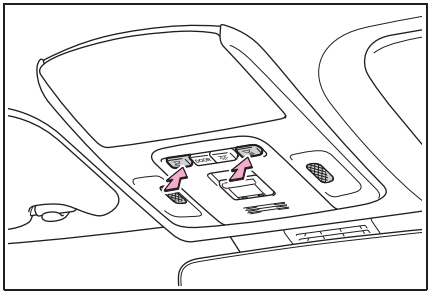
ドアを開けるとランプが点灯します。

3 ランプを点灯する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

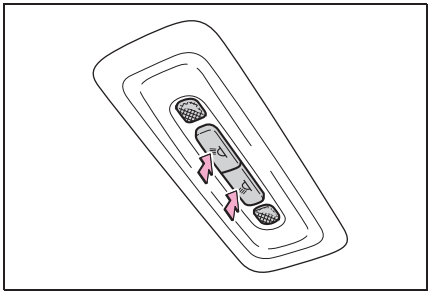
パーソナルライトの操作

■ フロント



ランプを点灯・消灯する

■ リヤ★



ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプのドアポジション（ドア連動）が ON の状態でドアを開けると、ランプが点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯し

ます。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。室内灯は手動で消すことができます。ただし、さらなる衝突を防ぐために、安全が確保されるまで ON のままにしておくことをお勧めします。(衝撃の強さや衝突状況により、室内灯が自動的に点灯しない場合があります。)

■音声操作システムの使用

音声操作システムを使用して、次の操作を実行できます。

●周囲照明の ON/OFF を切り替える

詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■カスタマイズ機能

一部の機能はカスタマイズできます。
(→P.401)

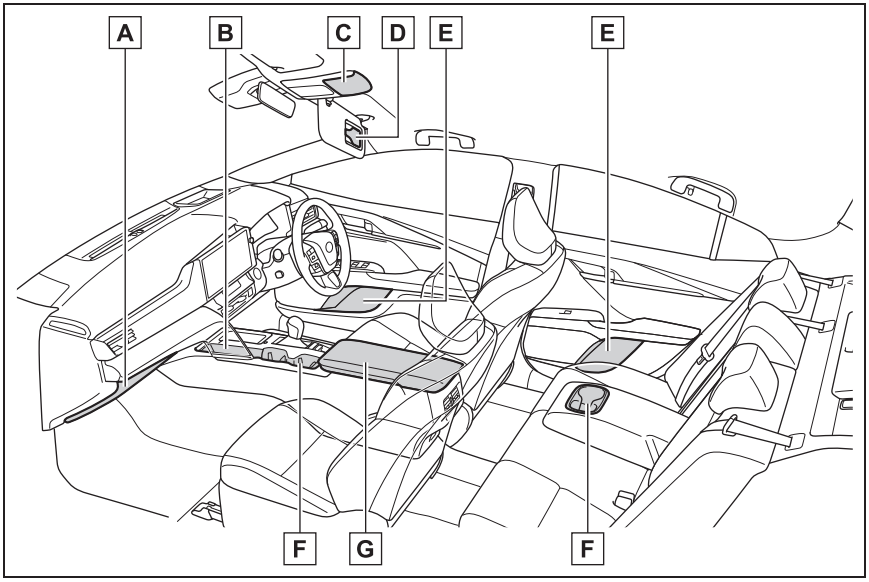
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備位置



A グローブボックス (→P.290)

B オープントレイ (→P.291)

C 小物入れ (→P.291)

D カードホルダー (→P.292)

E ボトルホルダー / ドアポケット (→P.290)

F カップホルダー (→P.290)

G コンソールボックス (→P.291)

⚠ 警告

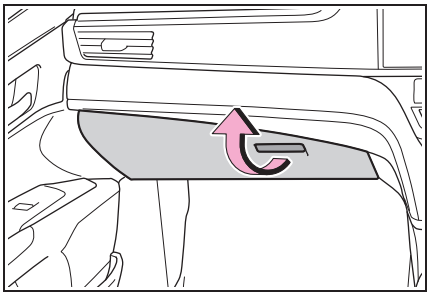
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすことがあります。
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながることがあります。

グローブボックスを使うには



レバーを引いて開ける

知識

■グローブボックスランプ

テールランプが点灯するとグローブボックスランプが点灯します。

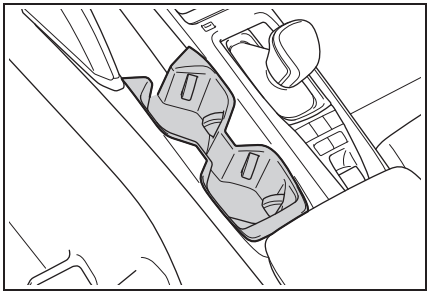
⚠警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

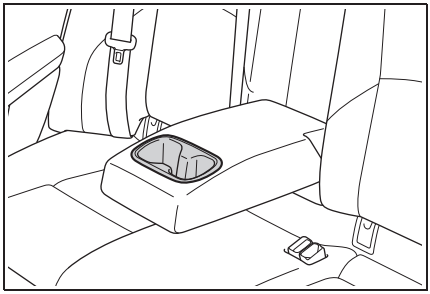
カップホルダーを使うには

▶ フロント



▶ リヤ

アームレストを手前に倒す



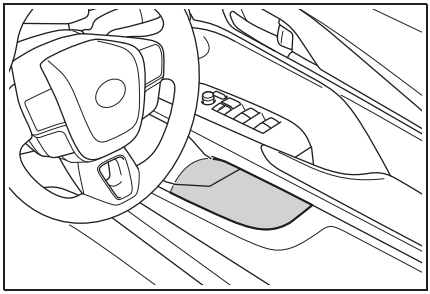
⚠警告

■収納してはいけないもの

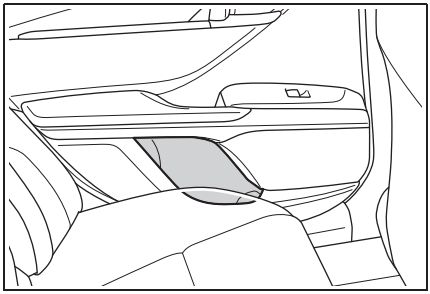
カップホルダーにはカップや缶、水筒以外は入れないでください。急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダーを使うには

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■収納してはいけないもの

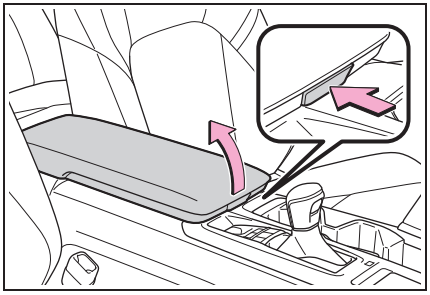
ボトルホルダーにはボトル以外は置かないでください。その他のアイテムは、事故や急ブレーキの場合、ホルダーから投げ出され、けがをするおそれがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コンソールボックス



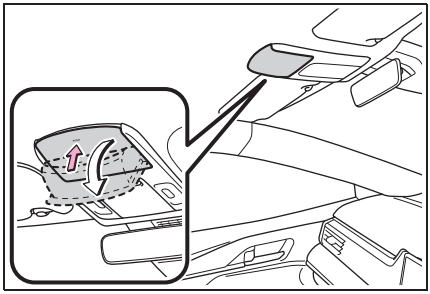
レバーを引いてふたを開ける

警告

■運転中の注意

コンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ



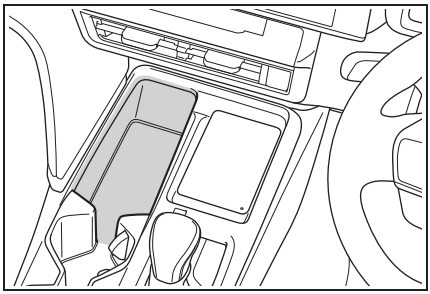
ふたを押して開ける

警告

■保管に適さないもの

0.2 kg を超えるアイテムは保管しないでください。小物入れが開き、中のものが落ちて事故の原因となります。

オープントレイ



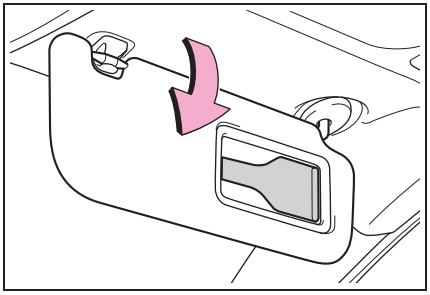
⚠ 警告

■オープントレイに適さないもの

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 簡単にずれたり転がったりする可能性のあるアイテムをトレイに保管しないでください。
- トレイの端よりも高い位置に物を積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出す可能性のあるものをトレイに入れないでください。

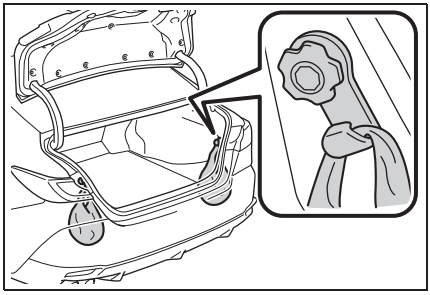
カードホルダー



バイザーを下ろす

トランク内装備

買い物フック

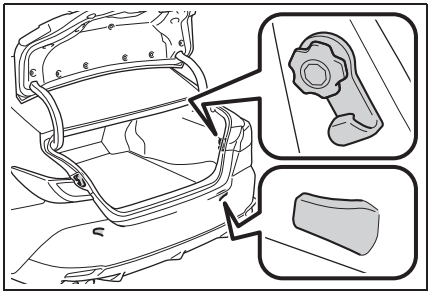


⚠ 注意

■買い物フックの損傷を防ぐため

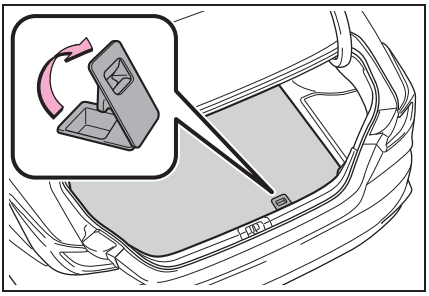
フックに過度の負荷をかけないでください。

カーゴネットフック

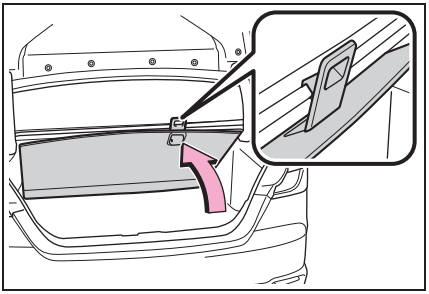


ラゲージマット

1 フックをもってラゲージマットを持ち上げる



2 フックをトランク開口部の上端にかける



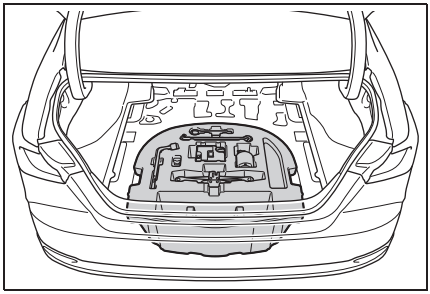
⚠ 注意

■ ラゲージマットの破損を防ぐため

トランクを閉めるときは、ラゲージマットレバーをトランクの端に引っ掛けたままにしないでください。ラゲージマットが破損する恐れがあります。

ラゲージアンダートレイ

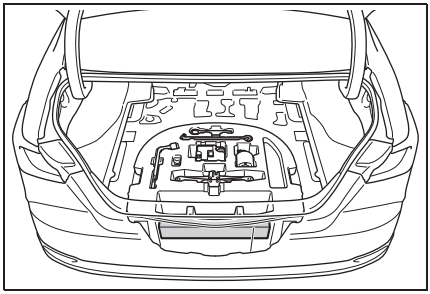
デッキボードを持ち上げる



停止表示板収納スペース

ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



その他の室内装備

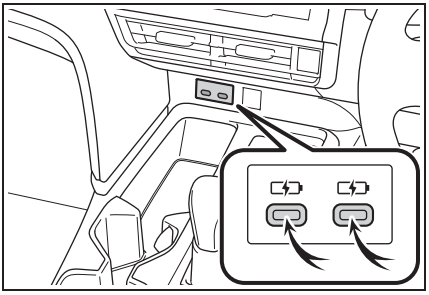
充電用 USB 端子

充電用 USB 端子は、5V で 3.0A の電気を外部デバイスに供給するために使用されます。

充電用 USB 端子は充電専用です。これらは、データ転送やその他の目的を目的として設計されていません。外部機器によっては、正常に充電されない場合があります。充電用 USB 端子を使用する前に、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

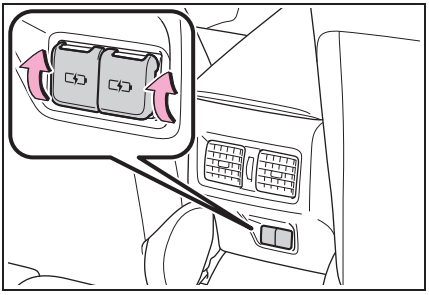
■ 充電用 USB 端子の使用

▶ インストルメントパネル



▶ コンソールボックスの背面

ふたを開ける



知識

■充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON になっているか、マルチメディア システムが ON になっているとき。

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- 5V/3A をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

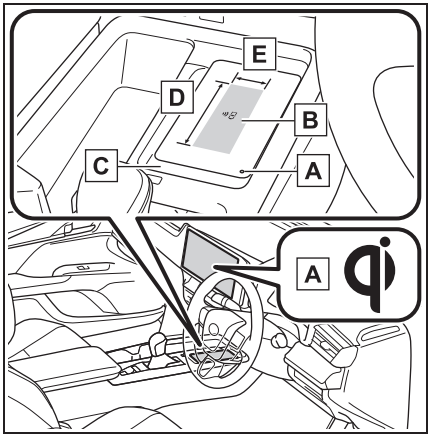
互換性のあるポータブルデバイスは、以下のワイヤレスパワーコンソーシアムの Web サイトで見つけることができます。
https://www.wirelesspowerconsortium.com/

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください

■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。Qi ID: 14561

■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア※

C 充電トレイ

D 約 10cm

E 約 2.5cm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。また、2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ ワイヤレス充電器の使用

充電トレイに携帯機器を置く

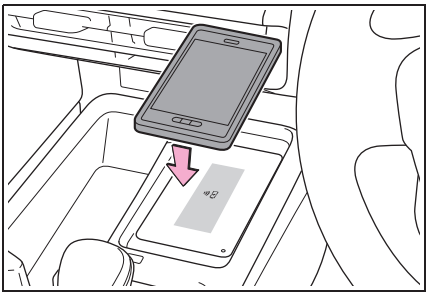
携帯機器の充電面がワイヤレス充電器に接するようにして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は、作動表示灯 (橙色) が点灯し

ます。

充電が行われていないときは「機能が正常に動作しない可能性がある状況」を参照してください。(→P.299)

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。



■ **再充電機能**

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 充電エリア内で携帯機器を大きく動かすと、充電コイルが外れ、充電が一時的に停止することがあります。ただし、充電エリア内で充電コイルが検出されると、ワイヤレス充電器内の充電コイルがもう一方のコイルの近くに移動し、充電が再開されます。

■ **急速充電機能**

次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- WPC Ver 1.3.3 に準拠し、急速充電に対応したポータブル機器
- 7.5W 充電に対応した iOS 版の iPhone(iPhone 8 以降モデル)
- Galaxy 独自の急速充電規格に対応したポータブル機器

急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ **作動表示灯の点灯状況**

作動表示灯		状況
充電トレイ	マルチメディアディスプレイ	
消灯	非表示	マルチメディアシステムの電源が OFF の場合、またはパワースイッチが OFF の場合。
緑色 (点灯)	灰色	待機中 (充電可能状態) ※1
		充電完了時 ※2
橙色 (点灯)	青色	充電

※1 待機中は充電電力が出力されません。金属物は、この状態で充電エリアに置くと加熱されません。

※2 携帯機によっては、充電が完了しても動作表示灯がオレンジ色に点灯し続ける場合があります。

■ **ワイヤレス充電器が正常に動作しない**

ワイヤレス充電器が正常に動作しない状況と、考えられる原因への対処法

は次のとおりです。

作動表示灯		疑わしい原因・対処方法
充電トレイ	マルチメディアディスプレイ	
橙色 (毎秒 1 回繰り返し点滅)	灰色	車と無線充電器の通信障害 **→ ハイブリッドシステムが作動している場合は、ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。** パワースイッチが ACC にある場合は、ハイブリッド システムを ON にします。(→P.129)
緑色 (毎秒 1 回繰り返し点滅)	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信障害 **→ ハイブリッドシステムが作動している場合は、ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。** パワースイッチが ACC にある場合は、ハイブリッド システムを ON にします。(→P.129)
緑色 (点灯)	青色	AM 放送局を自動選局している **→ システムが AM ラジオ局の自動選択を完了するまで待ちます。自動選択が完了できない場合は、自動選択を停止してください。**
		スマートエントリー&スタートシステムが電子キーの検出を行っている **→ キー検出が完了するまで待ちます。**

作動表示灯		疑わしい原因・対処方法
充電トレイ	マルチメディアディスプレイ	
緑色 (点灯)	灰色	異物検出 : 充電エリアに金属異物があり、金属異物の異常加熱防止機能が作動した **→ 充電領域から異物を取り除きます。**
		ポータブルデバイスの位置がずれている / 充電面から離れている : 携帯機器の充電コイルの中心が充電エリアの外に移動した、レンズの凸が大きい、ケースが厚いため異常発熱防止機能が作動した **→ 5 秒後にポータブルデバイスをワイヤレス充電器から取り外し、ワイヤレス充電器の中央近くになるようにポータブルデバイスを置きます。また、ポータブル機器にケースやカバーが取り付けられている場合は、取り外してください。**
		ポータブルデバイスのバッテリー保護機能 : フル充電前に、ポータブルデバイスのバッテリー保護機能が作動した **→ 携帯機器の設定を確認します。**
		電子キーの継続的な検出 : 車両カスタマイズでマルチメディア機能を使用すると、電子キーが確認されずに継続的に検出されます。 **→ この場合は、パワースイッチの ACC または ON を回してキーを確定させてください。**
橙色 (4 回連続点滅を繰り返す)	灰色	ワイヤレス充電器内の温度が設定値を超えた場合の安全停止 **→ 充電を停止し、ポータブルデバイスを充電トレイから取り外し、温度が下がるのを待ってから、再度充電を開始します。**

知識

■作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■充電可能なポータブル機器

●Qi ワイヤレス充電規格に対応したポータブル機器は、ワイヤレス充電器で充電できます。ただし、Qi Ver.1.0、1.3.3 以降のバージョンに準拠した携

帯機器との互換性は保証されません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

ただし、次のようなポータブル機器は 5W 以上で充電できます。

・ 7.5W 充電対応 iPhone は 7.5W 以下で充電可能。
・ 独立した Galaxy 充電規格に準拠したデバイスは、10W 以下の充電をサポートします。充電電力については、各ポータブル機器の仕様を確認してください。
・ WPC 規格 Ver1.3.3 で定義されている EPP 出力に準拠したポータブル機器。15W 以下で充電可能。

■スマートエントリー&スタートシステムの使用

デバイスの充電中にスマートエントリー&スタートシステムがキーを検出すると、充電は一時的に停止します。

■カバーやアクセサリーを携帯機器に取り付ける場合

Qi 非対応のカバーやアクセサリがポータブルデバイスに取り付けられている状況では充電しないでください。カバーの種類 (一部の純正メーカー部品を含む) や付属品によっては、充電できない場合があります。ポータブルデバイスを充電エリアに置いても充電が行われない場合は、カバーと付属品を取り外してください。

■充電中の AM 無線連携機能

●充電中にAMラジオを聴いているときにノイズが発生すると、充電周波数が自動的に変更され、ノイズが低減されます。

●AM ラジオ局を自動選局する場合、充電ノイズがラジオ局として検出されないように充電が停止されます。選局が停止すると、充電は自動的に再開されます。

■充電についての留意事項

●車室内で電子キーが検出されない場合は、充電ができません。ドアを開閉すると、充電が一時的に停止する場合があります。

●充電すると、ワイヤレス充電デバイスとポータブルデバイスが熱くなりますが、これは誤動作ではありません。充電中に携帯機が熱くなると、携帯機側の保護機能により充電が停止することがあります。この場合、携帯機の温度が著しく下がったら、再度充電してください。

ワイヤレス充電器内の温度を下げるためにファンが作動する場合がありますが、これは誤動作ではありません。

■作動中に発生する音

パワースイッチを押して ACC または ON に切り替えたり、ポータブルデバイスを検出したりすると、ブーンという音が聞こえる場合があります。ただし、これは誤動作ではありません。

■清掃について

→P.309

■機能が正常に動作しない可能性がある状況

以下の場合、機器が正常に充電されない場合があります。

●携帯機器が満充電のとき

●有線接続で携帯機器を充電中のとき

●充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき

●充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき

●炎天下などにより、充電エリア付近の温度が 35 ℃以上になっているとき

●携帯機器の充電面を充電エリアに接しないように置いたとき

●折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき

●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき

●携帯機器の表面からカメラレンズが 3 mm 以上飛び出ているとき
例)iPhone13 pro、iPhone13 pro Max

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器の充電面と充電部の間に、次のいずれかの物体があるとき
・厚いケースまたはカバー
・厚い装飾
・指輪、ストラップなどのアクセサリー
・カメラレンズの周囲に凸状のケースまたはカバー

●ポータブルデバイスが次の金属物体のいずれかに接触しているか、または金属物体に覆われているとき
・アルミホイルなど金属が付着したカード
・アルミホイルが入ったタバコのパック
・金属製の財布やバッグ
・小銭
・カイロ
・CD、DVD、その他のメディア
・金属製のアクセサリー
・金属製のケースまたはカバー
・ポータブルデバイスの充電側に磁石が入っているケース

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーが車内にないとき

●2台以上のポータブルデバイスを同時に充電トレイに置いたとき

●S ペン内蔵デバイス (ギャラクシー「ノート」シリーズなど) を使用する場合、S-pen を挿入したデバイスをトレイに置いたとき

上記以外の状況で、ワイヤレス充電器が正常に動作しない場合は、ワイヤレス充電器が故障している可能性があります。

トヨタ販売店にお問い合わせください。

■スマートフォンの OS がアップデートされている場合

スマートフォンの OS が新しいバージョンにアップデートされている場合、充電仕様が大幅に変更されている可能性があります。詳しくはメーカーホームページの情報をご確認ください。

■商標情報

●iPhone は、アメリカおよびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。

●Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

⚠警告

■運転中の注意

ポータブルデバイスを充電する場合、安全上の理由から、ドライバーは運転中にポータブルデバイスの主要部分を操作しないでください。

■運転時の注意事項

運転中は、ワイヤレスイヤフォンなどの小型で軽量なポータブルデバイスを充電しないでください。軽量のデバイスが充電トレイから飛び出して事故につながる可能性があります。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、心臓再同期療法ペースメーカー、植込み型カルディオバーター、およびその他の電気医療機器を使用している人は、ワイヤレス充電器の使用について医師に相談する必要があります。

ワイヤレス充電器の操作は、医療機器に影響を与える可能性があります。

⚠ 警告

■故障や火傷を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中は、充電エリアとポータブルデバイスの間に金属物を挿入しない
- 充電部分にアルミステッカーなどの金属物を貼らない
- 充電エリアに触れるポータブルデバイスの側面 (またはケースやカバー) にアルミステッカーなどの金属物を貼らない
- 充電トレイを小さな収納スペースとして使用しない
- 強い力や衝撃を加えない
- 分解、改造、取り外しはしない
- 指定の携帯機器以外の機器を充電しない
- 磁性を帯びたものを近づけない
- 充電エリアがほこりで覆われている場合は、デバイスを充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

- 充電時に、クレジット、その他の磁気カード、または磁気記憶媒体を充電エリアに近づけると、磁気の影響により保存されたデータが消去される可能性があります。また、腕時計などの精密機器を充電エリアに近づけると、故障の原因となりますので、近づけないでください。
- 携帯機器の充電側と充電エリアの間に交通系 IC カードなどの非接触 IC カードを挿入して充電しないでください。IC チップが極端に熱くなり、携帯機器や IC カードを損傷する可能性があります。特に、非接触型 IC カードを収納できるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器を車内に放置しないでください。極度の熱で車内が熱くなり、故障の原因となります。

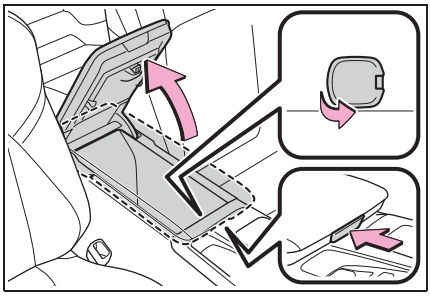
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

12VDC/10A(消費電力 120W) 未満の電子製品の電源としてご使用ください。

フタを開けて使用する



知識

■アクセサリーソケットを使うには

パワースイッチが ACC または ON になっているか、マルチメディア システムが ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れないようにするには

12 V 10 A を超えるアクセサリは使用しないでください。

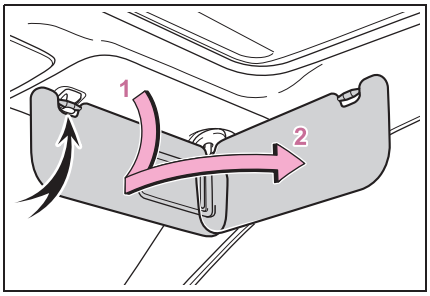
■アクセサリーソケットの損傷を避けるために

コンセントを使用しないときは、コンセントの蓋を閉めてください。電源コンセントに異物や液体が入ると、ショートの原因になります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを必要以上に使用しないでください。

サンバイザーを使うには



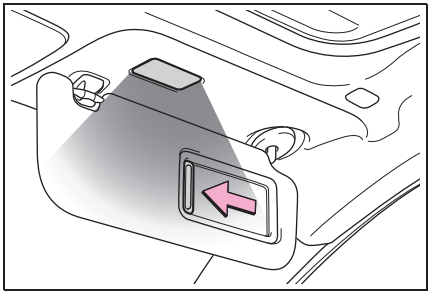
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

バニティランプが点灯します。



知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します

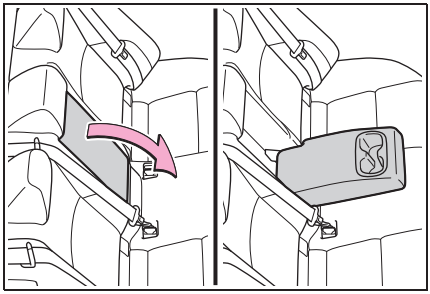
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アームレストを使うには

アームレストを手前に倒して使用します。



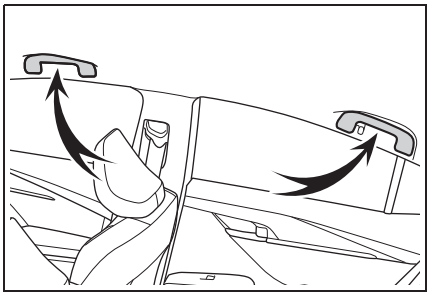
⚠ 注意

■アームレストの損傷を防ぐために

アームレストに過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に設置されたアシストグリップで、シートに座ったまま体を支えることができます。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

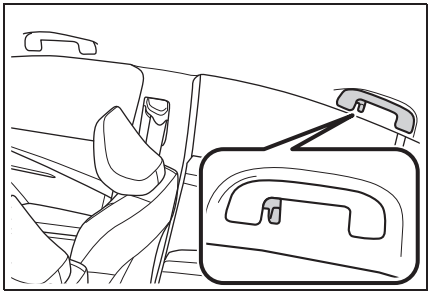
⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 306

内装の手入れ 309

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 312

ガレージジャッキ 314

ウォッシャー液の補充 315

タイヤについて 316

タイヤの交換 325

タイヤ空気圧について 330

エアコンフィルターの交換 331

駆動用電池冷却用吸入口の清掃 333

電子キーの電池交換 335

ヒューズの点検・交換 337

電球（バルブ）の交換 339

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

清潔な表面に水が玉状にならない場合は、車体が冷えている時にワックスを塗布してください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- 自動洗車機で使用されるブラシは、車両表面や部品（ホイールなど）に傷をつけ、塗装を損傷する恐れがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.97)

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・ 硬いブラシを使用しない
・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふ

き取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

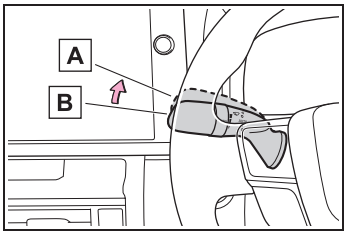
⚠警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

●Toyota Safety Sense

●BSM

●後方車両への接近警報

●RCTA

●安全降車アシスト

●PKSB

●クリアランスソナー

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタールまたは樹液が付着したとき

・虫の死がい・虫のふん・鳥のふんなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

⚠ 注意

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠警告

■車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.60)
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.31)
  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）(→P.295) をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.163)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

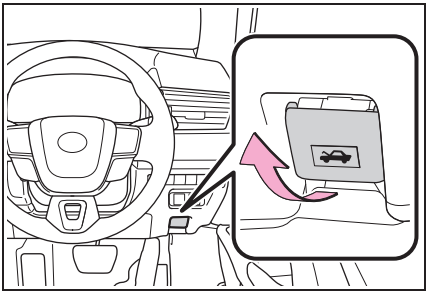
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

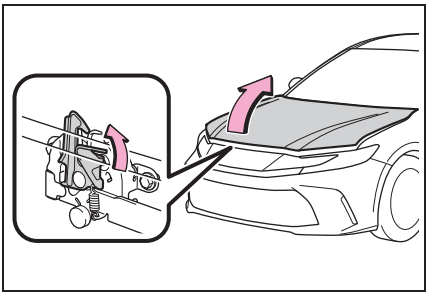
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

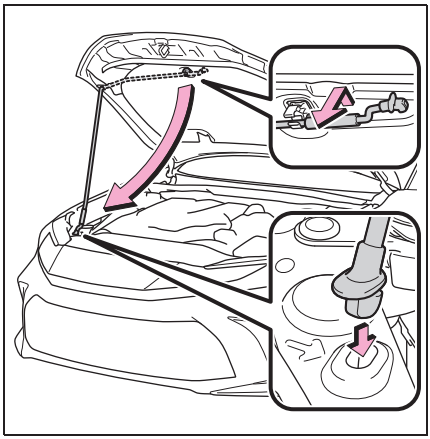
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステー装着車：ボンネットステーをステー穴に差し込む



⚠警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために（ボンネットステー装着車）

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

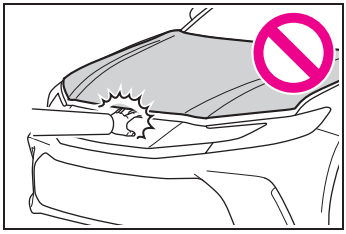
■ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは（ボンネットステー装着車）

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠注意

■ボンネットを閉めるときは（ボンネットステー装着車）

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために（ダンパーステー装着車）

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

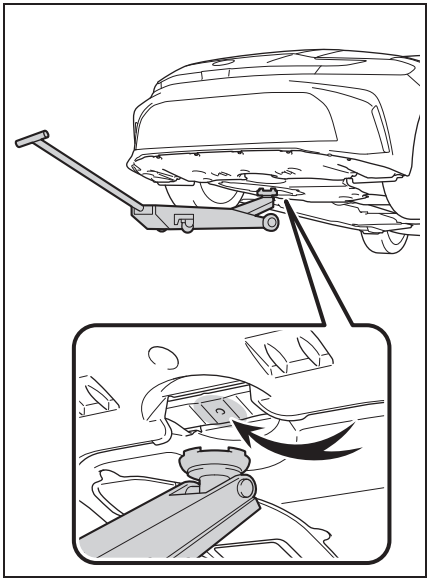
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

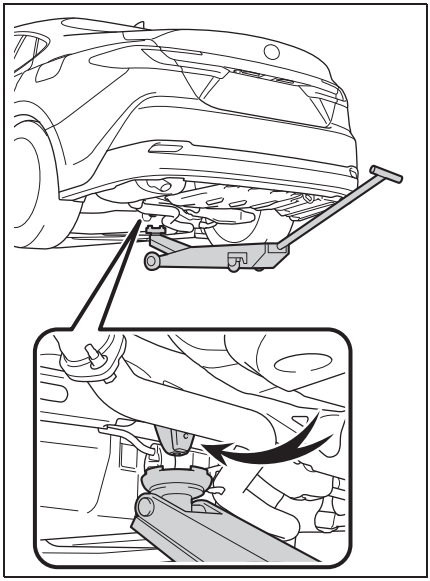
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側

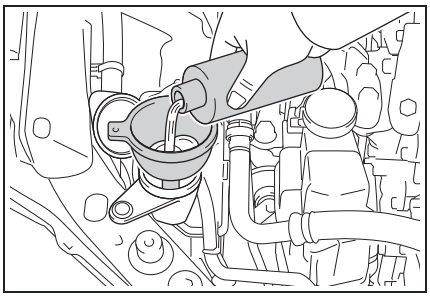


ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液の補充（ウォッシャー液レベル警告灯装着車）

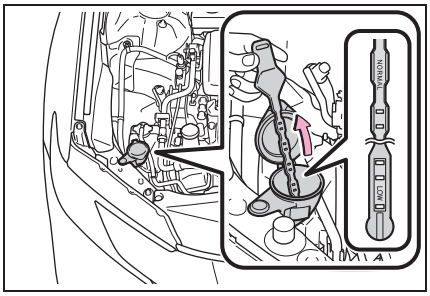
以下の場合はウォッシャー液を補充してください。

- ウォッシャーが作動しないとき
- マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき



ウォッシャー液の補充（ウォッシャー液レベル警告灯非装着車）

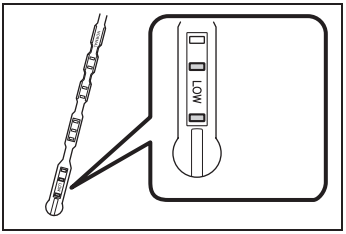
液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充する



知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦になるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー／同一銘柄／同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ／オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）／冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない。
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 注意

■低偏平率タイヤ（18 インチタイヤ）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

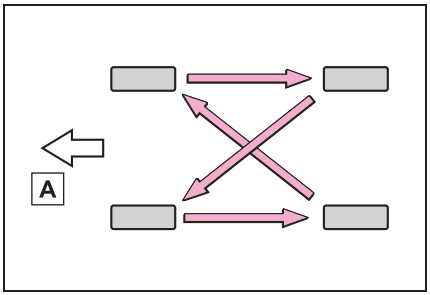
⚠注意

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



A 前側

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤをローテーションした後は、必ずホイール位置登録手順を行ってください。(→P.319)

タイヤ空気圧警告システム

お車には、タイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターを用いてタイヤ空気圧の低下を検知し、重大な問題が発生する前に警告するタイヤ空気圧警告システムが装備されています。

この車両のタイヤ空気圧警告システムは、2 種類の警告システムを採用しています。(→P.355)

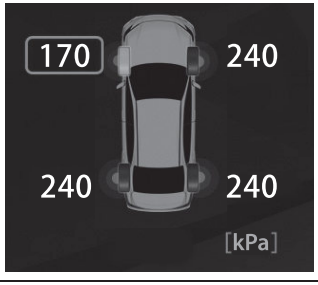
- マルチインフォメーションディスプレイに「空気圧を調整してください」と表示された場合（通常警告）

自然な空気漏れによるタイヤの外観上、または外気温による空気圧の変化による空気圧低下など、タイヤ空気圧が不明瞭なレベルまで低下している場合に、タイヤ空気圧警告灯と警告ブザーで警告します。

- マルチインフォメーションディスプレイに「すみやかに安全な場所でタイヤ点検」と表示された場合（緊急警告）

タイヤ空気圧が急激に低下し、タイヤの空気圧低下が顕著な場合、タイヤ空気圧警告灯と警告ブザーで警告します。ただし、タイヤの突然の破裂（バーストなど）は検知できない場合があります。

- タイヤ空気圧警告システムで検知したタイヤ空気圧は、マルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



知識

■定期的なタイヤ空気圧チェック

タイヤ空気圧警告システムは、定期的なタイヤ空気圧チェックに代わるものではありません。毎日の車両点検の一環とし

て、タイヤ空気圧を必ずチェックしてください。
タイヤの点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧

●パワースイッチをONにしてからタイヤ空気圧が表示されるまで数分かかる場合があります。また、空気圧調整後もタイヤ空気圧が表示されるまで数分かかる場合があります。

●タイヤ空気圧は気温によって変化します。また、表示される値はタイヤ空気圧計で測定した値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の IDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警告システムの警告性能

タイヤ空気圧警告システムの警告は、運転状況に応じて変化します。このため、タイヤの空気圧が十分に低いレベルに達していない場合、または空気圧がシステムの初期化時に調整された空気圧よりも高い場合でも、システムは警告を発する場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。
(→P.322)

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 20 分間走行したあとシステム

異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

⚠ 注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■タイヤ空気圧警告バルブおよび送信機の損傷を防ぐため

パンク補修液でタイヤを修理した場合、タイヤ空気圧警告バルブと送信機が正常に作動しない可能性があります。パンク補修液を使用した場合は、速やかにトヨタ販売店にご連絡ください。タイヤ交換時には、必ずタイヤ空気圧警告バルブと送信機を交換してください。(→P.318)

タイヤ位置を登録するには

■ タイヤ位置の登録が必要なとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤ位置の登録のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 メーターコントロールスイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択し、OK を押す

4 「車両設定」を選択し、OK を長押しする

5 「TPWS 設定」を選択し、OK を押す

6 「タイヤローテーション」を選択し、OK を押す

7 「はい」を選択し、OK を押す

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が「---」になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 25 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

■タイヤ位置を登録するとき

●通常は約30 分以内の走行で登録が完了します。

●車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■タイヤ位置登録の操作について

●タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ位置登録がうまくいかないとき

●次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。

・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

●タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

● 積載物などにより指定のタイヤ空気圧が変化した場合

● タイヤサイズ変更時など、タイヤ空気圧が変更された場合

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。(→P.320)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。(→P.321)

■ 指定空気圧での設定のしかた

1 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 メーターコントロールスイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択し、OK を押す

3 「車両設定」を選択し、OK を長押しする

4 「TPWS 設定」を選択し、OK を押す

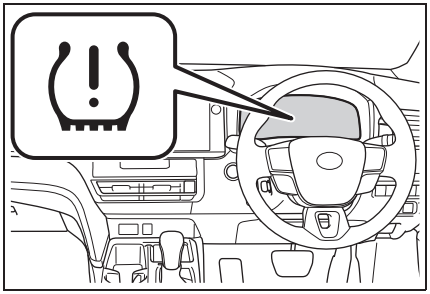
5 「タイヤ空気圧設定」を選択し、OK を押す

6 「指定空気圧で設定」を選択し、OK を押す

7 希望のフロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択し、「はい」を選択して、OK を押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



■ 現在の空気圧での設定のしかた

1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 メーターコントロールスイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択し、OK を押す

4 「車両設定」を選択し、OK を長押しする

5 「TPWS 設定」を選択し、OK を押す

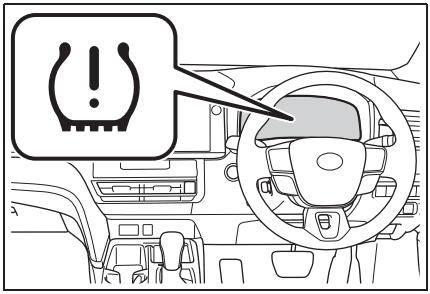
6 「タイヤ空気圧設定」を選択し、OK を押す

7 「現在空気圧で設定」を選択し、OK を押す

8 「はい」を選択し、OK を押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）

●現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

●必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイ

ヤが冷えた状態で行ってください。

■空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）

●空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。

●空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

●現在の空気圧で設定をする場合、通常約 3 分で終了します。

●空気圧設定操作時に警告灯が3回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

3 メーターコントロールスイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択し、OK を押す

4 「車両設定」を選択し、OK を長押しする

5 「TPWS 設定」を選択し、OK を押す

6 「タイヤ交換」を選択し、OK を押す

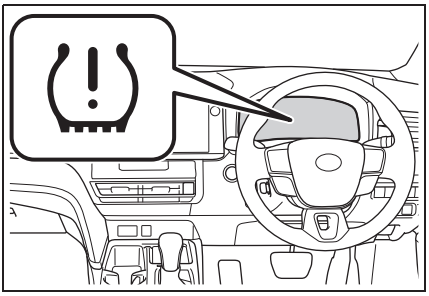
7 「新規タイヤ登録」を選択し、OK を押す

8「タイヤセット 1」または「タイヤセット 2」を選択し、OK を押す

表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。



9「はい」を選択し、OK を押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「---」になります。

10約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 25 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

11異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する (→P.320)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

知識

■ID コードの登録をするとき

- 通常は約30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.324)

■ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
  - 走行前に約 15 分以上駐車していない
  - 約 40km/h 以上で走行していない
  - 未舗装の場所を走行した
  - 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
  - タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着し

たホイールが車内や車両の近くにある

- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録操作時に警告灯が3回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、トヨタ販売店にご依頼ください。

■ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、センターディスプレイの「新規タイヤ登録」を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、「新規タイヤ登録」を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

- この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。(→P.322)

- ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。
- ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コードの切りかえかた

1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する

2 メーターコントロールスイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択し、OK を押す

3 「車両設定」を選択し、OK を長押しする

4 「TPWS 設定」を選択し、OK を押す

5 「タイヤ交換」を選択し、OK を押す

6 「登録済みタイヤ切替」を選択し、OK を押す

7 「タイヤセット 1」または「タイヤセット 2」を選択し、OK を押す

8 「はい」を選択し、OK を押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。ID

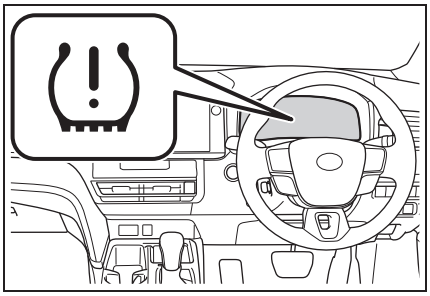
コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。

また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「---」になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



9 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する (→P.320)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

10 タイヤの位置を登録する (→P.319)

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する

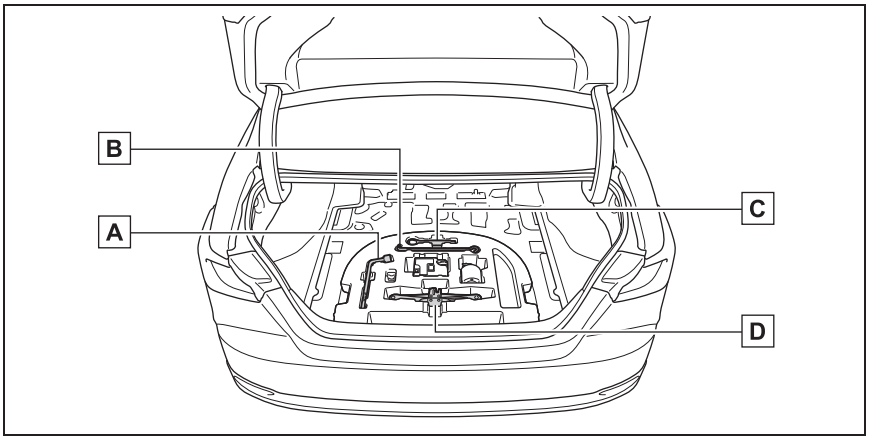
知識

■工具について

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具は搭載されていません。工具はトヨタ販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

工具とジャッキの位置



A ホイールナットレンチ※

B ジャッキハンドル※

C けん引フック

D ジャッキ※

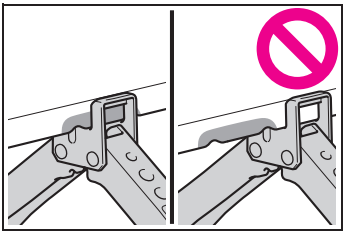
※ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチは工場出荷時には搭載されていませんが、トヨタ販売店で購入することができます。詳しくはトヨタ販売店におたずねください。

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける



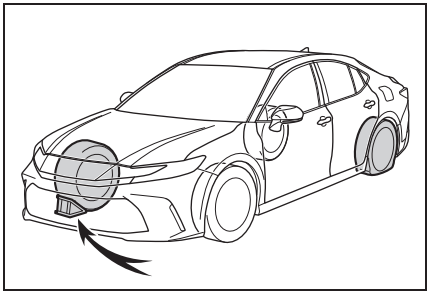
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない

⚠ 警告

- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの取りはずし

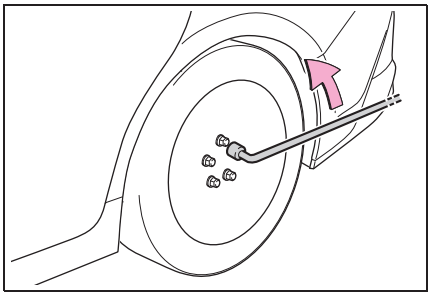
1 輪止め※をする



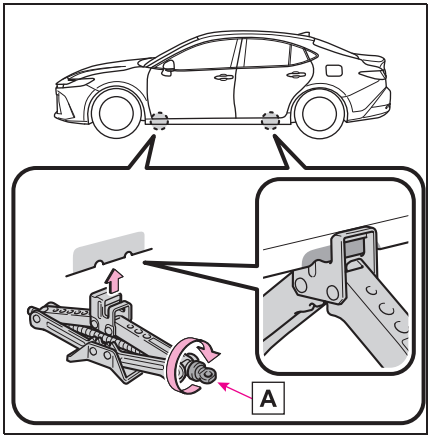
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

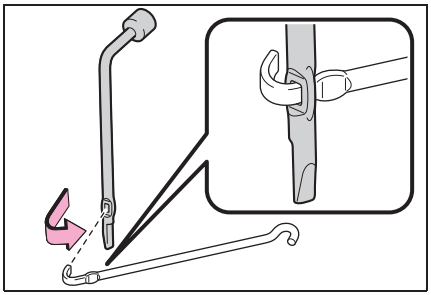
2 ホイールナットレンチを使用し、すべてのホイールナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



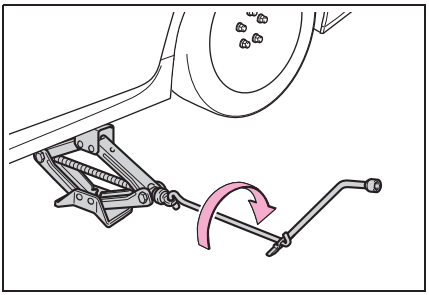
3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

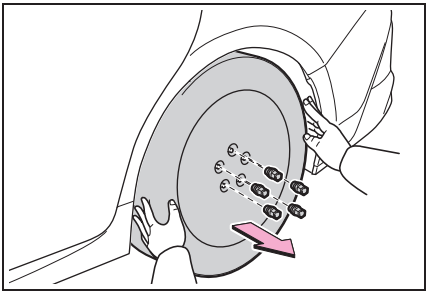


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ホイールナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

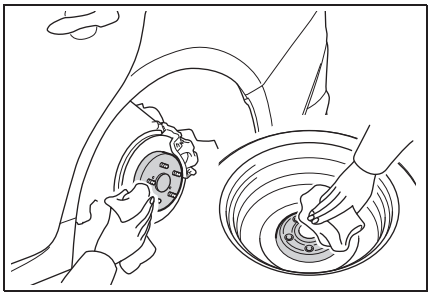
■タイヤ交換について

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

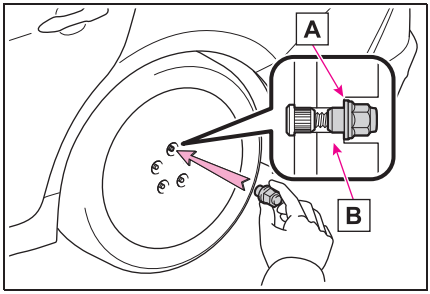
1 ホイール接触面とホイールナットの汚れをふき取る

汚れていると、走行中にホイールナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

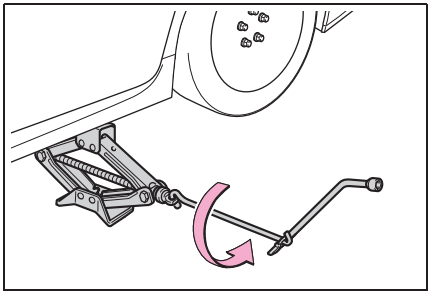


2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす



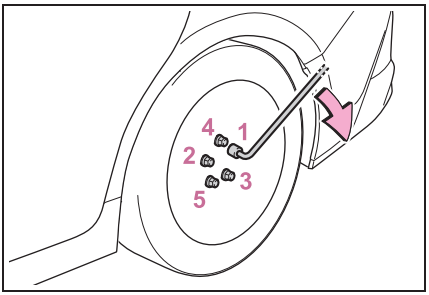
3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でホイールナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m

（1050kgf・cm）



5 すべての工具を収納する

警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らない
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用してください。
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

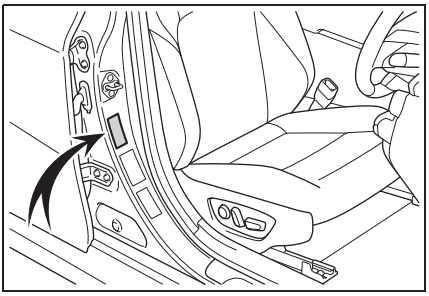
■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.316

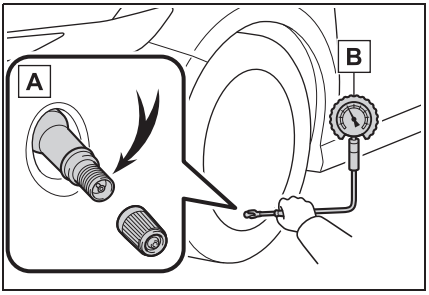
タイヤ空気圧について

指定されたタイヤ空気圧の確認

推奨される冷間時のタイヤ空気圧とタイヤサイズは、タイヤおよび積載情報ラベルに記載されています。(→P.400)



点検および調整手順



A タイヤバルブ

B タイヤ空気圧計

1 タイヤのバルブキャップを外します。

2 タイヤ空気圧計の先端をタイヤのバルブに押し付けます。

3 計器の目盛りで空気圧を読み取ります。

4 タイヤの空気圧が推奨値でない場合は、空気圧を調整してください。空気を入れた後、バルブの中央を押して空気を抜くことができます。

5 タイヤ空気圧の測定・調整完了後、バルブに石鹸水を塗布し漏れを確認してください。

6 タイヤバルブキャップを元に戻します。

知識

■タイヤ空気圧点検間隔

タイヤ空気圧は 2 週間ごと、または少なくとも月に 1 回点検してください。

■タイヤ空気圧の不適切な影響

タイヤ空気圧が不適切な状態で走行すると、以下の結果を招く可能性があります：

- 燃費の悪化
- 乗り心地の低下と操縦性の悪化
- 摩耗によるタイヤ寿命の短縮
- 安全性の低下
- 駆動系への損傷

タイヤの空気圧を頻繁に補充する必要がある場合は、トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検手順

タイヤ空気圧を点検する際は、以下の点に注意してください：

- タイヤが冷えている時のみ確認してください。車両を 3 時間以上駐車した場合、または 1.5km 以上走行していない場合に、正確な冷間時のタイヤ空気圧が測定できます。
- 必ずタイヤ空気圧計を使用してください。見た目だけで適切な空気圧かどうかを判断するのは困難です。
- 走行後はタイヤ内部で熱が発生するため、空気圧が上昇するのは正常です。走行後に空気圧を下げないでください。

●車両の積載重量制限を超えないでください。乗員と荷物の重量は車両のバランスが取れるように配置してください。

⚠ 警告

■適切な空気圧はタイヤ性能を維持する上で極めて重要

タイヤの空気圧を適正に保ってください。空気圧が不適切な場合、以下の状態が発生し、死亡または重傷を伴う事故につながる可能性があります：

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- ●操縦性の悪化
- ●タイヤの過熱によるバーストの可能性
- ●タイヤとホイールの隙間からの空気漏れ
- ●ホイールの変形および／またはタイヤの損傷
- ●走行中のタイヤ損傷リスクの増加（道路上の障害物、伸縮継手、鋭利な縁石などによる）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検および調整時

必ずタイヤバルブキャップを元に戻してください。バルブキャップを装着しないと、バルブ内に汚れや湿気が入り込み、空気漏れの原因となり、タイヤの空気圧が低下する可能性があります。

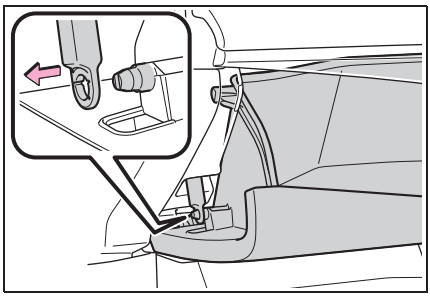
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

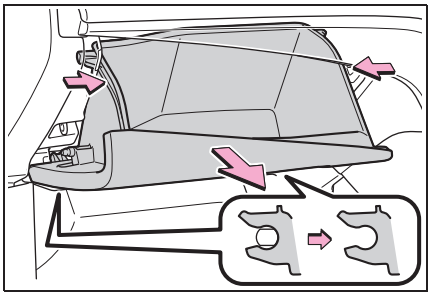
交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

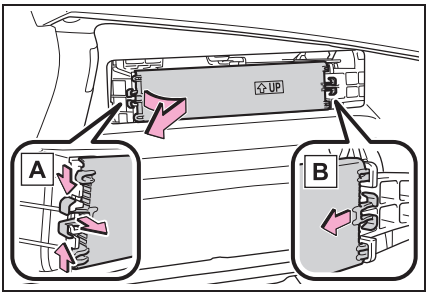


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずしてとりはずす



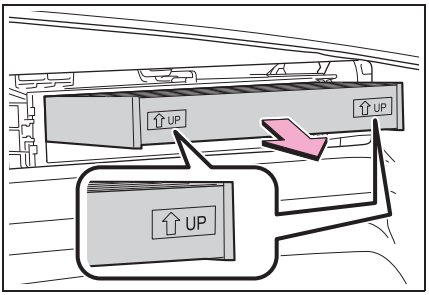
4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィル

ターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧UP”マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

20000km［10000km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

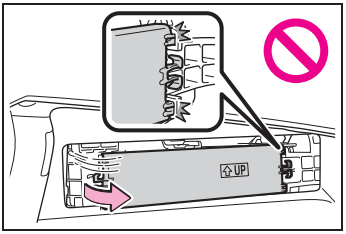
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■吸気口の定期メンテナンスは次の場合に必要

車両が頻繁に使用される場合や、交通量が多い場所やほこりの多い場所など、状況によっては、吸気口をより定期的に掃除する必要がある場合があります。

■吸気口の清掃

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

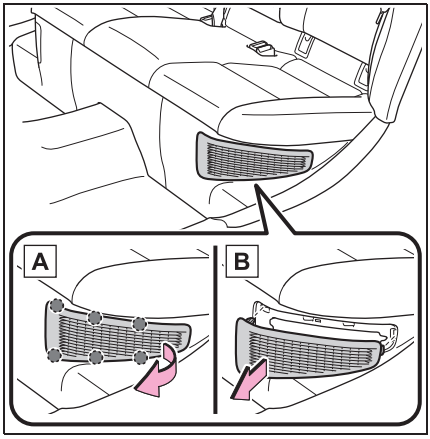
すみやかに清掃してください。

警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

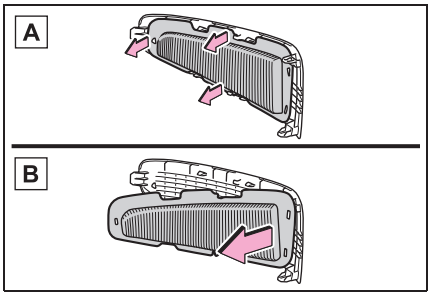
2 吸気口カバーを取りはずす



A 図で示す 6ヶ所のツメをはずし、吸入口カバーを手前に引いて取りはずす

B カバーを車両の前方に引いて取りはずす

3 吸気口のカバーからフィルターを取りはずす



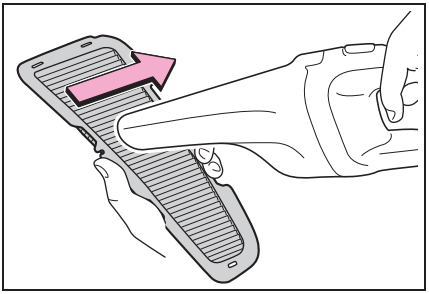
A 図に示すようにツメをはずす

B 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。

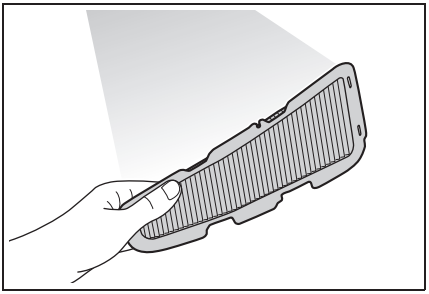
4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



6 フィルターを元の位置に取り付けてから、吸気口のカバーを取り付ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」と表示されていたとき

7 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

警告

■吸入口の清掃をするときは

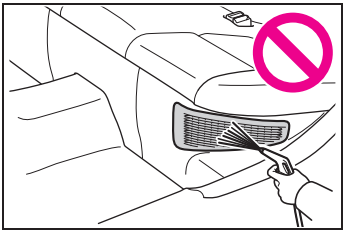
- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



注意

■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小型マイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

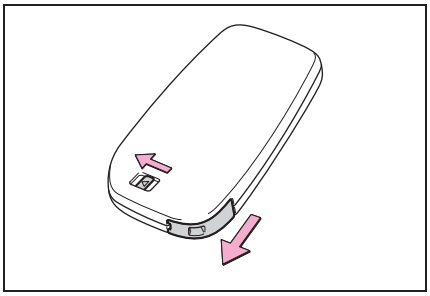
知識

■CR2450 リチウム電池を使用する

- 電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。
- メーカーが推奨する同一または同等のタイプとのみ交換してください。
- 使用済み電池は、現地の法律に従って廃棄してください。

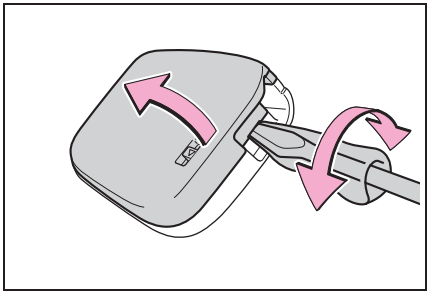
電池を交換するには

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

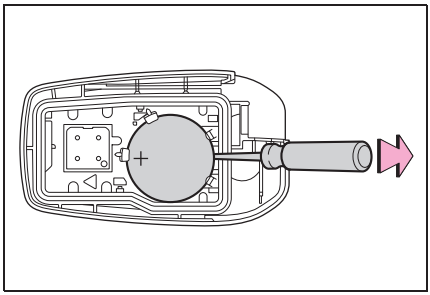
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 小さなマイナスドライバーを使用して、消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 キーカバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む

5 または スイッチを操作し、ドアがロック / ロック解除できることを確認する

⚠警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない。錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない。
- 電極を曲げない。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

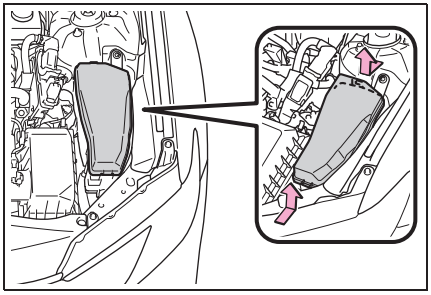
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にします。

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

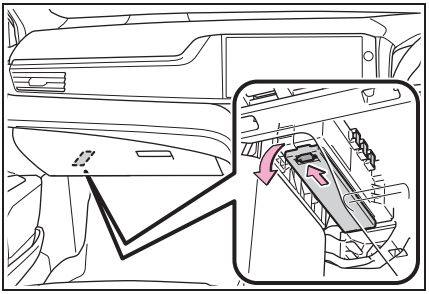
ツメを押しながらカバーを持ち上げてはずす



▶ 助手席足元

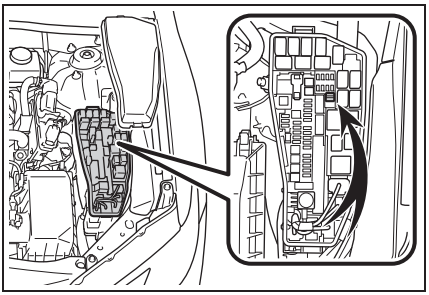
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

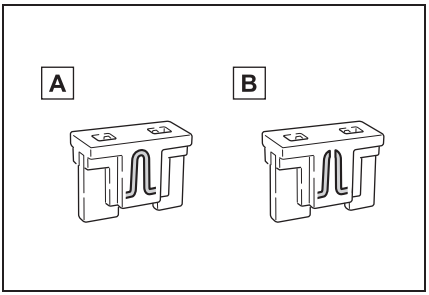


3 引き抜き工具でヒューズを引き抜く

引き抜き工具を使用して取り外すことができるのは一部のヒューズのみです。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

切れたヒューズを適切なアンペア数定格の新しいヒューズと交換します。アンペア数定格はヒューズボックスの蓋に記載されています。

この車両には多くの種類のヒューズが使用されています。この図は、この車両で使用されている一般的なタイプのヒューズを示しています。

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 常にトヨタ純正ヒューズまたは同等品を使用してください。ヒューズを一時的な修理としてでもワイヤーと交換しないでください。

⚠警告

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 342
非常点滅灯（ハザードランプ） 343
発炎筒 343
車両を緊急停止するには 344
水没・冠水したときは 345
車中泊が必要なときは 346

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 347
何かおかしいと思ったら 351
警告灯がついたときは 352
警告メッセージが表示されたときは 360
パンクしたときは 372
ハイブリッドシステムが始動できないときは 382
キーをなくしたときは 383
電子キーが正常に働かないときは 384
補機バッテリーがあがったときは 386
オーバーヒートしたときは 391
スタックしたときは 394

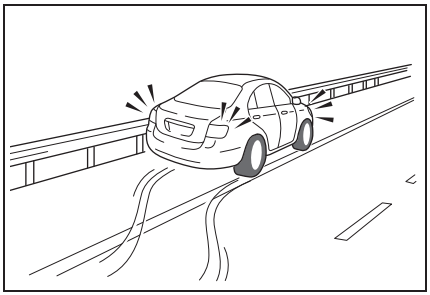
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.343）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

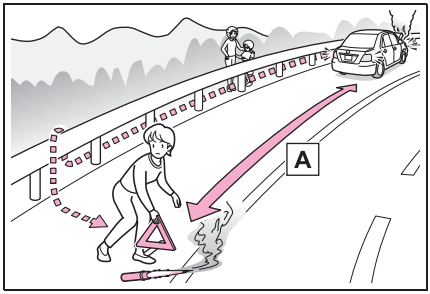
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.343）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでくださ

い。

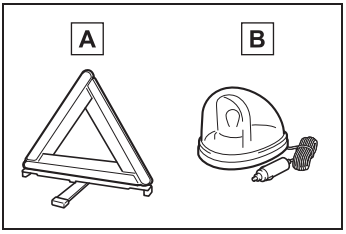


3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

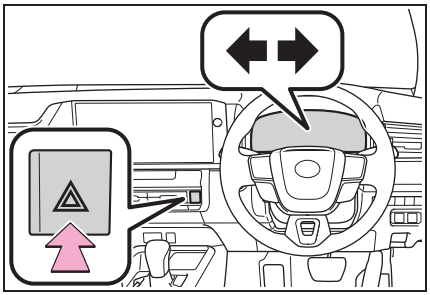
事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

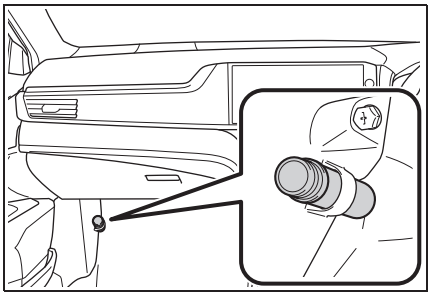
- ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

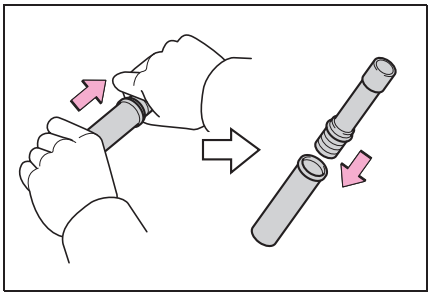
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



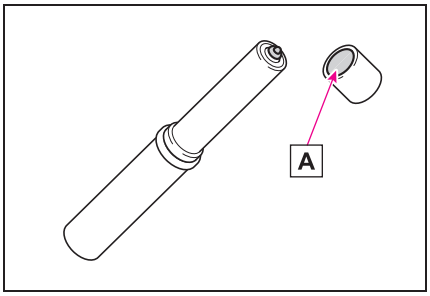
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

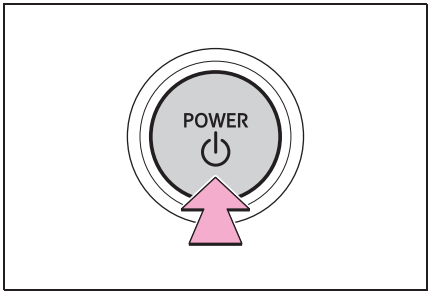
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアをこえると

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※1の使用について

この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスには合わせガラス※2が使用されています。

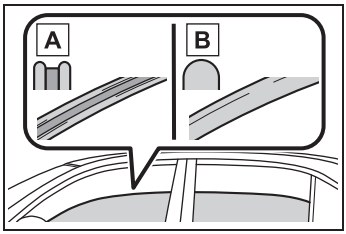
合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※1で割ることができません。

※1詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

※2装備されている場合

■合わせガラスの見分け方

断面から見ると、合わせガラスは2枚のガラスを貼り合わせたものです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- 速度 30km ／ h 以下
- 距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

すべてのけん引作業には安全チェーンシステムを使用し、国・地方自治体の法令および地域の規則を遵守してください。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

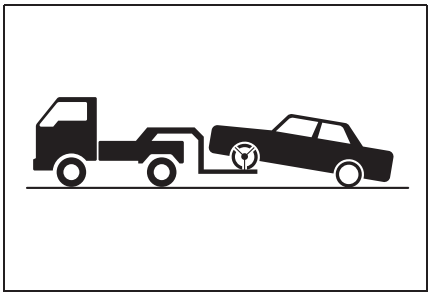
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

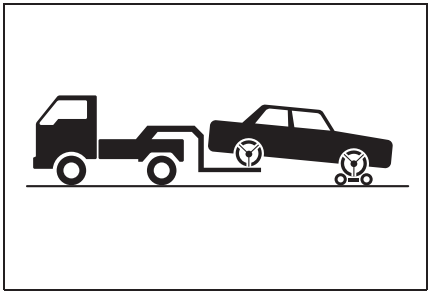
▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。(→P.140)

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

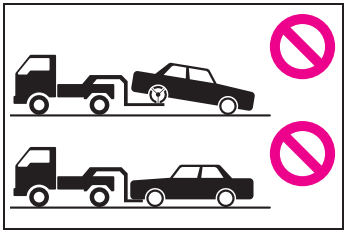
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■レッカー車でけん引するとき

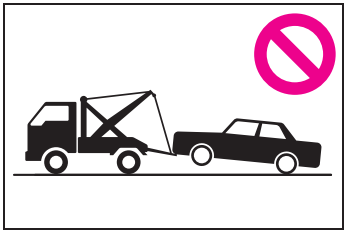
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブルなどを過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

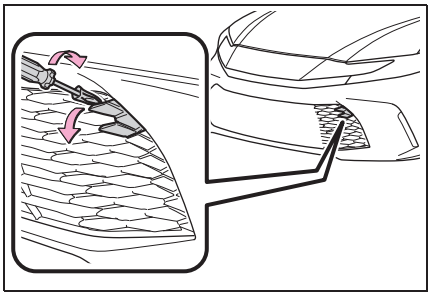
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す（→P.326）

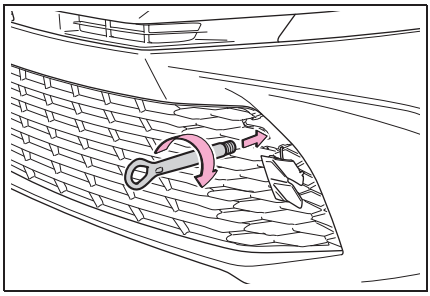
★：ホイールナットレンチは工場出荷時には搭載されていませんが、トヨタ販売店で購入することができます。詳しくはトヨタ販売店におたずねください。

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

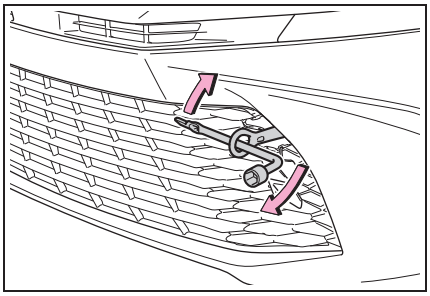
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

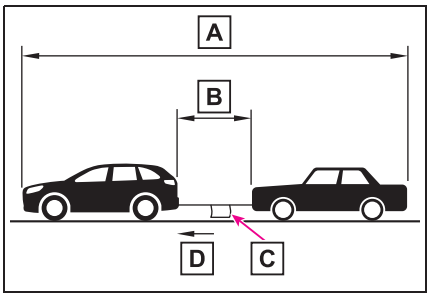


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.140）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→P.137

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

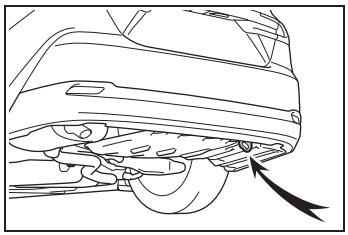
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて★

トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
  - ワイヤーロープは使用しない
  - 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
  - 前進方向でけん引する
  - サスペンション部などにロープをかけない
  - この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

何かおかしいと思ったら

次の症状のいずれかに気づいた場合、お車の調整または修理が必要であるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

目に見える症状

- 車両下部からの液漏れ。（使用後のエアコンからの水滴は正常です。）
- 平らに見えるタイヤまたは偏ったタイヤの摩耗
- エンジン冷却水温度計が常に通常より高い値を示している。

聴取可能な症状

- 排気音の変化
- コーナリング時の過剰なタイヤのきしむ音
- サスペンションシステムに関連する異音
- ハイブリッドシステムに関連するピング音その他の異音

機能症状

- エンジンがかからない、失速する、または不規則に作動する
- 著しい出力低下
- ブレーキをかけると車両が片側に大きく引っ張られる
- 平坦な道路を走行中に車両が片側に大きく引っ張られる
- 制動力の低下、スポンジのような感触、ペダルが床にほぼ接触する状態

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）	次の異常を示します。 ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	次の異常を示します。 ●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。** **（→P.391）**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 → **安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。（→P.391）**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）  （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 6.7L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

助手席シートベルト警告ブザー：

助手席シートベルト警告ブザーは、助手席のシートベルトが着用されていないことを警告するために鳴ります。シートベルトが着用されていない場合は、車が一定速度に達した後、一定時間断続的にブザーが鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	ライトが点灯するとき（ブザーが鳴ったとき）： ●自然原因によるタイヤ空気圧の異常 **→ タイヤの温度が十分に下がった後、各タイヤの空気圧を確認し、規定値に調整してください。** ●パンクによるタイヤの空気圧の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。** 約 1 分間点滅した後、ライトが点灯するとき（ブザーは鳴らない）： タイヤ空気圧警告システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●後方車両への接近警報★ ●後方車両接近告知★ ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★ **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リアカメラディテクション）★ ●BSM（ブラインドスポットモニタ） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.366)**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■走行中に故障警告灯が点灯した場合

まず、次の点を確認してください。

- 燃料タンクが空の場合は、すぐに燃料を補充してください。

数回の走行後、ライトは消灯します。

数回走行しても警告灯が消えない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯したとき

タイヤを点検し、パンクしていないか確認してください。

タイヤがパンクした場合：→P.372

パワースイッチを OFF にし、その後 ON に切りかえてください。タイヤ空気圧警告灯が点灯または点滅するか確認してください。

▶タイヤ空気圧警告灯が約60秒間点滅した後、点灯したままになる場合

タイヤ空気圧警告システムに不具合が生じているおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤの温度が十分に下がった後、各タイヤの空気圧を確認し、規定値に調整してください。

警告灯が数分経過しても消えない場合は、各タイヤの空気圧が規定値にあることを確認し、タイヤ空気圧設定手順を実行してください。(→P.320)

タイヤ空気圧設定操作を行ってから数分経過しても警告灯が消えない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■タイヤ空気圧警告灯は自然現象により点灯する場合があります

タイヤ空気圧警告灯は、自然空気漏れや温度によるタイヤ空気圧の変化などの自然現象によって点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を調整すると警告灯は消灯します（数分後）。

■タイヤ空気圧警告システムが正常に作動しないおそれがある条件

→P.318

⚠警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次の注意事項を必ずお守りください。これらを守らないと、車両の制御を失い、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ただちに安全な場所に停車し、タイヤの空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯したままの場合は、タイヤの空気圧を調整した後でも、パンクしているおそれがあります。タイヤを確認してください。パンクしているタイヤがある場合は、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのトヨタ販売店にて修理を受けてください。
- 急な操作や急ブレーキは避けてください。タイヤが劣化した場合、ハンドルやブレーキの制御を失うおそれがあります。

■万一、タイヤのパンクや急な空気漏れが発生したときは

タイヤ空気圧警告システムはただちに作動しない場合があります。

⚠ 注意

■タイヤ空気圧警告システムが正常に作動することを保証するため

異なる仕様またはメーカーのタイヤを組み合わせて装着しないでください。タイヤ空気圧警告システムが正常に作動しないおそれがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法に従ってください。
(→P.352)

知識

■警告メッセージについて

下記の警告メッセージは、運転状況や車両仕様により実際のメッセージと異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

メッセージと警告作動

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

原因	対処方法
エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。 また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

原因	対処方法
走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。	ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました” が表示されたときは

原因	対処方法
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。	次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

原因	対処方法
シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。	アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、S または R にしてください。

■ “ハイブリッドシステムが高温になるため停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

原因	対処方法
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。	そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは

原因	対処方法
一定時間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。	車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ “駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは

原因	対処方法
シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。	シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■ “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたときは

原因	対処方法
負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	→P.391

■ “切替未完了 登録し直してください 取扱説明書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
車輪セットの交換が完了していないときにメッセージが表示されます。	どのホイールセットが装着されているかを確認し、交換手順を最初から再度実行してください。

■ “駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたときは

原因	対処方法
駆動用電池の点検または交換が必要なときにメッセージが表示されます。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ●駆動用電池の点検を受けずに車両を運転し続けると、ハイブリッドシステムが起動しなくなるおそれがあります。 ●ハイブリッドシステムが起動しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のシステムに異常があるおそれがあります。 ●LED ヘッドランプ ●オートマチックハイビーム	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示されたときは

対処方法
→P.391

■ “スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ “エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中” が表示されたときは

原因	対処方法
このメッセージがひんぱんに表示される場合、充電システムに関連する不具合が発生しているおそれがあります。または補機バッテリーが劣化しているおそれがあります。	トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。	●駆動用電池冷却用吸入口を清掃する (→P.333) ●駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” が表示されたときは

対処方法
●数秒後に表示が消えたときは：ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。 ●表示が消えないときは：「補機バッテリーがあがったときは」(→P.386) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。約 6 秒間表示されます。

■ “機能故障　販売店で点検” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● AHB（オートマチックハイビーム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 発進遅れ告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ● BSM（ブラインドスポットモニタ） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両への接近警報★ ● 安心降車アシスト ● 後方車両接近告知★ ● 周辺車両接近時サポート★ ● セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★ ● クリアランスソナー ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション）★	すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止　取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●AHB（オートマチックハイビーム） ●レーダークルーズコントロール ●RSA（ロードサインアシスト） ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ●BSM（ブラインドスポットモニタ） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●後方車両への接近警報★ ●安心降車アシスト ●後方車両接近告知★ ●周辺車両接近時サポート★ ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）★ ●クリアランスソナー ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）★	次の対処法に従ってください。 ●補機バッテリー電圧を確認する ●Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.163) ●RCD 装着車：トランクが開いていないか確認してください。

原因	対処方法
センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。(→P.221, 224, 227, 229, 231, 235, 245)	●センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。(→P.218) ●センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。(→P.236) ●センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良　取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●AHB（オートマチックハイビーム） ●レーダークルーズコントロール ●RSA（ロードサインアシスト） ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 ●エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。 ●ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外　常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●AHB（オートマチックハイビーム） ●レーダークルーズコントロール ●RSA（ロードサインアシスト） ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる ●特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります ●極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ　汚れを除去してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●レーダークルーズコントロール ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.164) ●砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。 車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外　常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●レーダークルーズコントロール ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中　取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LTA（レーントレーシングアシスト） ●レーダークルーズコントロール ●発進遅れ告知 ●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 ●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.164) ●レーダーの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●レーダークルーズコントロール ●クルーズコントロール 走行支援スイッチを短時間にくり返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。	走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ “Driver Monitor Out of Temperature Range Wait until Normal Temperature” が表示されたときは（一部のモデル）

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ●ドライバーモニター	ドライバーモニターカメラの温度が動作範囲外です。温度が適切になるまでお待ちください。

■ “Driver Monitor Unavailable See Owner’ s Manual” が表示されたときは（一部のモデル）

原因	対処方法
ドライバーモニタカメラのレンズが汚れている可能性があります。	レンズを傷付けないよう乾いたやわからい布で汚れをふき取ってください。

■ “ ソナーに水滴、雪等が付着しています ” が表示されたときは

原因・対処方法
クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。 また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。 汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。 水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “ 機能停止 周辺監視用カメラ視界不良　取扱書を確認 ” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション）★	後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “ エンジン系故障 ” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “ハイブリッドシステム故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “アクセル系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリー系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障しているおそれがあります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “ハイブリッドシステム停止” が表示されたときは

原因	対処方法
車両の燃料が切れたおそれがあります。	ただちに安全な場所に停車し、燃料レベルが低い場合は燃料を補給してください。

■ “燃料残量不足 エンジン停止” が表示されたときは

原因	対処方法
車両の燃料が切れたおそれがあります。	ただちに安全な場所に停車し、燃料レベルが低い場合は燃料を補給してください。

⚠ 注意

■ “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.372）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

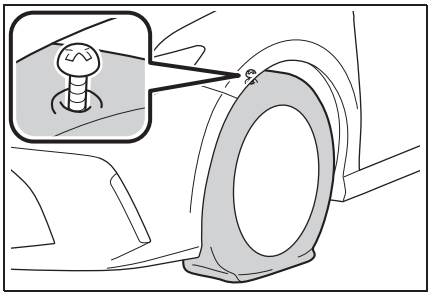
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



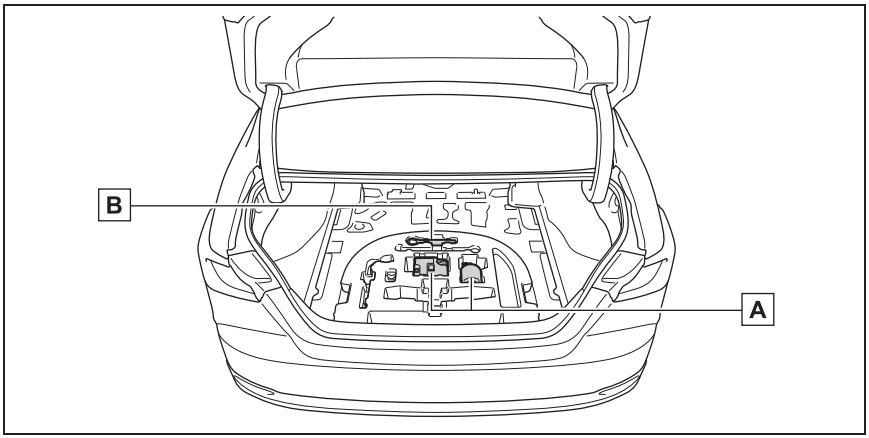
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

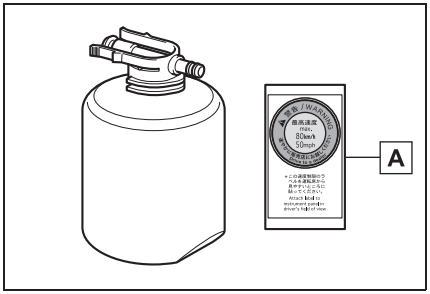


A タイヤパンク応急修理キット

B けん引フック

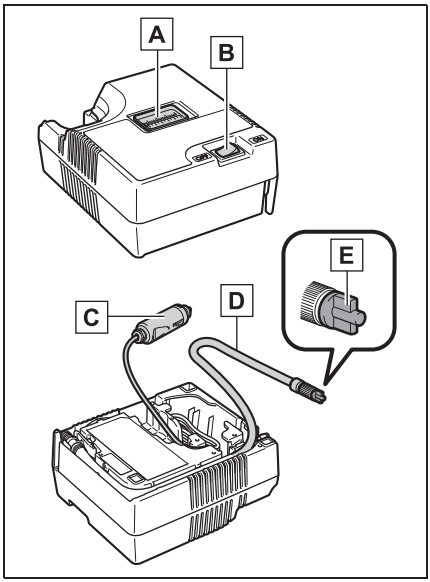
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

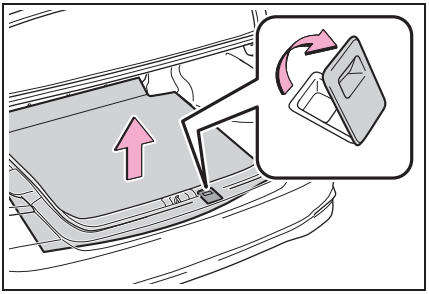
■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

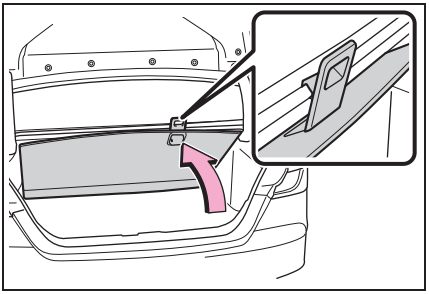
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 フックを持ってラゲージマットを引き上げる



2 フックを使ってラゲージマットをトランクの端にかけ固定する



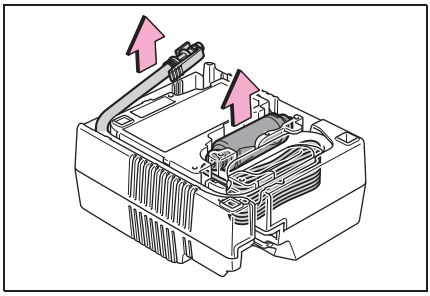
3 応急修理キットを取り出す（→P.373）

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

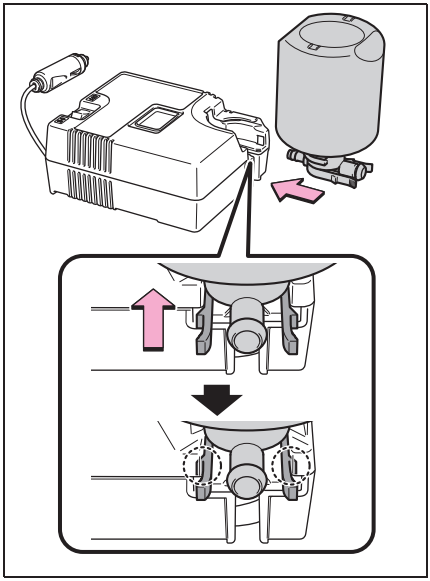
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

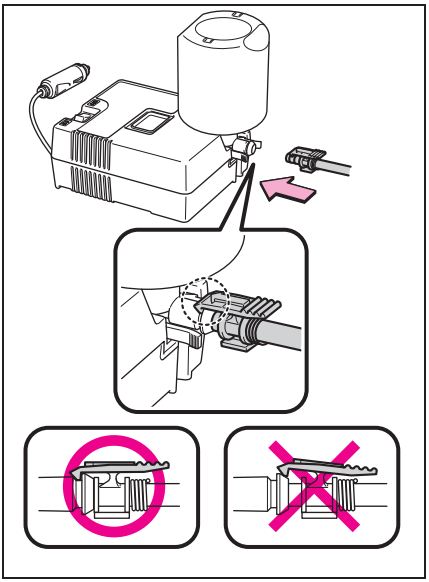
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。



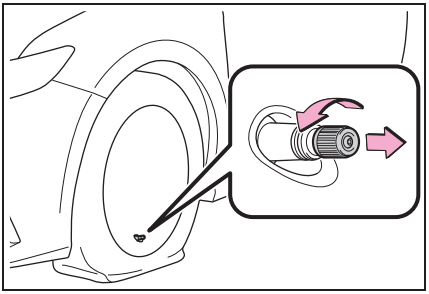
4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり

接続しているか確認してください。

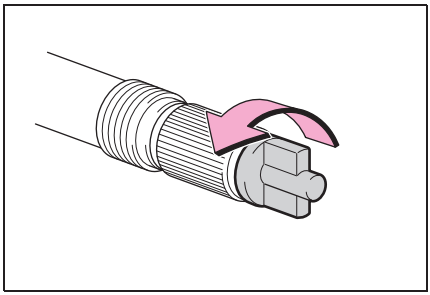


5 パンクしたタイヤのバルブから
バルブキャップを取りはずす



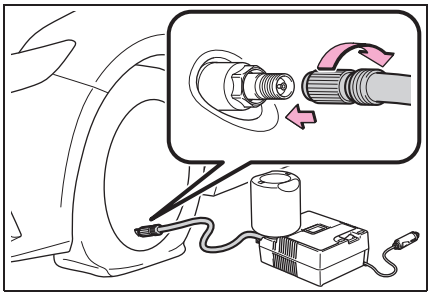
6 ホースをのばし空気逃がし
キャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

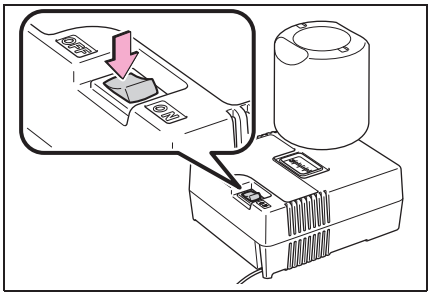


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

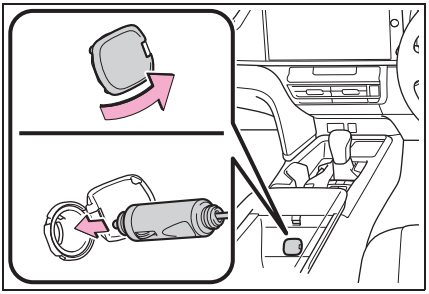
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



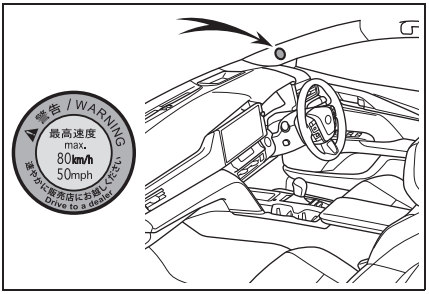
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.301）

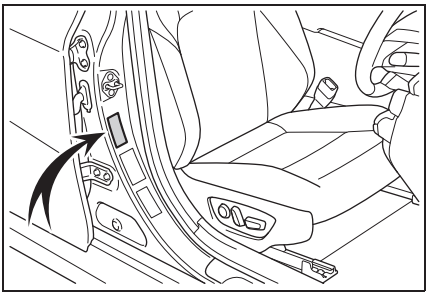


10運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



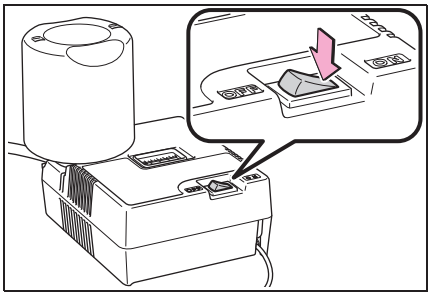
11タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.330）

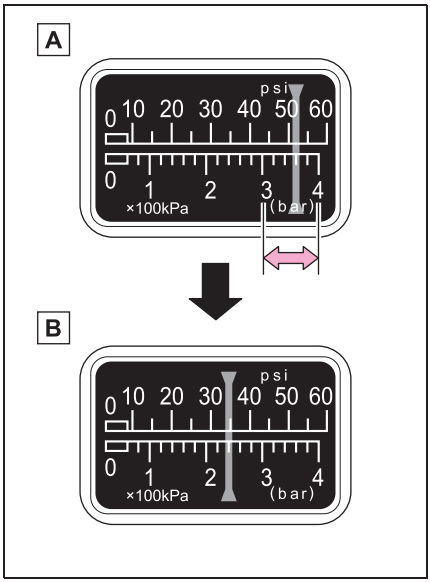


12ハイブリッドシステムを始動する（→P.129）

13コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチをONにしてから約1～5分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.379, 400）

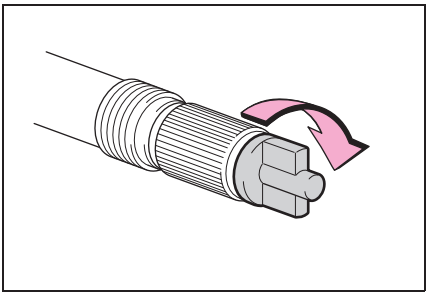
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

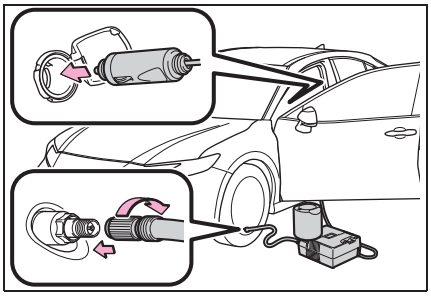


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

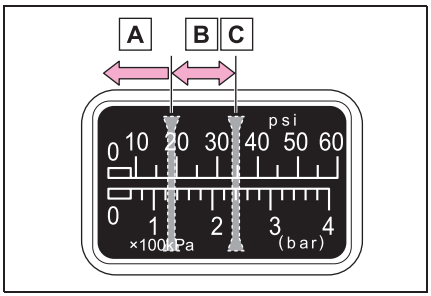
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

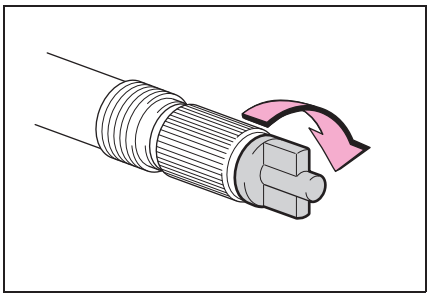
C 空気圧が指定空気圧（→P.400）の場合：手順 **23**

へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

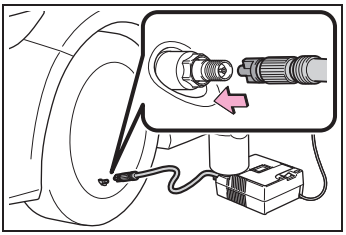
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

⚠ 警告

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法 (→P.129) に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.384)
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.61)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。(→P.382)
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－ 30 ℃以下）可能性があります。(→P.58, 130)

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.386)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.386)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く (→P.140)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチを ACC にする ※1, 2

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受け

てください。

※1カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（マルチメディア装着車）(→P.385)

※2ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.98)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.404)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.98)
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。(→P.87)

注意

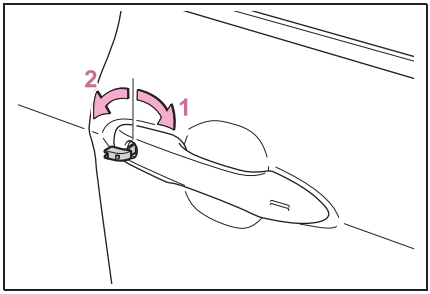
■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

■ ドア

メカニカルキー (→P.88) を使って次の操作ができます。



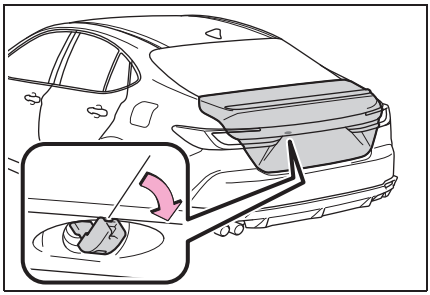
1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

キーをまわすと運転席ドアのロックが解除されます。もう一度キーをまわすと他のドアのロックが解除されます。

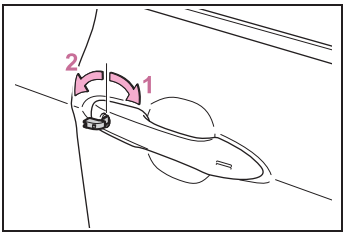
■ トランク

メカニカルキーを右まわりにまわして開きます。



知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

2 ドアガラスとが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってパワーウインドウを操作するとき

パワーウインドウに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

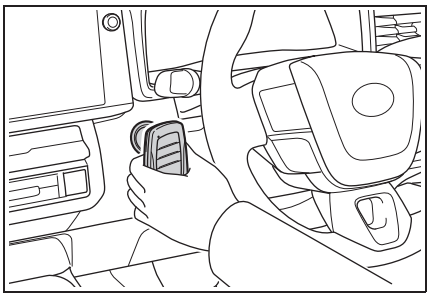
ハイブリッドシステムを始動するには

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.335)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.62)

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.129)

補機バッテリーがあがったときは

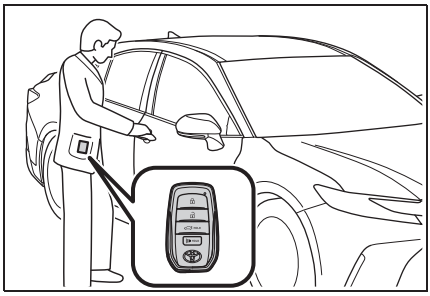
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

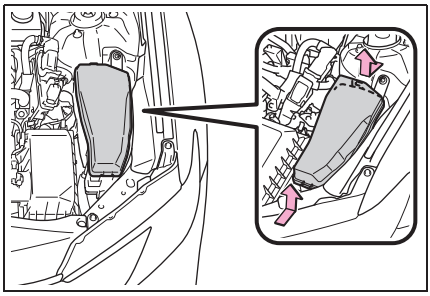
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

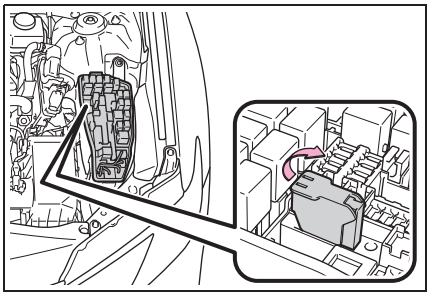
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.62)



2 ボンネットを開けて(→P.312)、ヒューズボックスのカバーをはずす

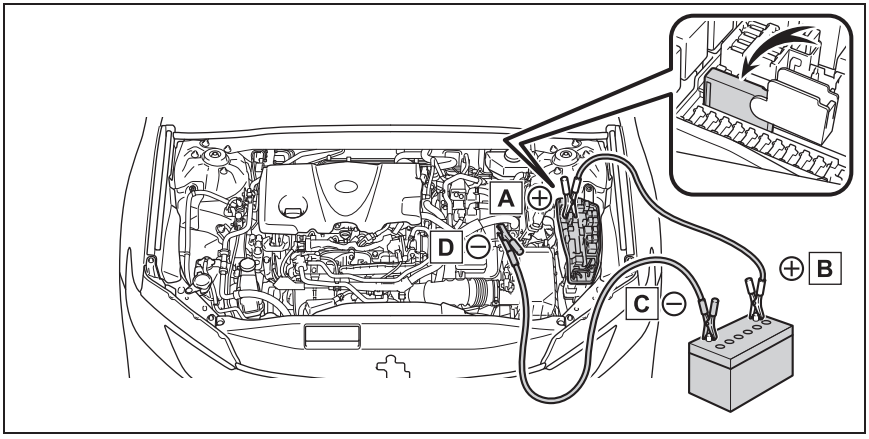


3 ヒューズボックス内の救援端子のカバーを開ける。



4 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーのー端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

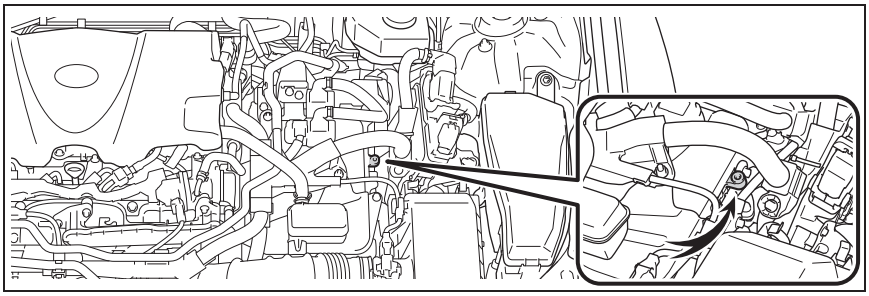


[A] 補機バッテリーの＋端子（自車）

[B] バッテリーの＋端子（救援車）

[C] バッテリーのー端子（救援車）

D 金属部



図で示す場所に接続してください。

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチを OFF にした状態で、車両のいずれかのドアを開閉します。

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 “READY” インジケーターが点灯することを確認する点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。(→P.415)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間

放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●一部のシステムでは初期化が必要な場合があります。(→P.415)

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（55Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。

・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化やハイブリッドシステムの始動ができなくおそれがあります。

・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

・一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

●ハンドル付きの補機バッテリーを使用してください。ハンドルのない補機バッテリーを使用すると、取り外しが難しくなります。

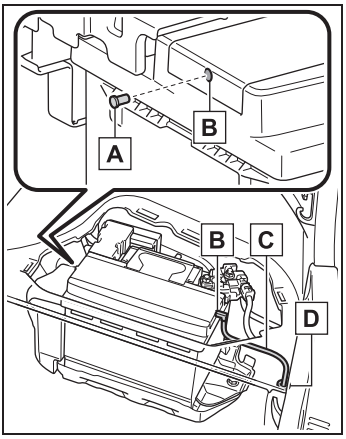
●交換後は補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。

・エルボが排気ホースと補機バッテリーの排気穴に確実に接続されていることを確認してください。

・排気穴栓が接続しない排気穴に確実に接続されていることを確認してください。

・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）。



A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

D 車両穴部

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- “＋” 端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

ブースターケーブル端子は、緊急時に他の車両から補機バッテリーを充電する際に使用します。他の車両のブースターケーブルには使用できません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

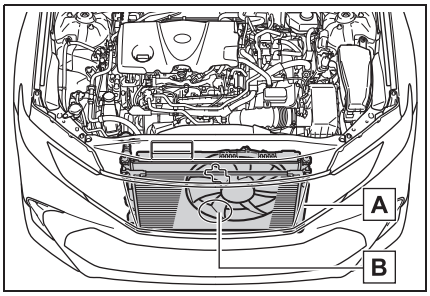
- 水温計 (→P.70) の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” または “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
2 蒸気が出ている場合：蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける蒸気が出ていない場合：注意してボンネットを開ける
3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア

部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

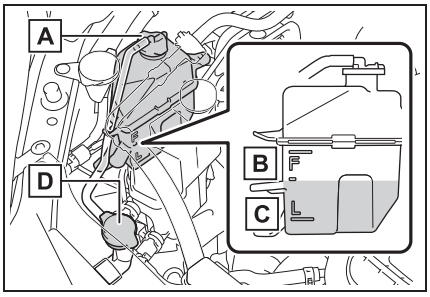


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

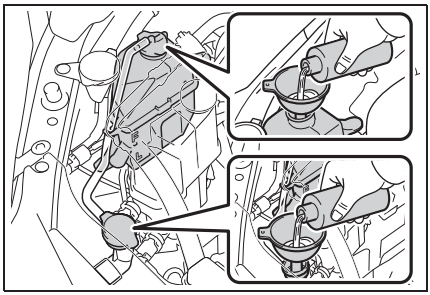
B “F”（上限）

C “L”（下限）

D ラジエターキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

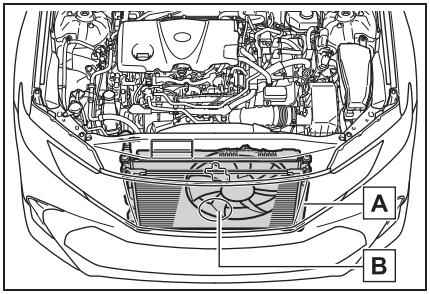
メッセージが消えない場合：ハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店にご連絡ください。メッセージが表示されない場合：最寄りのトヨタ販売店で車両を点検してください。

マルチインフォメーションディスプレイに“ハイブリッドシステム高温出力制限中です”が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

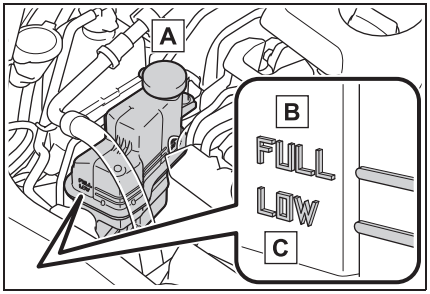


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



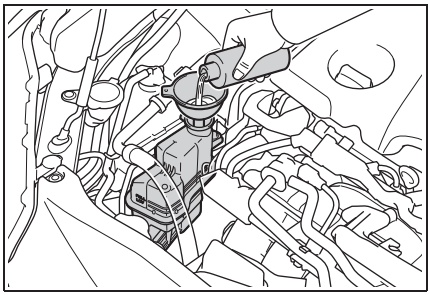
A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給し、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する表示が消えない場合：ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

⚠ 警告

- ハイブリッドシステムの停止後は、“READY” インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 前輪周辺の土や雪などを取り除く

3 前輪の下に木や石などをあてがう

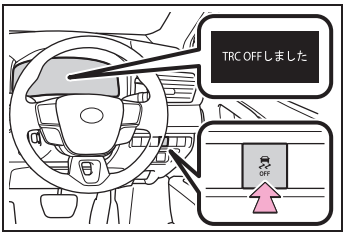
4 ハイブリッドシステムを再始動する

5 シフトレバーを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 398

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 401

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 415

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	49.3 L

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

■ 容量［L］（参考値※）

オイルとオイルフィルター交換	4.3
オイルのみ交換	4.0

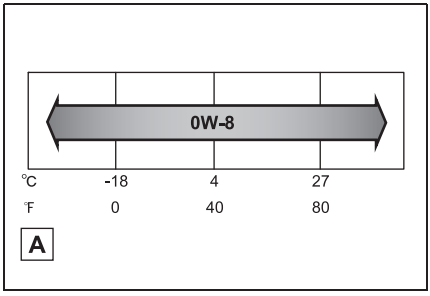
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

トヨタ車には “Toyota Genuine Motor Oil” が使用されています。下記のグレードと粘度を満たす、トヨタ認定の “Toyota Genuine Motor Oil” または同等品をご使用ください。

オイルグレード：JASO GLV-1

推奨粘度：SAE 0W-8



A 外気温 (℃)

SAE 0W-8 は、燃費の向上と寒冷地での始動性の向上に最適です。

SAE 0W-8 が入手できない場合は、SAE 0W-16 オイルを使用できます。ただし、次回のオイル交換時に SAE 0W-8 に交換する必

要があります。

オイル粘度について（例として0W-8 で説明します）：

・ 0W-8 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-8 の 8 は、高温時の粘度特性を示しています。

オイル容器ラベルの読み方：

一部のオイル容器には、使用するオイルの選択に役立つよう、日本自動車規格協会（JASO）GLV-1 マークが付けられています。



ラジエーター

容量［L］（参考値）	ガソリンエンジン	6.1
	パワーコントロールユニット	1.9
クーラントの種類		次のいずれかを使用します。 ・ “Toyota Super Long Life Coolant” ・ 長寿命ハイブリッド有機酸技術を採用した、同様の高品質エチレングリコールベースの非シリケート、非アミン、非亜硝酸塩、非ホウ酸塩冷却剤 普通の水だけを使用しないでください。

ハイブリッドトランスミッション

容量［L］（参考値 ※）※	3.7
指定銘柄	トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ハイブリッドトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

踏み込んだときの床板とのすき間※	90mm 以上
遊び	1 ～ 6 mm
指定銘柄	FMVSS No.116 DOT 3 or SAE J1703 FMVSS No.116 DOT 4 or SAE J1704

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときのコラムホールカバーとのすき間の最小値

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧★

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
205/65R16 95H	16 × 6 1/2J	240（2.4）	240（2.4）
215/55R17 94V	17 × 7 1/2J		
235/45R18 94W	18 × 8J		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
103N・m（1050kgf・cm）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。(→P.117)

設定を変更するには

■ **マルチメディアディスプレイで設定するには**

1 マルチメディアディスプレイの ⚙ ボタンを選択する

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、（作動）/ （非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ **メーター操作スイッチを使用して変更するには**

1 マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択する。

2 メーター操作スイッチを押して、設定を変更したい項目を選択する。

3 OK を押すか、長押しします。

OK を押した場合と押し続けた場合で、設定できる項目が異なります。画面の指示に従ってください。

⚠ 警告

■カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアディスプレイで設定変更可能

B メーター操作スイッチで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

記号の定義 : O = 利用可能、— = 利用不可

■ 先読みエコドライブ★ (→P.55)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先読みエコドライブ	●あり ●なし	O	—	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ゲージ・メーター・マルチインフォメーションディスプレイ (→P.66, 70, 74)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
言語 ※1	●日本語 ※3 ●英語 ※3	O	O	—
単位	●km/L※3	—	O	—
メーター表示タイプ ※1	●タイプ 1※2 ●タイプ 2※2 ●タイプ 3	—	O	—
メーターデザインタイプ ※1	●カジュアル ●スマート ●タフ ●スポーティー	—	O	—
アナログメーター切りかえ (ディスプレイタイプ 2) ※1	●スピードメーター ●ハイブリッドシステムインジケーター ●タコメーター	—	O	—
アナログメーター切りかえ (ディスプレイタイプ 3) ※1	●ハイブリッドシステムインジケーター ●タコメーター	—	O	—
EV インジケーター ※1	●あり ●なし	—	O	—
燃費グラフ	●リセット間平均燃費 ●始動後平均燃費	—	O	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アクセルガイド※1	●あり ●なし	—	O	—
ドライブインフォ項目選択（上段）※1 ドライブインフォ項目選択（下段）※1	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	O	—
トリップA 項目（上段）※1 トリップA 項目（下段）※1	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	O	—
トリップB 項目（上段）※1 トリップB 項目（下段）※1	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	O	—
割込表示※1	●あり ●なし	—	O	—
提案サービス※1	●あり ●あり（車両停止時） ●なし	O	—	O
制動灯表示灯	●あり ●なし	—	O	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2ウィジェットの ON/OFF 操作を変更できます。

※3車両の仕様により実際の項目と異なる場合があります。

■ ドアロック (→P.89, 93, 384)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	O
自動ドアロック機能※	●シフトポジション連動ドアロック機能 ●スピード連動ドアロック機能 ●なし	O	—	O

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
自動ドア解錠機能 ※	●シフトポジション連動ドアロック解除機能 ●運転席ドア連動ドアロック解除機能 ●なし	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	●あり ●なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後部座席リマインダー機能 (→P.91)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後部座席リマインダー機能	●あり ●なし	—	○	—

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.89, 96)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル 0（なし）～レベル 7	○	—	○
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒 ●なし	○	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.89, 96)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	—	—	○
解錠されるドアの選択	●運転席のみ解錠 ●全席解錠	○	—	○
運転席ドアハンドルを握って押さえたときにすべてのドアのロックを解除するまでの経過時間	●1.5 秒 ●2.0 秒 ●2.5 秒 ●非作動	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	—	○
パワースイッチ文字照明	●あり ●なし	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.86, 89, 93)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレス機能	●あり ●なし	—	—	○
解錠時の操作 ※	●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 ●1 回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	●1 回押し ●2 回押し ●1 回押し続ける（短） ●1 回押し続ける（長） ●非作動	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアミラー（→P.109）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オート電動格納作動	●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動 ●OFF	—	—	○

■ パワーウインドウ（→P.111）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	O
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり（開くのみ） ●なし	—	—	O
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	●あり ●なし	—	—	O

■ ドライビングポジションメモリー★（→P.114）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
降車時の運転席の動き※	●全移動 ●部分移動 ●非作動	O	—	O

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.127）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後退速度の抑制制御	●あり ●なし※	—	O	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ パワースイッチ (→P.129)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ ACC の ON ／ OFF を切りかえる	●ON ●OFF	O	—	O

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.145)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整※	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	O	—	O
ランプ消し忘れ防止機能※	●なし ●30 秒 ●60 秒 ●90 秒	O	—	O
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	—	O

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ (→P.145)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
デイタイムランニングランプ※	●あり ●なし	O	—	O
ウェルカムランプ	●あり ●なし	—	—	O

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ プリクラッシュセーフティ (→P.172)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	—	O	—
警報タイミング※	●遅い ●標準 ●早い	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンディパーチャーアラート (→P.186)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート※	●ON ●OFF	—	O	—
警報タイミング※	●標準 ●早い	—	O	—
警報手段※	●ハンドル振動 ●ブザー	—	O	—
低車速支援※	●ON ●OFF	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール (→P.201)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
加速度設定※	●弱 ●中 ●強	—	O	—
速度設定（短押し）※	●1km/h ●5km/h ●10km/h	—	O	—
速度設定（長押し）※	●1km/h ●5km/h ●10km/h	—	O	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ガイド文言表示※	●ON ●OFF	—	O	—
レーダークルーズコントロール (ロードサインアシスト連携機能付き)★	●ON ●OFF	—	O	—
標識速度オフセット※ (ロードサインアシスト連携機能付き)★	●-5 ～ +5 (1 刻み)	—	O	—
カーブ速度抑制※	●OFF ●弱 ●中 ●強	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ プロアクティブドライビングアシスト (→P.191)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト (PDA)※	●ON ●OFF	—	O	—
支援感度※	●低い ●中間 ●高い	—	O	—
操舵アシスト（SA）※	●ON ●OFF	—	O	—
減速アシスト（DA）※	●ON ●OFF	—	O	—
障害物先読みアシスト（OAA）※	●ON ●OFF	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知機能（→P.196）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車 ※	●ON ●OFF	—	○	—
信号 ※	●ON ●OFF	—	○	—
告知タイミング ※	●早い ●標準 ●遅い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ロードサインアシスト (→P.198)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト ※	●ON ●OFF	—	O	—
速度標識超過告知方法 ※	●無 ●表示 ●表示とブザー	—	O	—
その他告知方法 ※	●無 ●表示 ●表示とブザー	—	O	—
速度超過告知車速 ※	●2km/h ●5km/h ●10km/h	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案 (→P.188)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	●ON ●OFF	—	O	—

■ ドライバーモニター★ (→P.170)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
警告機能※	●ON ●OFF	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）(→P.217)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	—	O	—
ドアミラーインジケーターの明るさ※	●暗い ●明るい	—	O	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	—	O	—
ブザー警報※	●あり ●なし	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後方車両接近告知★ (→P.222)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後方車両接近告知機能※	●あり ●なし	—	O	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 周辺車両接近時サポート★（→P.225）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
周辺車両接近時サポート機能 ※	●あり ●なし	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー ※1 (→P.236)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能 ※1	●あり ●なし	—	O	—
ブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	O	—
フロントセンターセンサーの検知開始距離 ※3	●近い ●標準	O	—	—
リヤセンターセンサーの検知開始距離 ※3	●近い ●標準	O	—	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクション（装備されている場合）の音量調整は連動しています。

※3パノラミックビューモニター装着車は、パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは 「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）(→P.242)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	●ON ●OFF	—	O	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	O	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクション（装備されている場合）の音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★ (→P.247)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCD 機能	●ON ●OFF	—	O	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★ (→P.251)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	●ON ●OFF	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 安心降車アシスト (→P.232)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
安心降車アシスト機能	●ON ●OFF	—	O	—
ドアミラーインジケーター表示 ※	●あり ●なし	—	O	—
接近車両検知の感度 ※	●低い ●中間 ●高い	—	O	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ エアコン (→P.278, 284)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	●する ●しない	O	—	O

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ステアリングヒーターの温度設定★※	●-2～2	○	—	○
AUTO スイッチが ON のとき、A/C スイッチが連動して ON になる※	●する ●しない	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→P.286）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
室内灯の消灯までの時間※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	—	○
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近づいたときの設定	●あり ●なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
明るさ調節機能※	●0（OFF）～9	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

知識

■車両カスタマイズについて

●スマートエントリー&スタートシステムが OFF の場合、解除されるドアの選択をカスタマイズすることはできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、作動の合図（非常点滅灯）と作動の合図音量（ブザー音量調整）の設定に依存します。

■次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

●パワースイッチが OFF になった

●カスタマイズモード画面が表示されている間、車両が動き始めます。

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスなどの作業を行ったあとに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・積載荷重などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき	P.320

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 418
アルファベット順さくいん..... 421
五十音順さくいん 423

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。(→P.383)
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。(→P.383)



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？(→P.335)
- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。(→P.132)

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。(→P.98)



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。(→P.92)

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？(→P.129)
- シフトレバーは P になっていますか？(→P.129)
- キーが車内の検知される場所にありますか？(→P.97)
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。(→P.385)

- 補機バッテリーがあがっていませんか？(→P.386)



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● パワースイッチは ON になっていますか？

パワースイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないときは (→P.137) を参照してください。



パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。(→P.113)



パワースイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→P.133)



走行中に警告音が鳴りだした

● シートベルト着用警告灯が点滅しています

運転者と同乗者はシートベルトを着用していますか？ (→P.354)

● パーキングブレーキインジケーターが点灯しています

パーキングブレーキは解除されていますか？ (→P.140)

状況によっては、他の種類の警告音が鳴る場合があります。(→P.352, 360)



アラームが作動し、クラクションが鳴った

● アラームを設定中に車内の誰かがドアを開けましたか？

アラームを無効化または停止するには、次のいずれかを実行してください

● エントリー機能またはワイヤレスリモコンを使用して、ドアのロックを解除するかトランクを開けてください。

● パワースイッチを ACC または ON の位置に切りかえるか、ハイブリッドシステムを始動してください。（警告音は数秒後に解除または停止します。）



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.352, 360 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.372）



立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。(→P.394)

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....278
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....261
AHB
（オートマチックハイビームシステム）.....149
BSM
（ブラインドスポットモニター）.....217
DSC
（ドライブスタートコントロール）.....127
ECB
（電子制御ブレーキシステム）..261
EDR
（イベントデータレコーダー）.....7
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....262
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....39
LDA
（レーンディパーチャーアラート）.....186
LED
（ライトエミッティングダイオード）.....339
LTA
（レーントレーシングアシスト）.....181
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..172
PDA
（プロアクティブドライビングアシスト）.....191
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）.....251
RCD
（リヤカメラディテクション）..247
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）.....242
RSA
（ロードサインアシスト）.....198
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....31
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）261
TMN
（発進遅れ告知機能）.....196
Toyota Safety Sense
.....170
AHB（オートマチックハイビーム）.....149
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....186
LTA（レーントレーシングアシスト）.....181
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....172
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....191
RSA（ロードサインアシスト）198
TMN（発進遅れ告知機能）.....196
クルーズコントロール 211
ドライバー異常時対応システム.....215
レーダークルーズコントロール.....201
TRC
（トラクションコントロール）..262

VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....261

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....386
アームレスト.....302
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....242
安心降車アシスト.....232
格納のしかた.....110
操作.....109
ブラインドスポットモニター（BSM）217
ポジションメモリー.....114
ミラーヒーター.....279
リバース連動機能.....110
明るさの調整
インストルメントパネルライトコントロール.....74
アクセサリーソケット.....301
アシストグリップ.....303
アラーム
オートアラーム.....62
警告ブザー.....352
安心降車アシスト.....232
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....261
警告灯.....353
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）.....96

い

EV ドライブモード.....134
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）
車両を緊急停止するには.....344
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....129
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）
車両を緊急停止するには.....344
モードの切りかえ.....132
イベントデータレコーダー（EDR）.....7
イモビライザーシステム.....61
イルミネーテッドエントリーシステム.....287
インジケーター（表示灯）.....67
インナーミラー.....108

う

ウインカー（方向指示灯）
方向指示レバー.....139
ウインドウ
ウォッシャー.....152
パワーウインドウ.....111
リヤウインドウデフォッガー.....279
ウインドウロックスイッチ.....113
ウォッシャー.....152
液の補給.....315
冬の前の準備・点検.....273
ウォッシャー液
点検.....315
動けなくなったときは（スタック）.394
運転
運転のアドバイス.....271
寒冷時の運転.....273
正しい運転姿勢.....25
手順.....121
運転支援機能情報表示.....76
運転席シートベルト非着用警告灯...354

え

エアコン
エアコンフィルター.....331
オートエアコン.....278

エアコンフィルター 331
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 353
改造・廃棄 36
警告ブザー 353
作動条件 32
正しい姿勢 25
液体
ウォッシャー液 315
エコアクセルガイド 78
エコジャッジ 78
エネルギーモニター 81
エレクトリックパワーステアリング（EPS） 262
警告灯 354
エンジン
アクセサリーモード 132
イグニッションスイッチ（パワースイッチ） 129
イモビライザーシステム 61
エンジンスイッチ 129
オーバーヒート 391
緊急時の停止方法 344
タコメーター 70
ハイブリッドシステムが始動できない 382
ハイブリッドシステムの始動方法 129
パワースイッチ 129
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ） 129
ボンネット 312
エンジンオイル
警告灯 353
冬の前の準備・点検 273
メンテナンスデータ 398
容量 398
エンジンスイッチ
自動電源 OFF 機能 133
エンジンスイッチ（パワースイッチ） 129
車両を緊急停止するには 344
エンジンフード（ボンネット）
開け方 312
エンジンルーム
エンジンルームから蒸気が出ている ... 391

お

オイル（エンジンオイル） 398
オーディオシステム連携表示 79
オートアラーム 62
オートエアコン 278
オートマチックハイビーム 149
オーバーヒート 391
オープナー
給油扉 158
トランク 94
お子さまを乗せるとき
お子さまの安全のために 38, 93
シートベルトの着用 27, 28
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告 284
チャイルドシート 39
チャイルドシートの取り付け 39
チャイルドプロテクター 92
発炎筒の取り扱いに関する警告 344
パワーウインドウに関する警告 112
パワーウインドウロックスイッチ 113

か

カーゴネットフック 292
カーテンシールドエアバッグ 31
カードホルダー 292
外気温度表示 70
回生ブレーキ 54
買い物フック 292

ガス欠になったとき 57
カップホルダー 290
カメラ
前方カメラ（PCS） 163
ドライバーモニター 170
白線認識用カメラ（LTA） 181
寒冷時の運転 273

き

キー
キーナンバープレート 86
キーレスエントリー 89, 96
キーをなくした 383
警告ブザー 97
節電機能 97
電子キー 86
電池の交換 335
ハイブリッドシステムが始動できない 382
パワースイッチ 129
メカニカルキー 86
ワイヤレスリモコン 87
キーレスエントリー
スマートエントリー&スタートシステム 96
ワイヤレスドアロック 87
給油
給油口が開けられない 384
給油のしかた 157
メンテナンスデータ 398
緊急時の対処
オーバーヒートした 391
キーをなくした 383
警告灯がついた 352
警告メッセージが表示された 360
けん引 347
故障したときは 342
車中泊が必要なときは 346
車両を緊急停止する 344
水没したときは 345
スタックした 394
何かおかしいと思ったら 351
ハイブリッドシステムが始動できない 382
発炎筒 343
パンクした 372
補機バッテリーがあがった 386
緊急停止システム 60
緊急ブレーキシグナル 262

く

空気圧（タイヤ）
メンテナンスデータ 400
駆動用電池
警告メッセージ 60
充電について 54
搭載位置 57
冷却用吸入口 60
曇り取り
アウターミラー（ドアミラー） 279
フロントガラス 279
リヤウインドウ 279
クリアランスソナー 236
操作 237
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 145
クルーズコントロール 201, 211
グローブボックス 290
グローブボックスランプ 290

け

計器類（メーター） 70
警告灯 352
運転支援情報表示灯 357
ABS & ブレーキアシスト 353
SRS エアバッグ 353
LTA 表示灯 356

LDA 表示灯 356
エンジン 353
クリアランスソナー OFF 表示灯 357
クルーズコントロール表示灯 356
高水温 352
シートベルト非着用 354, 355
充電 353
スリップ表示灯 357
タイヤ空気圧 355
ドライブスタートコントロール 354
燃料残量 354
パーキングブレーキ表示灯 358
ハイブリッドシステム過熱 352
パワーステアリング 354
PCS 355
PDA 表示灯 356
ブレーキ 352
ブレーキオーバーライドシステム 354
油圧 353
レーダークルーズコントロール表示灯 356
警告ブザー
ABS & ブレーキアシスト 353
SRS エアバッグ 353
LDA（レーンディパーチャーアラート） 356
LTA（レーントレーシングアシスト） 356
エンジン 353
クリアランスソナー 357
クルーズコントロール 356
高水温 352
シートベルト非着用 354, 355
充電 353
衝突警報 172
接近警報（レーダークルーズコントロール） 206
タイヤ空気圧 355
手放し運転警告（LTA） 183
ドライブスタートコントロール 354
ハイブリッドシステム 353
ハイブリッドシステム過熱 352
パワーステアリング 354
半ドア 90
半ドア走行時 92
PDA（プロアクティブドライビングアシスト） 356
プリクラッシュセーフティ 355
プリクラッシュブレーキ 173
ブレーキ 352
ブレーキオーバーライドシステム 354
ブレーキホールド 358
窓開 112
油圧 353
レーダークルーズコントロール 356
シフトダウン制限 139
警告メッセージ 360
けん引
フックの搭載場所 326

こ

交換
タイヤ 325
電球（バルブ） 339
電子キーの電池 335
ヒューズ 337
工具（ツール） 326, 373
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール） 127
高電圧部位 57
後方車両接近告知 222
後方車両への接近警報 228
コーションラベル 57
コートフック 303
子供専用シート
取り付け方 40
小物入れ 291

コンソールボックス 291

さ

サービスプラグ 57
サイドウインドウ 111
サイドエアバッグ 31
サイド方向指示灯
方向指示レバー.....139
サイドミラー（ドアミラー）
安心降車アシスト.....232
格納のしかた.....110
操作.....109
ブラインドスポットモニター（BSM）217
ポジションメモリー.....114
リバース連動機能.....110
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）
.....242
先読みエコドライブ 55
サンバイザー.....302

し

シート
シートヒーター.....284
シートベンチレーター 284
シートポジションメモリー 114
正しい運転姿勢.....25
チャイルドシート.....39
調整.....102
調整の注意事項.....102
手入れ.....309
ドライビングポジションメモリー.....114
パワーイージーアクセスシステム.....114
ヘッドレスト.....104
メモリーコール機能.....116
シートヒーター 284
シートベルト
緊急ロック式リトラクター 28
シートベルト.....27
お子さまの着用.....27, 28
正しく着用するには 28
着け方・はずし方.....28
手入れ 309
妊娠中の方の着用.....27
非着用警告灯.....354, 355
シートベルト非着用警告灯....354, 355
シートベルトプリテンショナー
機能 29
プリテンショナー警告灯 353
シートベンチレーター 284
シートポジションメモリー.....114
ドライビングポジションメモリー.....114
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....58
室内灯（インテリアランプ）.....286
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ.....137
ハイブリッドトランスミッション.....136
シフトロックシステム 137
車中泊が必要なときは 346
ジャッキ
ガレージジャッキ.....314
車載ジャッキ.....326, 373
ジャッキハンドル 326, 373
車両仕様（スペック）.....398
車両接近通知装置 55
車両を緊急停止するには.....344
充電用 USB 端子.....294
収納装備.....289
周辺車両接近時サポート.....225
仕様（車両仕様）.....398
初期化
パワーウインドウ.....111
初期設定.....415
助手席シートベルト非着用警告灯 ...354

す

水温計.....70
スイッチ
.....145
RCTA.....242
アウターミラースイッチ.....109
EV ドライブモード.....134
イグニッション.....129
インストルメントパネルライトコントロールスイッチ.....74
ウインドウロックスイッチ.....113
ウインドシールドデアイサー.....281
LTA.....183
オートマチックハイビーム.....149
クリアランスソナー.....237
クルーズコントロール.....211
シートヒータースイッチ.....284
シートベンチレーター.....284
シートポジションメモリー.....114
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....203
ステアリングヒータースイッチ.....284
TRC OFF.....262
ドアロック.....92
ドライブモードセレクト.....260
パーキングブレーキ.....140
パドルシフトスイッチ.....138
パワーウインドウスイッチ.....111
ハンドル位置調整.....107
PKSB.....252
フォグランプ.....152
ブレーキホールド.....143
ポジションメモリー.....115
メーター操作.....75
リヤウインドウデフォッガー.....278
レーダークルーズコントロール.....201
スタック.....394
ステアリングヒーター.....284
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....107
ステアリングヒーター.....284
パワーイージーアクセスシステム.....114
ポジションメモリー.....115
メーター操作スイッチ.....75
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....273
スペック（車両仕様）.....398
スマートエントリー&スタートシステム
アンテナの位置.....96
始動方法.....129
ドアの解錠・施錠.....89
トランクの解錠.....94
スモールランプ（車幅灯）
ランプスイッチ.....145

せ

清掃
外装.....306
シートベルト.....309
ホイール・ホイールキャップ.....306
レーダー.....164
セカンダリーコリジョンブレーキ.230, 262
セキュリティインジケーター.....61, 62
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....206
センサー
インナーミラー.....108
雨滴感知センサー.....154
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....186
LTA（レーントレーシングアシスト）.181
後側方レーダーセンサー.....218
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）.....255
ライトセンサー.....147

レーダー 163, 233
前照灯（ヘッドランプ）
マニュアルレベリングシステム..... 148
ライトセンサー..... 147
ランプスイッチ..... 145

そ

走行モード（ドライブモード）.....260
速度計（スピードメーター）.....70

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
方向指示レバー..... 139
タイヤ
空気圧 330, 400
空気圧警告灯..... 355
交換..... 325
タイヤ空気圧警告システム 317
チェーン 274
パンク応急修理キット..... 372
パンクしたときは..... 372
冬用タイヤ 273
ホイールサイズ..... 400
ローテーション（位置交換）..... 317
タイヤが空まわりする（スタックした）
.....394
タイヤ空気圧
警告灯 355
タイヤ空気圧警告システム
機能について..... 317
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの切りかえ 324
ID コードの登録..... 322
空気圧バルブ／送信機について..... 318
警告灯 355
タイヤ位置の登録..... 319
タイヤ空気圧の設定..... 320
タコメーター.....70

ち

チェーン.....274
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け50
シートベルトでの固定 48
選択方法 39
チャイルドプロテクター.....92
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
警告灯 358
操作 140

つ

ツール（工具）.....326, 373

て

提案機能.....80
ディスプレイ
マルチインフォメーションディスプレイ
.....74
デイタイムランニングランプ..... 146
手入れ
外装 306
シートベルト.....309
内装 309
ホイール・ホイールキャップ.....306
レーダー 164
テールランプ（尾灯）
ランプスイッチ..... 145
電気モーター.....53, 57
電球（バルブ）
交換 339
点検基準値（メンテナンスデータ）.398
電子キー.....86
節電機能 97

電池の交換 335
電子制御ブレーキシステム（ECB）.261

と

ドア
アウターミラー..... 109
オートドアロック・アンロック機能..... 92
チャイルドプロテクター 92
ドアガラス 111
ドアロックスイッチ..... 92
ロック 89
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 242
安心降車アシスト..... 232
格納のしかた..... 110
ブラインドスポットモニター（BSM）217
盗難防止装置
イモビライザーシステム 61
オートアラーム..... 62
時計 70
トップテザーアンカレッジ..... 51
ドライバー異常時対応システム 215
ドライビングポジション
パワーイージーアクセスシステム..... 114
ポジションメモリー..... 115
ドライビングポジションメモリー ... 114
メモリーコール機能..... 116
ドライブモードセレクトスイッチ ... 260
トラクションコントロール（TRC）.262
トランク..... 93
オープナー 94
トランク内装備..... 292
トランク内部リリースレバー 95
トランクランプ..... 95
ワイヤレスリモコン..... 95
トランクランプ 95
トランスミッション
S モード..... 138
ハイブリッドトランスミッション..... 136
パドルシフトスイッチ 138

な

内装
手入れ 309

に

ニーエアバッグ..... 31

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）..... 394

ね

燃費
エネルギーモニター 81
燃料
給油 157
種類 398
燃料計 70
燃料残量警告灯 354
容量 398
燃料計 70

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 257
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 258
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）..... 255
パーキングブレーキ 140
..... 358

警告メッセージ……142
未解除走行時警告ブザー……142
排気ガス……37
ハイビーム（ヘッドランプ）
オートマチックハイビーム……149
ランプスイッチ……145
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード……134
運転のアドバイス……271
エネルギーモニター……81
オーバーヒート……391
回生ブレーキ……54
ガス欠になったとき……57
緊急時の停止方法……344
緊急停止システム……60
駆動用電池冷却用吸入口……60
警告メッセージ……60
高電圧部位……57
サービスプラグ……57
先読みエコドライブ……55
事故が発生したとき……58
始動できないときは……382
始動方法……129
車両接近通報装置……55
充電……54
注意……57
特徴……53
特有の音と振動……54
パワー（イグニッション）スイッチ……129
補機バッテリーがあがった……386
メンテナンス・修理・廃車するとき……55
ハイブリッドシステムインジケーター……72
ハイブリッドトランスミッション……136
シフトポジションの切りかえ……137
パドルシフトスイッチ……138
ハザードランプ（非常点滅灯）……343
挟み込み防止機能
パワーウインドウ……111
発炎筒……343
発進遅れ告知機能……196
バッテリー（駆動用電池）
充電について……54
搭載位置……57
冷却用吸入口……60
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯……353
補機バッテリーがあがった……386
パドルシフトスイッチ……138
バニティ（化粧用）ミラー……302
バニティミラーランプ……302
パワーイージーアクセスシステム……114
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ……113
操作……111
ドアロック連動ドアガラス開閉機能……112
挟み込み防止機能……111
パワーコントロールユニット……57
パワースイッチ……129
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）
自動電源 OFF 機能……133
モードの切りかえ……132
パワーステアリング……262
警告灯……354
パンクした
タイヤ空気圧警告灯……355
タイヤパンク応急修理キット装着車……372
番号灯（ライセンスプレートランプ）
ランプスイッチ……145
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整……107
ステアリングヒーター……284
パワーイージーアクセスシステム……114
ポジションメモリー……115

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....261
ヒーター
アウターミラー（ドアミラー）.....279
オートエアコン.....278
シートヒーター.....284
ステアリングヒーター.....284
非常点滅灯
緊急ブレーキシグナル.....262
非常点滅灯（ハザードランプ）.....343
尾灯（テールランプ）
ランプスイッチ.....145
ヒューズ.....337
表示灯.....67
ヒルスタートアシストコントロール262

ふ

フォグランプ.....152
ランプスイッチ.....152
ブザー
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....206
手放し運転警告（LTA）.....183
ドライバーモニター.....170
半ドア走行時警告.....92
フック
買い物フック.....292
けん引フック.....348
コートフック.....303
フロアマット固定フック.....24
フューエルリッド（給油口）
給油口が開かない.....384
給油のしかた.....157
ブラインドスポットモニター（BSM）.....217
プラスサポート.....266
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能.....172
PCS 警告灯.....355
ブレーキ
回生ブレーキ.....54
緊急ブレーキシグナル.....262
警告灯.....352
パーキングブレーキ.....140
メンテナンスデータ.....400
ブレーキアシスト.....261
ブレーキフルード.....400
ブレーキホールド.....143
フロアマット.....24
フロントシート
シートヒーター.....284
シートポジションメモリー.....114
正しい運転姿勢.....25
調整.....102
手入れ.....309
ドライビングポジションメモリー.....114
パワーイージーアクセスシステム.....114
ヘッドレスト.....104
ポジションメモリー.....115
メモリーコール機能.....116
フロント方向指示灯
方向指示レバー.....139

へ

ヘッドランプ
マニュアルレベリングシステム.....148
ライトセンサー.....147
ランプスイッチ.....145
ヘッドレスト.....104

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....325

メンテナンスデータ....400
ホイールボルトレンチ....326
方向指示灯
方向指示レバー....139
ホーン（警音器）....107
補機バッテリー
補機バッテリーがあがった....386
保証....9
ボトルホルダー....290
ボンネット....312

ま

マイセッティング....117
マルチインフォメーションディスプレイ....74
運転支援機能情報表示....76
エコアクセルガイド....78
エコジャッジ....78
オーディオシステム連携....79
警告メッセージ....360
タイヤ空気圧....317
メーター操作スイッチ....75

み

ミラー
アウターミラー....109
インナーミラー....108
ドアミラー....109
バニティミラー....302
ミラーヒーター....279

め

メーター
明るさの調整....74
計器類....70
警告灯....352
警告メッセージ....360
時計....70
ハイブリッドシステムインジケーター....72
表示灯....67
マルチインフォメーションディスプレイ....74
メーター操作スイッチ....75
メンテナンスデータ....398

も

モーター（電気モーター）....57

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能....401
雪道ですべって動けない（スタックした）....394
油脂類....398

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
ランプスイッチ....145
ラゲージマット....293
ラジエーター
オーバーヒート....391
メンテナンスデータ....399
ランプ
インテリアランプ....287
オートマチックハイビーム....149
室内灯....286
トランクランプ....95
パーソナルランプ....287
バニティミラーランプ....302
非常点滅灯（ハザードランプ）....343
フォグランプ....152
ヘッドランプ（前照灯）....145

方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....139
ライトセンサー.....147

り

リヤウインドウデフォッガー.....279
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....242
リヤシート.....103
ヘッドレスト.....104
リヤ席シートベルト非着用警告灯...355
リヤ方向指示灯
方向指示レバー.....139

る

ルームミラー（インナーミラー）.....108

れ

冷却水
冬の前の準備.....273
メンテナンスデータ.....399
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート.....391
メンテナンスデータ.....399
レーダークルーズコントロール
接近警報.....206
レーダー.....163
レーンディパーチャーアラート（LDA）.....186
レーントレーシングアシスト（LTA）.....181
レバー
シフト.....136
トランク内部リリースレバー.....95
方向指示.....139
ボンネット解除.....312

ろ

ロードサインアシスト (RSA).....198
ロック
スマートエントリー&スタートシステム.....96
ドア.....89
ワイヤレスリモコン.....87

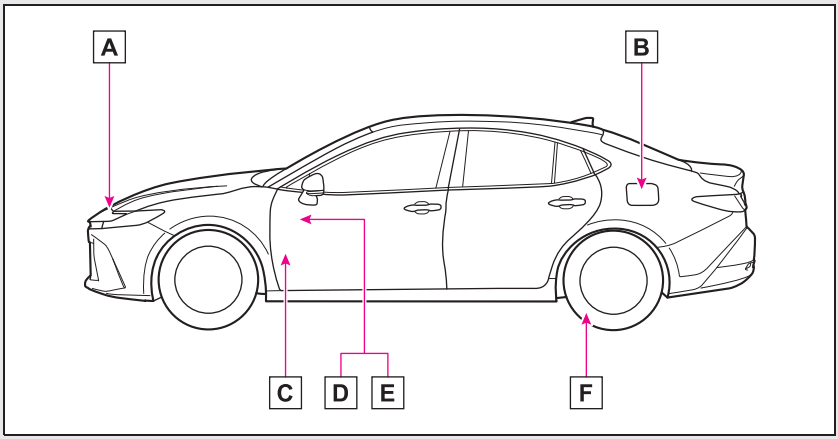
わ

ワイパー&ウォッシャー.....152
ウォッシャー液の補充.....315
ワイパー停止位置の切りかえ.....155
ワイヤレス充電器.....295
ワイヤレスリモコン
節電機能.....97
操作.....87
電池の交換.....335
半ドア警告ブザー.....90
ワックス.....306

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- オーディオ
- ナビゲーションシステム
- 駐車支援システム
- ハンズフリー
- T-Connect
- ETC システム

ガソリンスタンドでの情報



A ボンネットフック (→P.312)

B 給油口 (→P.158)

C ボンネット解除レバー (→P.312)

D トランクオープナー (→P.94)

E 給油口オープナー (→P.158)

F タイヤ空気圧 (→P.400)

燃料の容量（参考値）	49.3 L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリンのみ	P.398
タイヤが冷えているときの空気圧		P.400
エンジンオイル容量（参考値）		P.398
エンジンオイルの種類	“Toyota Genuine Motor Oil” または同等品	P.398

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォーム
によるお問い合わせ

チャットによる
お問い合わせ

手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp



Publication No. M06331V
01-2610
カムリ